

2022.12.27 作成

2022 年 12 月新聞書評に掲載された本



カタニア先生は、キモい生きものに夢中!〜その不思議な行動・進化の謎をとく〜

Kenneth Catania 著

化学同人

スーパー科学者・カタニア先生は、「キモい」生きものを面白おかしく、そして魅力的に描く。ヒゲミズヘビ、小さなトガリネズミ、ゾンビを作る“宝石バチ”。かれらの行動の背後にある謎に光を当てる。

産経新聞 2022/12/03

2022:8 / 6p,265p

978-4-7598-2081-2

¥2,530〔税込〕



9 784759 820812



祈り

藤原新也 著

クレヴィス

写真家、そして作家、画家、書道家として時代と向き合い続ける藤原新也。これまでの道程と根幹に流れる人への思いを「祈り」というテーマに込めた写真集。初期から2020年までの作品と全文書き下ろしの文章を収録。

産経新聞 2022/12/03

2022:7 / 300p

978-4-909532-79-4

¥2,970〔税込〕



9 784909 532794



孤立宇宙

熊谷 達也 著

講談社

小惑星の衝突で環境が破壊され、人類は他の星へ移住するものと、世界各地のシェルターで生き残りをはかるものとにわかれた。そんな中、正体不明の遭難者が助けを求めてきて…。『小説現代』掲載に書き下ろしを加え単行本化。

産経新聞 2022/12/04

2022:8 / 467p

978-4-06-528637-1

¥2,310〔税込〕



9 784065 286371

- ご注文の際には、タイトル・出版社名・価格のほか、ISBN も併せてお知らせください。
- 原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文、ご照会は弊社本・支店・営業部(課)までお申し付けください。
- 表示価格は2022年12月時点での税込み価格です。



幾千年の声を聞く

青羽悠 著

中央公論新社

世界の中心に聳える巨大な「木」。人々は枝の上に家を建て、各地から人が集まり、やがて国ができ、文明が生まれた。だが、他国から「木」のもとを訪れた学者は、それが本来地球には存在しえないものと気がつき…。

産経新聞 2022/12/04

2022:10./ 355p
978-4-12-005583-6

¥1,870〔税込〕



ちいさいフクロウとクリスマスツリー〜ほんとうにあったおはなし〜

ジョナ・ウィンター 著

鈴木出版

クリスマスツリーにするため、切り倒された大きな木。そこには、小さいフクロウが住んでいました。フクロウは木の穴に入ったまま、ニューヨークのど真ん中に運ばれ…。2020年にアメリカでほんとうにあったおはなし。

産経新聞 2022/12/04

2022:10./ 31p
978-4-7902-5435-5

¥1,650〔税込〕



老害の人

内館 牧子 著

講談社

双六やカルタの製作販売会社の前社長・戸山福太郎は、娘婿に社長を譲ってからも現役に固執して出勤し、同じ手柄話をくり返す。彼の仲間も老害の人ばかり。福太郎の娘・明代はある日、たまりかねて腹の中をぶちまけ…。

産経新聞 2022/12/04

2022:10./ 355p
978-4-06-529924-1

¥1,760〔税込〕



有事、国民は避難できるのか〜「ウクライナ戦争」から日本への警鐘〜

日本安全保障戦略研究所 著

国書刊行会

「戦争」から目を背けてきた日本人に大きな衝撃を与えたロシアのウクライナ軍事侵攻。民間防衛のない日本は本当に安全・安心なのか。日本国民を戦争被害から保護する民間防衛体制のあり方を、緊急提言する。

産経新聞 2022/12/04、読売新聞 2022/12/25

2022:10./ 326p
978-4-336-07392-1
¥2,970〔税込〕



十三夜の焰

月村 了衛 著

集英社

幣原喬十郎はある夜、男女の死体を発見する。その傍らには涙を流す男が…。十三夜の湯島で出会った幕府の番方・喬十郎と闇社会で生きる千吉。20年以上にわたる2人の因縁を描く。『小説すばる』連載を改題し単行本化。

産経新聞 2022/12/04、日本経済新聞 2022/12/24

2022:10./ 338p
978-4-08-771812-6
¥1,980〔税込〕





時代劇が前衛だった～牧野省三、衣笠貞之助、伊藤大輔、伊丹万作、山中貞雄～

古賀重樹 著

淡交社

日本映画の黎明期、若者たちが京都に集まり、実験的な技法とみずみずしい感覚で映画を作った。牧野省三など5人の名匠たちの、今見ても古びていない前衛的な作品の魅力に迫る。『日本経済新聞』連載を改稿、再構成。

産経新聞 2022/12/10

2022:10./ 207p
978-4-473-04523-2

¥2,640〔税込〕



木曜殺人クラブ 二度死んだ男(HAYAKAWA POCKET MYSTERY BOOKS 1985)

リチャード・オスマン 著

早川書房

消えたダイヤとスパイ、凶悪な犯罪者たち…。老人探偵グループ<木曜殺人クラブ>のメンバーは、死んだはずの英国諜報員から受け取った手紙により、国際的な大事件に巻き込まれ…。謎解きミステリ。

産経新聞 2022/12/10

2022:11./ 507p
978-4-15-001985-3

¥2,310〔税込〕



世界のニュースを日本人は何も知らない<4> 前代未聞の事態に揺らぐ価値観 (ワニブックス|PLUS|新書 370)

谷本 真由美 著

ワニブックス

最新「日本愛」事情、ロシア・ウクライナ戦争の反応、安倍元首相の本当の評価、世界各国でも広まっていない外国人参政権…。元国連職員の著者が、日本のマスコミが報道しない「世界のニュース」を紹介する。

産経新聞 2022/12/10

2022:12./ 271p
978-4-8470-6683-2

¥990〔税込〕



萩原朔太郎詩集(にほんの詩集)

萩原朔太郎 著

角川春樹事務所

人間の感情のすみずみに響きわたる言葉で、人生や故郷を想う気持ちをうたいあげ、その後の詩の歴史に大きな影響を与えた萩原朔太郎。日本を代表する叙情詩人の名詩選集。井坂洋子の巻末エッセイ付き。

産経新聞 2022/12/11

2022:5./ 158p
978-4-7584-1403-6

¥1,980〔税込〕



恋愛名歌集(岩波文庫 31-062-4)

萩原 朔太郎 著

岩波書店

古典和歌こそ日本語の最上の詩と唱え、抒情詩の真髄は恋愛歌とした、近代詩の巨人・萩原朔太郎による日本古典論。「万葉集」から「新古今和歌集」まで、抒情性、韻律に優れた愛吟歌を選び、独自の評釈を付す。

産経新聞 2022/12/11

2022:6./ 269p
978-4-00-310624-2

¥704〔税込〕





子宮

盛 可以 著

河出書房新社

「これは子宮の戦争なのよ」 祖母、祖母に仕えた母、五人姉妹と弟の妻、その娘たちまで、湖南省益陽の農村に生まれた初家の四世代の女たちが、“生命最初の繁殖地”をめぐり翻弄される激動の運命を描く。

産経新聞 2022/12/11

2022:10./ 300p
978-4-309-20869-5
¥3,080〔税込〕



ブラックアウト〜迫り来る電力危機の正体〜

井伊重之 著

ビジネス社

電力自由化、再エネ拡大、脱炭素の制度設計に失敗した政府は、自滅的なエネルギー政策をまだ続けるのか？ 迫りくる電力危機の正体を明らかにし、大規模停電の到来を想定した電力インフラの強靱化を提唱する。

産経新聞 2022/12/11

2022:11./ 239p
978-4-8284-2459-0
¥1,760〔税込〕



ゾンビ 3.0

石川 智健 著

講談社

1 日目、世界中でゾンビが発生。新宿区の予防感染研究所に、40 人ほどが閉じ込められ、厚生省から原因究明の要請。外から一条という刑事も加わり…。6 日目、7 日目を経て、ゾンビに覆いつくされたこの世界に審判が下される！

産経新聞 2022/12/11

2022:10./ 314p
978-4-06-528589-3
¥1,650〔税込〕



暁斎絵本

日野原健司 著

青幻舎

幕末から明治にかけて、狩野派でありながら浮世絵も描いた絵師・河鍋暁斎。木版の画譜をまとめた「絵本」から魅力ある 224 図を厳選し、全図に解説をつけて掲載する。澤田瞳子による寄稿も収録。

産経新聞 2022/12/11

2022:10./ 286p
978-4-86152-903-0
¥1,760〔税込〕



ウクライナ戦争の教訓と日本の安全保障

神余 隆博／松村 五郎 著

東信堂

なぜウクライナ戦争は止められなかったか。日本の防衛はどうすればよいのか。ウクライナで起きている事態を、外交と軍事の両面から徹底分析。日本の安全保障への教訓をポリティコミリタリーの視点から明らかにする。

産経新聞 2022/12/11

2022:11./ 14p,281p
978-4-7989-1807-5
¥1,980〔税込〕





萩原朔太郎大全

朔太郎大全実行委員会 編
朔太郎大全実行委員会 著
春陽堂書店

「月に吠える」「青猫」といった詩集をはじめ、数多くの書籍を残し、いまなお読者を魅了し続ける萩原朔太郎。100枚を超える写真や、吉増剛造、川島幸希ら20人以上の寄稿とともに、朔太郎の魅力の源泉にせまる。

産経新聞 2022/12/11

2022:11./ 271p
978-4-394-19031-8
¥2,640〔税込〕



童話でわかるプロジェクトマネジメント～PMBOK 対応～ 第2版

飯田 剛弘 著
秀和システム

段取り、ゴール設定術、仲間術、信頼構築術…。プロジェクトマネジメントの基本的な考え方を、桃太郎やシンデレラといった童話を通じてわかりやすく解説する。いっけん難解な用語や考え方がスラスラ理解できる本。

産経新聞 2022/12/17

2022:11./ 447p
978-4-7980-6862-6
¥1,870〔税込〕



プリズン・ドクター(新潮新書 975)

おおたわ 史絵 著
新潮社

女性医師は、刑務所のお医者さんになって「天職」を見出した。薬物依存症だった母との関係に思いを馳せ、医師人生を振り返りつつ、受刑者たちの健康と矯正教育の改善のために奮闘する日々を綴る。

産経新聞 2022/12/17

2022:11./ 284p
978-4-10-610975-1
¥968〔税込〕



将棋・棋士の素顔～知られざる千駄ヶ谷の魔境～(マイナビ新書)

青野 照市 著
マイナビ出版

棋界に現れた天才棋士・藤井聡太、にぎやかだった昭和の対局室、江戸時代から続く棋戦「名人戦」…。現役最年長棋士の青野照市九段が、棋士や将棋界について語る。『夕刊フジ』連載等を加筆修正。

産経新聞 2022/12/18

2022:6./ 295p
978-4-8399-8061-0
¥935〔税込〕



きょうりゅうバスでがっこうへ

リウ・スーユエン 著
世界文化社

スパック小学校のバスは、きょうりゅうくん。大喜びの子どもたちを乗せて、愉快に学校へ向かいます。でも、なんだか大変なことになって…。きょうりゅうバスシリーズ第2弾。ジャケット裏に、学校への行き方ポスターあり。

産経新聞 2022/12/18

2022:11./ 1冊(ページ付なし)
978-4-418-22841-6
¥1,430〔税込〕





このゲームにはゴールがない〜ひとの心の哲学〜

古田 徹也 著

筑摩書房

幼稚園に通う娘が、卵焼きの味についての本音を隠していた。その瞬間、娘は父にとって不透明になった。ウィトゲンシュタインとスタンリー・カヴェル。ふたりの哲学者の議論を手掛かりに、ひとの心に迫る。

産経新聞 2022/12/18

2022:10./ 295p,2p
978-4-480-84327-2

¥2,090〔税込〕



旅行鞆のガラクタ

伊集院 静 著

小学館

ヤンキースタジアムのレインコート、三峽下りの川原の三峽石、歓喜の丘のマツカサ、ナイロビの木工職人の椅子…。作家・伊集院静が旅先から持ち帰ってきた品々への思い出を綴る。全日空機内誌『翼の王国』連載を加筆、再編集。

産経新聞 2022/12/24

2022:12./ 189p
978-4-09-388883-7

¥1,870〔税込〕



人類の物語〜ヒトはこうして地球の支配者になった〜

ユヴァル・ノア・ハラリ、リカル・ザプラナ・ルイズ 著

河出書房新社

人間はライオンより強かった！日本人のご先祖さまはアフリカ出身！大昔にはいろいろな種類の人間がいた！人類の歴史をたどり、祖先が手にいれた、地球を支配できるほどのスーパーパワーの秘密を明らかにする。

産経新聞 2022/12/25

2022:11./ 165p
978-4-309-62931-5

¥1,760〔税込〕



下妻物語〜ヤンキーちゃんとロリータちゃん〜(小学館文庫)

嶽本 野ばら 著

小学館

四方八方田んぼだらけの茨城県下妻。そんな田舎で浮きまくりのバリバリロリータ少女・桃子は、大好きなお洋服欲しさに始めた個人販売で、これまた時代遅れなバリバリヤンキー少女・イチゴと出会う。見た目も趣味も全く違うこの二人。わかり合えるはずはないのに、やがて不思議な友情が芽生えて……。ギャグぶっちぎり！思いっきり笑ってほんのり泣ける爆走青春ストーリー。あの「温泉卓球」コマーシャルを撮った CF ディレクター・中島哲也氏が自ら監督を名乗り出た素敵な素敵な映画化原作！

朝日新聞 2022/12/03

2004:3./ 315p
978-4-09-408023-0

¥660〔税込〕





夜のピクニック(新潮文庫)

恩田 陸 著

新潮社

高校生活最後を飾るイベント「歩行祭」。それは全校生徒が夜を徹して 80 キロ歩き通すという、北高の伝統行事だった。甲田貴子は密かな誓いを胸に抱いて、歩行祭にのぞんだ。三年間、誰にも言えなかった秘密を清算するために。学校生活の思い出や卒業後の夢など語らいつつ、親友たちと歩きながらも、貴子だけは、小さな賭けに胸を焦がしていた。本屋大賞を受賞した永遠の青春小説。

朝日新聞 2022/12/03

2006:9./ 455p
978-4-10-123417-5
¥825〔税込〕



土 改版(新潮文庫 な-2-1)

長塚 節 著

新潮社

茨城県地方の貧農勤次一家を中心に、小作農の貧しさとそれに由来する貪欲、狡猾、利己心、また彼らをとりかこむ自然の風物、年中行事などをリアルな筆致で克明に描いた、農民文学の記念碑的名作。

朝日新聞 2022/12/03

2013:9./ 447p
978-4-10-105401-8
¥737〔税込〕



僕たちの戦争 新装版(双葉文庫 お-23-07)

荻原 浩 著

双葉社

"根拠なしポジティブ"の現代のフリーターと、昭和 19 年の「海の若鷺」にあこがれる軍国青年が時空を超えて入れ替わった!それぞれの環境に順応しつつも、ふたりはなんとか元の時代に戻ろうとするが……。未来を知る者と、過去を知る者。ふたりの「19 歳」を通して描く、あの時代、あの戦争。

朝日新聞 2022/12/03

2016:8./ 474p
978-4-575-51911-2
¥834〔税込〕



渡良瀬(新潮文庫 さ-28-7)

佐伯 一麦 著

新潮社

昭和の終焉も間近なざわついた空気の中、28 歳の南條拓は茨城県西部の町にある配電盤製造工場で働き始めた。新天地を求め、妻と幼子を伴い移住してきたのだ。慣れぬ仕事を覚え、懸命に根を張ろうとする拓だったが...

朝日新聞 2022/12/03

2017:7./ 516p
978-4-10-134217-7
¥825〔税込〕



ある町の高い煙突(文春文庫 に 1-45)

新田 次郎 著

文藝春秋

煙害撲滅を粘り強く訴えた若者と、世界一高い煙突を建てて、住民との共存を目指した企業の決断。足尾や別子の悲劇を日立鉱山では繰り返さない。今日の CSR(企業の社会的責任)の原点を描いた 1968 年の力作。

朝日新聞 2022/12/03

2018:3./ 372p
978-4-16-791036-5
¥825〔税込〕





絶対悲観主義(講談社+α 新書 854-1C)

楠木 建 著

講談社

心配するな、きつとうまくいかないから~。絶対悲観主義の著者による、成功の呪縛から自由になるための本。フツオの人たちのために、厳しいようで緩い仕事の哲学を伝える。日立 Web マガジン連載を加筆し書籍化。

朝日新聞 2022/12/03

2022:6./ 232p
978-4-06-528932-7

¥990〔税込〕



台湾の少年<1> 統治時代生まれ

游 珮芸 / 周 見信 著

岩波書店

1930 年、日本統治時代の台湾に生まれた蔡焜霖は、教育者になることを夢見て育つ。戦後、国民党政権による支配が始まるが、ある日町役場で働く焜霖のもとへ憲兵が訪ねてきて…。白色テロの深い傷を描く台湾の歴史コミック。

朝日新聞 2022/12/03

2022:7./ 169p
978-4-00-061545-7

¥2,640〔税込〕



台湾の少年<2> 収容所島の十年

游 珮芸 / 周 見信 著

岩波書店

1950 年、無実の罪で逮捕された蔡焜霖は、激しい拷問に遭い、自白を強要され、政治犯として離島に送られる。そして 10 年間、強制労働に従事し、「再教育」を受け…。白色テロの深い傷を描く台湾の歴史コミック。

朝日新聞 2022/12/03

2022:7./ 189p
978-4-00-061546-4

¥2,640〔税込〕



加賀百万石の侯爵陸軍大将・前田利為〜1885-1942〜

村上 紀史郎 著

藤原書店

加賀前田家の歴代当主で唯一の養子であり、更に侯爵、そして陸軍軍人という立場を背負って明治から昭和を生きた前田利為。その驚くべき交友関係と異色の業績、前田家の舵取りに尽くした手腕に初めて迫る。

朝日新聞 2022/12/03

2022:9./ 527p
978-4-86578-356-8

¥5,280〔税込〕



セロトニン(河出文庫 ウ 6-5)

ミシェル・ウエルベック 著

河出書房新社

巨大化学企業を退社し、農業関係の仕事に携わる 46 歳のフロランは、恋人の日本人女性ユズの秘密をきっかけに<蒸発者>となる…。過去に愛した女性の記憶と呪詛を交えて、現代社会の矛盾と絶望を描く。

朝日新聞 2022/12/03

2022:9./ 370p
978-4-309-46760-3

¥1,210〔税込〕





埴輪〜古代の証言者たち〜(角川ソフィア文庫 I166-1)

若狭 徹 著

KADOKAWA

巫女、武人、力士、ムササビ…。博物館で人気を集める多彩な造形の埴輪たち。定番の名品を含め、3世紀中頃～6世紀終わり頃に造られた埴輪をカラー写真をふんだんに用いて紹介。造形美、細部の見方、楽しみ方を解説する。

朝日新聞 2022/12/03

2022:9./ 241p
978-4-04-400649-5

¥1,364〔税込〕



わたしは「ひとり新聞社」〜岩手県大槌町で生き、考え、伝える〜

菊池 由貴子 著

亜紀書房

東日本大震災後、岩手県大槌町の町民に町の情報を知らせたいという思いからスタートした『大槌新聞』。二度の心停止と離婚の挫折を抱えた内気な著者が、震災を契機にひとりで小さな新聞を創刊し書き続けた10年間の奮闘記。

朝日新聞 2022/12/03

2022:9./ 259p
978-4-7505-1767-4

¥1,980〔税込〕



台湾の少年<3> 戒厳令下の編集者

游 珮芸／周 見信 著

岩波書店

1960年、ようやく釈放された蔡焜霖は幼馴染の「きみこ」と再会し、結婚する。やがて漫画雑誌の編集者となると、新たなアイデアを次々と実現するが…。白色テロの深い傷を描く台湾の歴史コミック。

朝日新聞 2022/12/03

2022:10./ 183p
978-4-00-061547-1

¥2,640〔税込〕



平成司法改革の研究〜理論なき改革はいかに挫折したのか〜

須網 隆夫 著

岩波書店

平成の司法改革から20年。裁判員制度など、矢継ぎ早に行われた諸改革はなぜうまくいかなかったのか。多彩な分野の研究者やジャーナリスト、実務家が結集し、「失敗の原因」を検証。それを踏まえて新たな改革提言を行う。

朝日新聞 2022/12/03

2022:9./ 19p,375p
978-4-00-024728-3

¥4,950〔税込〕



僕の樹には誰もいない

松村 雄策 著

河出書房新社

音楽評論家・松村雄策が闘病中にタイトルを決め、刊行を進めていた10冊目のエッセイ集。ビートルズをはじめとしたミュージシャンへの思いや、身近雑記など収録する。『ロッキング・オン』掲載を書籍化。

朝日新聞 2022/12/03

2022:10./ 292p
978-4-309-03077-7

¥2,200〔税込〕





ピエタとトランジ(講談社文庫 ふ 83-2)

藤野 可織 著

講談社

天才的な頭脳を持つ女子高生探偵トランジと、助手に名乗り出たピエタ。トランジは事件を誘発させる体質で、次から次に周囲で人が死んでいく。あるとき、トランジに秘められた事実が明らかになり-。

朝日新聞 2022/12/03

2022:10./ 330p
978-4-06-529580-9

¥792〔税込〕



ドナーで生まれた子どもたち～「精子・卵子・受精卵」売買の汚れた真実～

ナショナル ジオグラフィック 編

サラ・ディングル 著

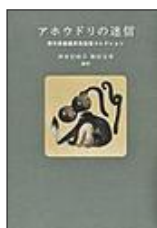
日経ナショナルジオグラフィック社

27歳で、自身がドナーで生まれた子であると知った著者が、「第三者の生殖細胞から誕生した人間」と「人間を繁殖させること」について綴った科学ノンフィクション。不妊治療と生殖ビジネスの深い闇を暴く。

朝日新聞 2022/12/03

2022:9./ 485p
978-4-86313-537-6

¥2,420〔税込〕



アホウドリの迷信～現代英語圏異色短篇コレクション～(SWITCH LIBRARY)

岸本佐知子／柴田元幸 著

スイッチ・パブリッシング

「端っこの変なところ」を偏愛するふたりの翻訳家が、心躍る“掘り出し物”だけを厳選したアンソロジー。「最後の夜」「野良のミルク」「引力」など全10編を掲載。対談「競訳余話」も収録する。

朝日新聞 2022/12/03

2022:9./ 227p
978-4-88418-594-7

¥2,640〔税込〕



生き物をうさがみそーれー～沖縄・奄美おじいおばあ食物誌～

盛口満 著

八坂書房

ソーメン料理を作るコツ、琉球王国の珍味、機械油のテンプラの思い出、パパイヤの伝統料理、毒ヘビ料理...。琉球列島のおじいおばあから聞き集めた食べ物にまつわる話を、著者の専門である生き物の話とつなげて紹介する。

朝日新聞 2022/12/03

2022:10./ 283p
978-4-89694-335-1

¥2,090〔税込〕



ゲノムの子～世界と日本の生殖最前線～(集英社新書 1139)

石原 理 著

集英社

2020年のノーベル化学賞受賞により改めて注目されたゲノム編集。長年生殖医療に携わってきた産婦人科医が、世界各国の専門家と直接対話し、ゲノム編集とその未来をどう理解すべきかをわかりやすく解説する。

朝日新聞 2022/12/03

2022:11./ 217p
978-4-08-721239-6

¥1,034〔税込〕





私の半分はどこから来たのか～AID 非配偶者間人工授精で生まれた子の苦悩～

大野和基 著

朝日新聞出版

AID(非配偶者間人工授精)で生まれた人の多くが、「生物学上の父」を探し求める。「出自を知る権利」をめぐる取り組みや法制度、世界最大の「精子バンク」の最新動向などをルポ。『AERA』等掲載に加筆・修正。

朝日新聞 2022/12/03

2022:11./ 173p
978-4-02-251873-6

¥1,760〔税込〕



みんなが手話で話した島(ハヤカワ文庫 NF 594)

ノーラ・エレン・グロース 著

早川書房

アメリカ・ボストンの南に位置するマーサズ・ヴィンヤード島。遺伝性の聴覚障害のある人が多いこの島では、誰もがごく普通に手話を使って話していた。障害、言語、共生社会とは何か深く考えさせるフィールドワーク。

朝日新聞 2022/12/03、読売新聞 2022/12/11

2022:10./ 292p
978-4-15-050594-3

¥1,188〔税込〕



ジョン・デューイ～民主主義と教育の哲学～(岩波新書 新赤版 1945)

上野 正道 著

岩波書店

教育とは何かを問い、人びとがともに生きる民主主義のあり方を探究し実践した、アメリカを代表する思想家デューイ。広範な学問分野にわたる思想をデューイ研究の第一人者が丹念に読み解き、今日的意義を展望する。

朝日新聞 2022/12/03、読売新聞 2022/12/18

2022:10./ 8p,246p,13p
978-4-00-431945-0

¥990〔税込〕



永遠年輕

温 又柔 著

講談社

林由起子には、林美伶と林圭一という同じ苗字を持つ友人がいた。やがて圭一と美伶が付き合うようになり、3人の関係に変化が…。「国籍」と「国語」のはざまで生きる「私たち」を描いた3編の物語。『群像』掲載等を単行本化。

朝日新聞 2022/12/03、読売新聞 2022/12/25

2022:10./ 140p
978-4-06-529372-0

¥1,595〔税込〕



岡上淑子・藤野一友の世界

岡上 淑子、藤野 一友 著

河出書房新社

自由と神話、意志とファンタジー。同じ時代と時間を共有しながら、それぞれに夢の世界を創り上げたコラージュ作家・岡上淑子と、幻想画家・藤野一友の軌跡を追う。2022～23年福岡市美術館で開催の展覧会公式図録。

朝日新聞 2022/12/03、読売新聞 2022/12/25

2022:11./ 157p
978-4-309-25691-7

¥2,970〔税込〕





物語とトラウマ〜キア・フェミニズム批評の可能性〜

岩川ありさ 著

青土社

9人の作家たちが20世紀から21世紀に入って発表した小説を読解。トラウマ的な出来事について、聴くことと語ること、読むことと書くことの関係性について明らかにし、新たな対話の回路を見出すための文学研究。

朝日新聞 2022/12/03、日本経済新聞 2022/12/03、読売新聞 2022/12/25

2022:10./ 475p,5p

978-4-7917-7500-2

¥3,960〔税込〕



捜査線上の夕映え(火村シリーズ)

有栖川 有栖 著

文藝春秋

ありふれた事件のはずだった。「俺が名探偵の役目を果たせるか、今回は怪しい」。火村を追い詰めた、不気味なジョーカーの存在とは。『別冊文藝春秋』連載を加筆修正して単行本化。

朝日新聞 2022/12/10

2022:1./ 459p

978-4-16-391484-8

¥1,980〔税込〕



田中陽希日記〜日本3百名山ひと筆書き〜

田中 陽希 著

平凡社

鹿児島県屋久島から北海道利尻島まで。プロアドベンチャーレーサーの田中陽希が、徒歩とスキー、シーカヤックのみで日本3百名山を踏破した、前人未到の壮大な挑戦を写真とともに綴る。共同通信社の配信などをまとめ書籍化。

朝日新聞 2022/12/10

2022:8./ 279p

978-4-582-83897-8

¥2,200〔税込〕



われら闇より天を見る

クリス・ウィタカー 著

早川書房

自称「無法者」の少女ダッチェスと、過去に囚われた警察署長ウォーク。彼女たちの町では30年前、ひとりの少女が命を落とす事件が起きた。事件で逮捕された男が刑期を終えて町に帰ってくると、新たな悲劇が...

朝日新聞 2022/12/10

2022:8./ 518p

978-4-15-210157-0

¥2,530〔税込〕



名探偵のいけにえ〜人民教会殺人事件〜

白井 智之 著

新潮社

病気も怪我也も存在せず、失われた四肢さえ甦る、奇蹟の楽園ジョーデントاون。調査に赴いたまま戻らない助手を探しに教団に乗り込んだ探偵・大崎は、次々と不審な死に遭遇する。探偵は論理を武器に、カルトの妄信に立ち向かう。

朝日新聞 2022/12/10

2022:9./ 409p

978-4-10-353522-5

¥2,090〔税込〕





1795(小学館文庫 ナ 1-3)

ニクラス・ナット・オ・ダーグ 著

小学館

1795年のストックホルム。戦場帰りの風紀取締官カルデルと、亡き相棒の弟エミルは、自らの善意が招いた惨劇にうちのめされていた。一方、追い詰められた“怪物”は…。北欧ミステリー「1793」「1794」の続編。

朝日新聞 2022/12/10

2022:10./ 586p
978-4-09-407148-1

¥1,364〔税込〕



縄文論

安藤礼二 著

作品社

なぜわれわれはこのような在り、このように思考し、このように表現しているのか。芸術の起源にして社会の起源に立ち還り、人間の思考と表現の在り方を相対化しつつ新たな創造と思索の地平を切り拓く。

朝日新聞 2022/12/10

2022:11./ 330p
978-4-86182-930-7

¥2,970〔税込〕



楽園とは探偵の不在なり(ハヤカワ文庫 JA 1538)

斜線堂 有紀 著

早川書房

2人以上殺したものは“天使”によって即座に地獄に墮とされるようになった世界。探偵・青岸焦は大富豪・常木王凱に誘われ、天使が集まる常世島を訪れる。そこで彼を待っていたのは、起きるはずのない連続殺人事件だった。

朝日新聞 2022/12/10

2022:11./ 392p
978-4-15-031538-2

¥880〔税込〕



温泉百名山

飯出 敏夫 著

集英社インターナショナル

名山は名湯を育む! 北海道から九州まで、温泉達人が名湯のある名山を 100 座選定。山といで湯に癒され、病も克服した山湯行の全記録。「歩いてしか行けない温泉」は何湯ある?」など番外編も収録。

朝日新聞 2022/12/10

2022:10./ 223p
978-4-7976-7419-4

¥2,420〔税込〕



子供はあなたの所有物じゃない

呉曉樂 著

光文社

高価な服飾品自慢をする陳君の家は、裕福だが複雑な事情がある。男尊女卑の強い家庭に生まれたジャスミンは、兄との明らかな差別に悩み…。9つの家の歪んだ親子関係の実態を描く家族小説。Netflix 配信ドラマの原作。

朝日新聞 2022/12/10

2022:10./ 337p
978-4-334-91493-6

¥1,980〔税込〕





火喰鳥を、喰う(角川ホラー文庫 は4-1)

原 浩 著

KADOKAWA

信州で暮らす久喜雄司に届けられた「死者の日記」。そこには太平洋戦争末期に戦死した大伯父の、生への執着が書き記されていた。その日を境に、久喜家の周辺で異常現象が起こり、雄司は超常現象に詳しい北斗総一郎を頼るが....。

朝日新聞 2022/12/10

2022:11./ 338p
978-4-04-112744-5
¥792〔税込〕



ハートフル・ラブ(文春文庫 い66-6)

乾 くるみ 著

文藝春秋

大学生の克己は実習グループの紅一点である亜紀に好意を抱く。他の男子も彼女を狙っていると知り、一歩引いていた克己だが、亜紀から思わぬ誘いがあって-。驚愕の結末が待ち受ける超絶ミステリ全7篇。

朝日新聞 2022/12/10

2022:12./ 329p
978-4-16-791975-7
¥902〔税込〕



ジェンダーレスの日本史～古典で知る驚きの性～(中公新書ラクレ 779)

大塚ひかり 著

中央公論新社

メイク男子に将軍女子、トランスジェンダー兄妹...!? 日本の古典文学には、男女の境があいまいな話が数多く存在する。太古の神話から平安文学、江戸川柳まで、古典作品を通じて伝統的な男らしさ・女らしさの嘘を解き明かす。

朝日新聞 2022/12/10

2022:11./ 246p
978-4-12-150779-2
¥990〔税込〕



魔女～女性たちの不屈の力～

モナ・ショレ 著

国書刊行会

中世の魔女狩りの跡をたどり、女性が背負わされた負の歴史と現在の状況を検証。女性の独立や疎外、加齢、上下関係など多彩なテーマを扱いながら、「女性蔑視」という現実社会の災厄に抗議する。

朝日新聞 2022/12/10

2022:10./ 319p
978-4-336-07334-1
¥2,640〔税込〕



なぜ理系に女性が少ないのか(幻冬舎新書 よ-10-1)

横山広美 著

幻冬舎

高等教育機関における理系分野の女性の学生の割合が OECD 諸国では最下位の日本。女子生徒の理科・数学の成績は世界でもトップクラスなのに、なぜ理系を選択しないのか。綿密なデータ分析からその理由を明らかにする。

朝日新聞 2022/12/10

2022:11./ 234p
978-4-344-98676-3
¥1,034〔税込〕





宗教の行方～現代のための宗教十二講～

八木 誠一 著

法蔵館

情報化により「生」を見失った現代。いまこそ宗教は、情報化されえない宗教的眞実を、現代に通じる言葉で語る時である。宗教回復への道を示す 12 講。2020 年 10 月～2021 年 9 月に行ったオンライン講座の記録。

2022:9./ 380p
978-4-8318-1061-8

¥3,520〔税込〕



朝日新聞 2022/12/10、朝日新聞 2022/12/24



この父ありて～娘たちの歳月～

梯 久美子 著

文藝春秋

石牟礼道子、茨木のり子、田辺聖子…。戦中・戦後の激動の時代、“書く”という困難な道を選んだ 9 人の女性たち。唯一無二の父娘関係が生んだ、しなやかで力強い彼女たちの生き様を描く。

2022:10./ 277p
978-4-16-391609-5

¥1,980〔税込〕



朝日新聞 2022/12/10、東京・中日新聞 2022/12/11、読売新聞 2022/12/18、朝日新聞 2022/12/24



夢の砦～二人でつくった雑誌「話の特集」～

和田 誠、矢崎 泰久 著

ハモニカブックス

雑誌が世の中の“面白いこと”をリードしていた時代に創刊された代表的存在『話の特集』。＜自分たちが読みたい雑誌＞を追い求めた矢崎泰久と和田誠の若き日々をたぐり寄せ、当時の記事を再録し、時代の記憶を掘り起こす。

2022:10./ 269p
978-4-907349-27-1

¥2,310〔税込〕



朝日新聞 2022/12/10、東京・中日新聞 2022/12/18



人類学者がのぞいた北朝鮮～苦難と微笑の国～

鄭炳浩 著

青土社

高圧的な官僚、空腹で国境をさまようコッチェビ、故郷を恋しがる脱北者-。なぜか れらは苦しみの中でも微笑むのか。韓国の文化人類学者が、現地の経験から得た豊富なエピソードと分析から、知られざる北朝鮮の実態を描き出す。

2022:9./ 377p,2p
978-4-7917-7393-0

¥3,520〔税込〕



朝日新聞 2022/12/10、日本経済新聞 2022/12/10



精神病理学私記

H.S. サリヴァン 著

日本評論社

精神科医サリヴァンが生前に唯一書き下ろした著作。個人精神病理学から対人関係論へとその思想を発展させていった著者が、人格の成長、児童期、前青春期、男性青春 期と同性愛、探索面接などを、自身の生活歴も交えて考察する。

2019:10./ 19p,372p
978-4-535-98468-4

¥6,050〔税込〕



朝日新聞 2022/12/17



差別はたいてい悪意のない人がする～見えない排除に気づくための 10 章～

キム ジヘ 著

大月書店

差別を差別として認識できない「悪意なき差別主義者」はいかにつくられるのか、どのように差別が不可視化され「正当な差別」として偽装されるのかを考察。そして、差別にどう向き合うかを検討する。

朝日新聞 2022/12/17

2021:8./ 245p,10p
978-4-272-33103-1

¥1,760〔税込〕



トランス男性によるトランスジェンダー男性学

周司 あきら 著

大月書店

性別移行後の実生活に根差して「男性」の範疇でトランス男性をとらえ直すとともに、トランス男性を含むマイノリティ男性の存在を想定していない「男性学」に対して、当事者の視点から新たな見方を提起する。

朝日新聞 2022/12/17

2021:12./ 223p
978-4-272-35056-8

¥2,200〔税込〕



気狂いピエロ(新潮文庫 ホ-23-1)

ライオネル・ホワイト 著

新潮社

おれはキッチンテーブルの椅子にすわって、ノートに文章をしたためる。アリーというたぐいなき魅力を秘めた娘との出会い、見知らぬ男の死体、白いジャガー、逃亡の旅…。一人の男の妄執を描いたゴダール映画の原作を本邦初訳。

朝日新聞 2022/12/17

2022:5./ 302p
978-4-10-240191-0

¥693〔税込〕



ギャンブラーが多すぎる(新潮文庫 ウ-26-1)

ドナルド・E・ウェストレイク 著

新潮社

タクシー運転手チェットは大のギャンブル好き。ノミ屋のトミーを訪ねると、彼は撃ち殺されていた。容疑者にされたうえ2つのギャング組織から追われることになったチェットは、トミーの妹と組んで真犯人を探すことに…。

朝日新聞 2022/12/17

2022:8./ 441p
978-4-10-240231-3

¥880〔税込〕



小さなことばたちの辞書

ピップ・ウィリアムズ 著

小学館

辞典編纂者の父が勤める写字室で、エズメは「ボンドメイド(はしため)」という単語が書かれたカードを見つけ…。女性参政権運動と第一次大戦に揺れる激動の時代、「捨てられたことば」の蒐集に生涯を捧げた女性を描く。

朝日新聞 2022/12/17

2022:10./ 526p
978-4-09-356735-0

¥3,300〔税込〕





スクイズ・プレー(新潮文庫 オ-9-101)

ポール・ベンジャミン 著

新潮社

キャリアの絶頂時に交通事故で片足を失い、今は議員候補と目される元大リーガーのチャップマンに脅迫状が届いた。彼から依頼を受けた私立探偵マックスは、殺意を匂わす文面から、かつての事故にまで疑いを抱き…。

朝日新聞 2022/12/17

2022:9./ 395p
978-4-10-245119-9

¥880〔税込〕



アザラシ語入門～水中のふしぎな音に耳を澄ませて～(新・動物記 6)

水口 大輔 著

京都大学学術出版会

氷の下で交わされるアザラシたちの「会話」は謎だらけ。水族館に通い詰め、流氷の海に繰り出し、幾多の困難を乗り越えて「アザラシ語」の解明に挑んだ著者の奮闘記。アザラシの声が聞ける QR コード付き。

朝日新聞 2022/12/17

2022:10./ 207p
978-4-8140-0439-3

¥2,200〔税込〕



屈折くん(角川文庫 わ 19-1)

和嶋 慎治 著

KADOKAWA

「メンヘラ」でも「こじらせ」でもない、僕を作ったのは“屈折”だった-。怪奇派ロックバンド「人間椅子」の和嶋慎治による自伝。弘前が生んだ東北のトリックスターが、奇想天外な人生を明かす。みうらじゅんと対談も収録。

朝日新聞 2022/12/17

2022:9./ 252p
978-4-04-112920-3

¥880〔税込〕



永遠よりも少し短い日常～歌集～

荻原裕幸 著

書肆侃侃房

雨の鍵をあづけてあつた人が来て世はどこまでも紫陽花と雨 永遠とか言つてた口をとりかへもせず菜の花の Pasta を食べる 黒い日傘のなかからふいに旧姓をうちあけられてかるく驚く 340 首を収めた第 7 歌集。

朝日新聞 2022/12/17

2022:8./ 142p
978-4-86385-537-3

¥2,200〔税込〕



プロレタリア文学とジェンダー～階級・ナラティブ・インターセクショナル리티～

飯田 祐子／中谷 いずみ／笹尾 佳代 著

青弓社

階級という論点はいかにジェンダー化していたのか。大正から昭和初期までのプロレタリア文学をジェンダーの観点から読み解き、「階級闘争におけるインターセクショナル리티」を浮かび上がらせる。

朝日新聞 2022/12/17

2022:10./ 307p
978-4-7872-3514-5

¥4,400〔税込〕





うみべのストーブ〜大白小蟹短編集〜(torch comics)

大白小蟹 著

リード社

期待の新鋭、大白小蟹(おもしろこがに)・初単行本。生活から生まれた絵とことばが織りなす、珠玉の7篇。

2022:12./ 230p
978-4-8458-6143-9

¥880〔税込〕



朝日新聞 2022/12/17



サード・キッチン(河出文庫 し 31-1)

白尾 悠 著

河出書房新社

アメリカの大学に留学した尚美は、会話もままならず、友人もできずひとりぼっち。人間関係をあきらめ勉強だけに邁進していたある日、隣室のアンドレアとともに、さまざまなマイノリティが集まる、ある学生食堂に招かれて…。

2022:11./ 387p
978-4-309-41928-2

¥990〔税込〕



朝日新聞 2022/12/17



Forget it Not

阿部大樹 著

作品社

精神科医と翻訳家という、2つの筆致でこれまで書いてきた論文やエッセイなどの文章を、著者自身の注釈で振り返る。ゴンサロ・M・タヴァレスとの対談も収録。

2022:11./ 201p
978-4-86182-937-6

¥2,420〔税込〕



朝日新聞 2022/12/17



ヒッタイトに魅せられて〜考古学者に漫画家が質問!!〜

大村 幸弘／篠原 千絵 著

山川出版社

アナトリア(トルコ)の大地で未知の古代文明を発掘し続ける考古学者・大村幸弘に、漫画「天は赤い河のほとり」の作者・篠原千絵が質問! 大村の足跡とヒッタイト、ミタンニに関する考古学研究の秘話にせまる。

2022:11./ 285p
978-4-634-15190-1

¥1,980〔税込〕



朝日新聞 2022/12/17



トランスジェンダー問題〜議論は正義のために〜

ショーン・フェイ 著

明石書店

トランス女性である著者が、トランス嫌悪的な社会で生きるトランスジェンダーの現実を幅広い調査や分析によって明らかにする。事実に基づき社会変革に向けて開かれた議論を展開する一冊。

2022:9./ 431p
978-4-7503-5463-7

¥2,200〔税込〕



朝日新聞 2022/12/17



インドネシア独立への悲願～アミナ・M・ウスマン 108 歳の証言～

アミナ・マジッド・ウスマン長田周子／サルミヤ・マジッド・ウスマン 著
花伝社

スカルノとの捕虜交換、東条英機の仕組んだウスマン一家の日本幽閉…。日本軍スマトラ侵略の「本当の狙い」とは？インドネシア独立の志士マジッド・ウスマンを妻として支えた日本女性が、日本軍スマトラ占領計画秘史を語る。

朝日新聞 2022/12/17

2022:10./ 305p,7p
978-4-7634-2031-2

¥2,200〔税込〕



完全犯罪の恋(講談社文庫 た 122-2)

田中 慎弥 著
講談社

40 代後半、独身、恋愛経験は 4 度、それもここ数年途切れている。華やかさのない生活を送る作家・田中の前に、突然若い女が現れた。そこから高校時代の三角関係を痛みを伴って思い出す日々がはじまり…。

朝日新聞 2022/12/17

2022:11./ 166p
978-4-06-529853-4

¥649〔税込〕



映画夢情

佐藤千穂 著
書肆子午線

雑誌『映画芸術』編集部に入社し、1960 年代初めより映画への溢れる愛憎を自在闊達な思考と文体で書き継いできた佐藤千穂。その知られざる全容を集成。『映画芸術』他掲載を書籍化。

朝日新聞 2022/12/17

2022:10./ 671p
978-4-908568-32-9

¥5,280〔税込〕



失踪願望。<コロナふらふら格闘編>

椎名 誠 著
集英社

後遺症、進む老い、進まない原稿、募る一方の失踪願望。78 歳の椎名誠のサイアクときどきサイコウのある 1 年の記録。「新型コロナウイルス感染記」も収録。集英社学芸編集部ウェブサイト連載に書き下ろしを加え単行本化。

朝日新聞 2022/12/17

2022:11./ 285p
978-4-08-781724-9

¥1,760〔税込〕



「美食地質学」入門～和食と日本列島の素敵な関係～(光文社新書 1230)

巽 好幸 著
光文社

蕎麦を育む火山、出汁を支える山脈、日本酒と地球の大変動…。多彩な和食が生まれた理由は日本列島にある!? 「和食」と「日本列島の地質」の意外で素敵な関係を、マグマ学者が丁寧に紐解く。

朝日新聞 2022/12/17

2022:11./ 290p
978-4-334-04637-8

¥946〔税込〕





宇宙の終わりに何が起るのか～最新理論が予言する「5つの終末シナリオ」～(ブルーバックス B-2218)

ケイティ・マック 著

講談社

最新の物理学は「宇宙の最期」をどう考えているのか。宇宙全体が収縮し、つぶれて終わるビッグクランチか。あるいは、膨張の末、活動を停止する熱的死か…。気鋭の研究者が5つのシナリオを徹底解説する。

朝日新聞 2022/12/17

2022:11./ 374p
978-4-06-530270-5
¥1,540〔税込〕



逃亡者(幻冬舎文庫 な-39-2)

中村 文則 著

幻冬舎

不慮の死を遂げた恋人と自分を結ぶトランペットを持ち、逃亡するジャーナリストの山峰。彼が偏愛するそれは、第二次大戦中のある作戦で伝説となり、“悪魔の楽器”と呼ばれていた。ゆえに欲する者達が世界中にいて…。

朝日新聞 2022/12/17

2022:11./ 584p
978-4-344-43242-0
¥957〔税込〕



装幀百花～菊地信義のデザイン～(講談社文芸文庫 き L1)

水戸部 功 編

菊地 信義 著

講談社

装幀デザインの革新者・菊地信義がライフワークとして手がけた35年間の講談社文芸文庫より121点を精選した決定版作品集。文字デザインの豊饒なる可能性を解きあかす。

朝日新聞 2022/12/17

2022:12./ 158p
978-4-06-530022-0
¥2,420〔税込〕



南洋のソングライン～幻の屋久島古謡を追って～

大石 始 著

キルティ

江戸時代のある時期から屋久島の生活のさまざまな場面で歌われるようになり、戦後はごく少数の島民しか歌えなかった幻の古謡「まつばんだ」。海の民が伝えた屋久島古謡の謎を追うノンフィクション。

朝日新聞 2022/12/17、日本経済新聞 2022/12/17

2022:11./ 295p
978-4-99107927-6
¥2,640〔税込〕



人は話し方が9割～1分で人を動かし、100%好かれる話し方のコツ～

永松 茂久 著

すばる舎

話し方をちょっと変えるだけで、仕事もプライベートも大きく好転する! 「あなた」を多用して自分のファンを作る、肩書き・立場によって話し方を変えないなど、楽しく会話できる「とっておきの秘訣」を紹介する。

朝日新聞 2022/12/24

2019:9./ 238p
978-4-7991-0842-0
¥1,540〔税込〕





20代で得た知見

F 著
KADOKAWA

人生は、忘れがたい断片にいくつ出会い、心を動かされたかで決まる-。2017 年刊「いつか別れる。でもそれは今日ではない」の著者が「20代で得た知見」として、時代を生き抜くのに必要なこと、愛に纏わることなどを綴る。

朝日新聞 2022/12/24

2020:9./ 285p
978-4-04-604799-1
¥1,430〔税込〕



70歳が老化の分かれ道～若さを持続する人、一気に衰える人の違い～(詩想社新書 35)

和田秀樹 著
詩想社

「最後の活動期」をどう過ごすかで、老化は遅くなる! 30 年以上にわたり高齢者医療の現場に携わってきた著者が、要介護を遠ざけ、自立した晩年をもたらす 70 代の健康術、医療との付き合い方などを紹介する。

朝日新聞 2022/12/24

2021:6./ 188p
978-4-908170-31-7
¥1,100〔税込〕



聖域

コムドット やまと 著
KADOKAWA

動画は常に「急上昇」、挑戦を止めず常に突っ走る。YouTube グループ「コムドット」のリーダー・やまとは何を考え、行動し、この場所を進んでいるのか。夢を掴む突き抜けた考え方、燃える生き方について綴る。

朝日新聞 2022/12/24

2021:8./ 191p 図版 16p
978-4-04-680581-2
¥1,430〔税込〕



挑戦～常識のブレーキをはずせ～

藤井 聡太／山中 伸弥 著
講談社

まだ誰も見たことのない景色を見るために-。年齢も活躍する分野も大きく異なるノーベル賞受賞研究者と若き天才棋士が、勝負のあり方から若返りの可能性、人工知能の未来、人間の可能性までを語り合う。

朝日新聞 2022/12/24

2021:12./ 189p
978-4-06-526914-5
¥1,540〔税込〕



ミトンとふびん

吉本 ばなな 著
新潮社

たいせつなひとの死、癒えることのない喪失を抱えて生きていく-。今日もまわりつづける地球上でめぐりゆく出会いと、ちいさな光に照らされた人生のよろこびを描いた短篇集。『新潮』等掲載を単行本化。

朝日新聞 2022/12/24

2021:12./ 253p
978-4-10-383412-0
¥1,760〔税込〕





AI 監獄ウイグル

ジェフリー・ケイン 著

新潮社

顔と声を記録する「健康検査」、DNA 採取、移動・購入履歴ハッキング、密告アプリ、そして AI が「信用できない人物」を選ぶ…。少女の危険な逃避行を軸に、「デジタルの牢獄」と化したウイグルの恐るべき実態を描き出す。

朝日新聞 2022/12/24

2022:1./ 333p
978-4-10-507261-2
¥2,420〔税込〕



チェルノブイリ〜「平和の原子力」の闇〜

アダム・ヒギンボタム 著

白水社

ソヴィエトで最も安全で進んだ原発と言われたチェルノブイリ。構造的な欠陥をはらんだ誕生から、1986 年 4 月の事故の経緯、未曾有の放射能汚染、人間の心身に残した傷まで、膨大な取材と調査を通じ、災厄の全体像に迫る。

朝日新聞 2022/12/24

2022:2./ 465p,154p 図
版 16p
978-4-560-09887-5
¥5,720〔税込〕



トゥアレグ〜自由への帰路〜

デコート豊崎アリサ 著

イースト・プレス

自らを「自由な人々」と自負する、サハラ砂漠の遊牧民トゥアレグ。彼らの生き方に惹かれ、日本、フランス、アフリカを行き来しながら長年取材をして見えてきた、トゥアレグの実態と魅力を綴る。写真も多数掲載。

朝日新聞 2022/12/24

2022:3./ 422p 図版 16
枚
978-4-7816-2067-1
¥2,420〔税込〕



戦後日本の夜間中学〜周縁の義務教育史〜

江口 怜 著

東京大学出版会

新制中学誕生から 1970 年代初頭まで、「学校に通えない」子、「通えなかった」大人を包含しようとしつづけた夜間中学。忘却された戦後日本の教育と社会の周縁の歴史を、夜間中学という対象を通して描き出す。

朝日新聞 2022/12/24

2022:3./ 13p,651p,41p
978-4-13-056235-5
¥13,200〔税込〕



女子サッカー選手のエスノグラフィー〜不安定な競技実践形態を生きる〜

申恩真 著

春風社

女性がサッカー選手として生きることは、どんな生活を選択することになるのか。彼女たちはどんな困難を抱えながら競技を実践しているのか。女子サッカーチーム内部でのフィールドワークから、選手たちのリアリティを描き出す。

朝日新聞 2022/12/24

2022:2./ 230p,14p
978-4-86110-795-5
¥4,400〔税込〕





悪いがん治療～誤った政策とエビデンスがどのようにがん患者を痛めつけるか～

ヴィナイヤク・プラサード 著

晶文社

人びとのがん治療のとらえ方を歪めさせ、<悪いがん治療>に導いてしまう要因とは何か？ 患者にとっての真の利益とは何か？ 現役の腫瘍内科医が医薬品開発・医薬品行政の根本的な問題を明らかにし、がん医療の未来を考える。

朝日新聞 2022/12/24

2022:1./ 399p,25p,5p
978-4-7949-7293-4

¥3,520〔税込〕



花嫁のアメリカ 完全版(論創ノンフィクション 019)

江成常夫 著

論創社

母国日本を離れ、海を渡った「戦争花嫁」は、夫の国アメリカをどう受け止めたのか。言葉や食生活の違い、人種の差別…。1978年とその20年後の取材を通して、戦争花嫁たちの数奇な運命をたどる。写真も多数掲載。

朝日新聞 2022/12/24

2022:3./ 646p
978-4-8460-2098-9

¥3,960〔税込〕



プリズン・サークル

坂上 香 著

岩波書店

受刑者が互いの体験に耳を傾け、本音で語りあう更生プログラムをもつ男子刑務所がある。日本で初めて「塙の中」を長期撮影した著者が、「語ること」の繊細なプロセスを伝えるノンフィクション。『世界』連載をもとに単行本化。

朝日新聞 2022/12/24

2022:3./ 22p,278p
978-4-00-061526-6

¥2,200〔税込〕



性的人身取引～現代奴隷制というビジネスの内側～(世界人権問題叢書 108)

シンドハース・カーラ 著

明石書店

売春宿、マッサージ店、街角…。世界のあらゆる国の都市や農村に赴いて身の危険を冒しながら現場での潜入調査を試み、またシェルターで何百人もの被害女性たちにインタビューを行い、性的人身取引という巨大産業の実相に迫る。

朝日新聞 2022/12/24

2022:2./ 421p
978-4-7503-5344-9

¥4,400〔税込〕



わたしが先生の「ロリータ」だったころ～愛に見せかけた支配について～

アリソン・ウッド、服部 理佳 著

左右社

26歳の英文学教師は、17歳のわたしにナボコフの名作を重ね合わせた。数々の作品で描かれてきた「大人の男と少女の恋愛」という図式の不健全さを暴き、少女が自らの知性でそこから逃れるまでを綴ったノンフィクション。

朝日新聞 2022/12/24

2022:2./ 333p
978-4-86528-068-5

¥2,420〔税込〕





活動芸術論

卯城竜太 著
イースト・プレス

いまやアクション(活動芸術)あるのみ! Chim↑Pom の元リーダー・卯城竜太が、芸術
における「アクション」という表現形態と、社会全体にみられる「個と公」の関係を
を主題に、自身にまつわる実践を論じる。

朝日新聞 2022/12/24

2022:7./ 571p,8p
978-4-7816-2064-0
¥3,520〔税込〕



ザ・ソングライターズ(SWITCH LIBRARY)

佐野元春 著
スイッチ・パブリッシング

「私たちはなぜ歌を書くのか」 佐野元春が、小田和正やさだまさしら 24 人のソング
ライターに訊く。対話を通して「音楽詩」の諸相を探り、創造的なソングライティン
グの本質に迫った、立教大学での連続講座を書籍化。

朝日新聞 2022/12/24

2022:3./ 853p 図版 5
枚
978-4-88418-585-5
¥5,280〔税込〕



日本の国会議員～政治改革後の限界と可能性～(中公新書 2691)

濱本 真輔／濱本 真輔 著
中央公論新社

見えにくい国会議員の活動・役割。人材、選挙、政策形成、価値観、資金、国際比較
など、あらゆる観点から国会議員の実態をデータに基づいて描く。多くの問題と原因
を指摘し、日本政治に何が必要か、改革の方向性を示す。

朝日新聞 2022/12/24

2022:4./ 7p,282p
978-4-12-102691-0
¥990〔税込〕



マイホーム山谷

末並 俊司 著
小学館

東京・山谷にあるホームレスの人のためのホスピス施設「きぼうのいえ」。創設者で
施設長だった山本雅基は、現在解任され介護を<受ける側>に-。ドヤ街で「理想のケ
ア」を追い求めた男の栄光と挫折を記したノンフィクション。

朝日新聞 2022/12/24

2022:5./ 245p
978-4-09-388857-8
¥1,650〔税込〕



沖縄のことを聞かせてください

宮沢和史 著
双葉社

沖縄戦の鎮魂歌「島唄」から 30 年-。「島唄」を制作・発表した音楽家・宮沢和史
が、自身の沖縄への思いを綴り、具志堅用高、又吉直樹などそれぞれの「沖縄」を生
きる 10 人と対話する。

朝日新聞 2022/12/24

2022:4./ 492p
978-4-575-31714-5
¥2,420〔税込〕





ヤバイ神～不都合な記事による旧約聖書入門～

トーマス・レーマー 著

新教出版社

旧約聖書には、神が残酷で好戦的で横暴だという印象を与える記述が少なくない。多くの人が疑問を抱くテキストを旧約聖書学の第一人者が取り上げ、それらの表現の意味と理由を考察し、神の真の「人柄」に迫る。

朝日新聞 2022/12/24

2022:3./ 252p
978-4-400-11908-1

¥2,420〔税込〕



ベイルート 961 時間～とそれに伴う 321 皿の料理～

関口 涼子 著

講談社

戦争の傷跡が色濃く残る街で、わたしは人々に食べ物の話を聞く。多彩な声と仕草で語られる物語は、万華鏡のように街の肖像を描き出す。ベイルート、パリ、東京を往還しながら紡ぐ、多様性に満ちた「食」の思考。

朝日新聞 2022/12/24

2022:4./ 278p
978-4-06-526077-7

¥1,760〔税込〕



画廊と作家たち～双ギャラリー～

塚本 豊子 著

新潮社

朝日新聞 2022/12/24

2022:3./ 221p
978-4-10-910212-4

¥1,650〔税込〕



日本国憲法の普遍と特異～その軌跡と定量的考察～

ケネス・盛・マッケルウェイン 著

千倉書房

75 年間、1 文字も変わらなかった世界的に稀有な日本国憲法。世界の憲法との比較から、日本国憲法の普遍と特異を考察し、その意義と不思議を問い、改正論議に示唆を与える。

朝日新聞 2022/12/24

2022:6./ 10p,221p
978-4-8051-1121-5

¥3,520〔税込〕



それで君の声はどこにあるんだ?～黒人神学から学んだこと～

榎本 空 著

岩波書店

「この愛は闘いだぞ。わかるか?」 27 歳の私はマンハッタンにあるユニオン神学校の門を叩いた。教室にさざめくハレルヤ、仲間たちの叫び…。黒人神学の泰斗、ジェイムズ・H・コーンのもとで学んだ日々を振り返る。

朝日新聞 2022/12/24

2022:5./ 9p,207p
978-4-00-023745-1

¥2,200〔税込〕





フェミニズムってなんですか?(文春新書 1361)

清水 晶子 著

文藝春秋

フェミニズムとは何か。フェミニズムは何を主張し、何をしてきたのか。性と身体、性暴力、結婚、スポーツ、インターセクショナルリティなど様々なトピックで考える。Web サイト『VOGUE CHANGE』連載を加筆修正。

朝日新聞 2022/12/24

2022:5./ 251p
978-4-16-661361-8

¥1,078〔税込〕



「暴力」から読み解く現代世界(U.P.plus)

伊達 聖伸／藤岡 俊博 編

東京大学出版会

香港の大規模デモ、ミャンマー国軍のクーデターによる民衆への弾圧、ロシア・プーチン政権によるウクライナ侵攻など、世界を覆っている暴力。これらの暴力を生み出している構造を解き明かす。

朝日新聞 2022/12/24

2022:6./ 201p
978-4-13-033304-7

¥2,750〔税込〕



死刑について

平野 啓一郎 著

岩波書店

死刑を存置することで、社会は何を失うのか。「生」と「死」をめぐり真摯に創作を続けてきた小説家が、自身の体験を交え根源から問う。2019 年開催の大阪弁護士会主催の講演をもとに書籍化。

朝日新聞 2022/12/24

2022:6./ 6p,124p,7p
978-4-00-061540-2

¥1,320〔税込〕



さすらう地(韓国文学セレクション)

キム・スム 著

新泉社

スターリン体制下のソ連で突然、中央アジアへの移住を強いられた朝鮮半島出身者たち。行き先不明の貨車の中で語られる人々の声を物語に昇華させ、悲哀に満ちた時間を歩んできた「高麗人」の悲劇を繊細に描く。

朝日新聞 2022/12/24

2022:6./ 309p
978-4-7877-2221-8

¥2,530〔税込〕



「日本列島改造論」と鉄道 161

小牟田 哲彦 著

交通新聞社

1972 年 6 月に刊行された「日本列島改造論」で、日本における鉄道の重要性を説いた田中角栄。「鉄道が地域開発に果たす先導的な役割はきわめて大きい」と言い、赤字路線も肯定し続けた角栄が現在の日本に与えたものに迫る。

朝日新聞 2022/12/24

2022:6./ 207p
978-4-330-03022-7

¥990〔税込〕





子どもに学ぶ言葉の認知科学(ちくま新書 1667)

広瀬 友紀 著

筑摩書房

「これ食べたら死ぬ?」「のび太 vs. のび太」...。子どものヘンテコな答えや言葉遣いの背後にある、子どもや人間一般の心の働き、認知のしくみ、言葉の性質について楽しく学べる書。『web ちくま』連載を大幅に加筆修正。

朝日新聞 2022/12/24

2022:7./ 234p
978-4-480-07493-5

¥946〔税込〕



ドレスデン爆撃 1945～空襲の惨禍から都市の再生まで～

シンクレア・マッケイ 著

白水社

第二次世界大戦末期、「エルベ河畔のフィレンツェ」と称されたドイツ東部の都市ドレスデンは英米軍の爆撃で灰燼に帰した。都市の歴史、普通の人々の体験をもとにした爆撃の惨状など、都市の破壊と再生を描く。口絵写真も収録。

朝日新聞 2022/12/24

2022:8./ 381p,36p 図版
24p

978-4-560-09446-4

¥4,730〔税込〕



人物で学ぶ日本古代史<1> 古墳・飛鳥時代編

新古代史の会 編

吉川弘文館

人物を通して古代史を読みとく。1 は、卑弥呼、ヤマトタケル、聖徳太子ら、おなじみの人物から、教科書にも出てこないようなマイナーな人物まで、気鋭の研究者がわかりやすく解説する。

朝日新聞 2022/12/24

2022:8./ 8p,265p
978-4-642-06874-1

¥2,090〔税込〕



SHO-TIME～大谷翔平メジャー120年の歴史を変えた男～

ジェフ・フレッチャー 著

徳間書店

ショウヘイの本質は、野球そのものと試合を可能な限り楽しもうとする姿勢にある。全米が驚嘆した大谷の凄さと秘密を、1460 日間密着した番記者が徹底解明する。

朝日新聞 2022/12/24

2022:7./ 366p 図版 16p
978-4-19-865497-9

¥1,980〔税込〕



ワシントン～共和国の最初の大統領～(世界史リブレット人 60)

中野 勝郎 著

山川出版社

ワシントンはなぜ革命的な政体の大統領に就任したのか。ワシントンの身の処し方・公務の果たし方にふれることで、独立したアメリカが目指した共和政とはどのような特質をもっていたのかを考察する。

朝日新聞 2022/12/24

2022:8./ 87p
978-4-634-35060-1

¥880〔税込〕





怖い家～伝承、怪談、ホラーの中の家の神話学～

沖田 瑞穂 著

原書房

家には一体何が「いる」？ 今昔物語集、白雪姫のこびとの家、屋敷神、天空の城ラピュタ、奇子…。神話や昔話から現代のフィクションまで、家をめぐる恐怖が表すものは何なのかを、神話学から読み解く。

朝日新聞 2022/12/24

2022:8./ 229p
978-4-562-07202-6

¥2,530〔税込〕



ウンコの教室～環境と社会の未来を考える～(ちくまプリマー新書 409)

湯澤 規子 著

筑摩書房

汚くて恥ずかしいものとして嫌われがちなウンコですが、生産や消費と同じように、人生には欠かせません。ウンコを取り上げ、未来や社会、環境、そして生きることについて考えます。

朝日新聞 2022/12/24

2022:8./ 220p
978-4-480-68434-9

¥924〔税込〕



キツネ潰し～誰も覚えていない、奇妙で残酷で間抜けなスポーツ～

ナショナル ジオグラフィック 編

エドワード・ブルック＝ヒッチング 著

日経ナショナルジオグラフィック社

ヨーロッパ貴族が行っていた残酷な遊び、人々のうっぴんを晴らすような暴力的な試合、失われてしまった古のスポーツ…。素朴すぎる昔の遊びから、野蛮で愚かな競り合いまで、98の残念なスポーツを紹介する。

朝日新聞 2022/12/24

2022:8./ 318p
978-4-86313-551-2

¥2,200〔税込〕



日本のカーニバル戦争～総力戦下の大衆文化 1937-1945～

ベンジャミン・ウチヤマ 著

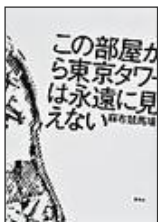
みすず書房

総力戦下で国民のガス抜きは不謹慎になり、メディアも煽って「カーニバル化」し、それをまた国民は酔うように消費した。具体例をあげながら、戦時の大衆の素顔に新しい角度から迫る。

朝日新聞 2022/12/24

2022:8./ 15p,385p,23p
978-4-622-09523-1

¥4,620〔税込〕



この部屋から東京タワーは永遠に見えない

麻布競馬場 著

集英社

丸の内のメーカーに就職後うつになって地元に戻った教師、学生時代に言われた「30まで独身だったら結婚しろw」が忘れられないアラサー女…。虚無と諦念の掌編集。

Twitter、note 掲載を単行本化。

朝日新聞 2022/12/24

2022:9./ 188p
978-4-08-788083-0

¥1,540〔税込〕





語学の天才まで1億光年

高野 秀行 著

集英社インターナショナル

インドで身ぐるみ剥がされ英語が上達、麻薬王のアジトでビルマ語学習…。学んだ言語は 25 以上。辺境ノンフィクション作家の超ド級語学体験記。語学上達のヒントも満載。note 連載を加筆し書籍化。

朝日新聞 2022/12/24

2022:9./ 334p
978-4-7976-7414-9

¥1,870〔税込〕



ウクライナ戦争日記～ロシアが攻めてきた日、すべてが変わってしまった。～

Stand With Ukraine Japan、左右社編集部 編

左右社

ロシアが攻めてきた日、すべてが変わってしまった-。占領下の惨めな生活、避難所に隠れ、爆弾や砲撃から延々と逃げまどう日々。不信感や怒り、落胆。戦争という非日常を生きるウクライナの 24 人のリアルを伝える戦争日記。

朝日新聞 2022/12/24

2022:7./ 318p
978-4-86528-091-3

¥1,980〔税込〕



私立探検家学園<1> はじまりの島で

斉藤倫 著

福音館書店

ようこそ。この先は、正解のないせかいです-。小学 5 年生の松田コロンは、「私立探検家学園」にかようことになった。そこは、探検家をめざすための、ちょっとふつうじゃない学校で…。

朝日新聞 2022/12/24

2022:10./ 228p
978-4-8340-8683-6

¥1,320〔税込〕



鉄道の歴史を変えた街 45～開業から現在まで、鉄道と縁の深い地をめぐる～

鼠入昌史 著

イカロス出版

その街の何が、鉄道に重大な影響を与えたのか。1872 年 10 月に開業した日本の鉄道。汐留、新宿、甲子園、豊橋など 45 か所の「鉄道の歴史を変えた街」を訪れ、出来事や街の歴史、知られざるエピソードなどを詳らかにする。

朝日新聞 2022/12/24

2022:10./ 287p
978-4-8022-1210-6

¥2,640〔税込〕



教養としての俳句(教養・文化シリーズ NHK 出版学びのきほん)

青木 亮人 著

N H K 出版

日本の伝統文芸として、数百年も受け継がれてきた俳句。なぜ生まれた？ 季語は必要？ 日本人として最低限おさえておきたい俳句の知識を解説する。俳句の歴史や特徴、有名句の読解など、全体像が 2 時間で分かる超・入門書。

朝日新聞 2022/12/24

2022:10./ 115p
978-4-14-407287-1

¥737〔税込〕





ソーシャル・イノベーション〜「社会を変える」力を見つけるには〜

ジェフ・マルガン 著

ミネルヴァ書房

欧米で最もポピュラーなソーシャル・イノベーションの基本テキスト。自らの実務家としての経験も踏まえ、今日の地球規模の「持続可能な社会」の問題について、ソーシャル・イノベーションが担う役割を解説する。

朝日新聞 2022/12/24

2022:10./ 8p,326p

978-4-623-09456-1

¥3,850〔税込〕



たびする木馬

牡丹靖佳 著

アリス館

遊園地の木馬のプラン。音楽がはじまるとまわりの景色がすうっと色の線にかわり、まるで背中の子とふたり、空を飛んでいるかのようで…。懸命に前を向いて走った木馬の長い長い物語。背景と馬の変化で物語が進む定点絵本。

朝日新聞 2022/12/24

2022:11./ 32p

978-4-7520-1023-4

¥1,760〔税込〕



戦後日本の抽象美術〜具体・前衛書・アンフォルメル〜

尾崎信一郎 著

思文閣出版

1950年代の関西の美術を、欧米に由来するモダニズム美術の一つの臨界として捉え直すことは可能か。長く学芸員を務める著者が国内外の展覧会カタログに寄稿した論文を通して、戦後日本の抽象美術の核心を浮かび上がらせる。

朝日新聞 2022/12/24

2022:10./ 517p

978-4-7842-2027-4

¥8,250〔税込〕



生きてりゃ踊るだろ

辻本 知彦 著

文藝春秋

18歳からダンスをはじめたハンディを乗り越えたトレーニング法、世界オーディションを突破したユニークな戦略…。異能のダンサー・振付家が、その半生や仕事の足跡を通して、ダンスの根源的な魅力と可能性について伝える。

朝日新聞 2022/12/24

2022:10./ 245p

978-4-16-391615-6

¥1,540〔税込〕



笑い神〜M-1、その純情と狂気〜

中村 計 著

文藝春秋

M-1とは何か。漫才とは何か。M-1決勝に9年連続で進出した笑い飯を追いながら、漫才師たちの「笑い」の発明と革新の20年を活写する。『週刊文春』掲載を大幅に加筆修正し単行本化。

朝日新聞 2022/12/24

2022:11./ 382p

978-4-16-391632-3

¥1,980〔税込〕





うまのこと(飛ぶ教室の本)

少年アヤ 著

光村図書出版

男の子でも、女の子でもない。ただの自分でありたい。主人公・うまの目線を通して、子どもたちの世界、大人たちの様子、そして学校という場所を描いた、自由を願うものがたり。児童文学総合誌『飛ぶ教室』掲載を書籍化。

朝日新聞 2022/12/24

2022:11./ 164p
978-4-8138-0420-8

¥1,760〔税込〕



サイバネティックスの革命家たち〜アジェンデ時代のチリにおける技術と政治〜

エデン・メディーナ 著

青土社

1970年代前半、チリの社会主義政権は、サイバネティックスで国家経済を統制するという未知の挑戦に乗り出した。その「サイバーシン計画」の実態を、関係資料や関係者への聞き取り調査から明らかにする。

朝日新聞 2022/12/24

2022:11./ 569p,33p
978-4-7917-7512-5

¥5,940〔税込〕



ジェイソン流お金の増やし方〜コレだけやれば貯まる!〜

厚切りジェイソン 著

ぴあ

なぜ日本人は投資をしないの? 約13年で FIRE(経済的自立と早期リタイア)を達成した芸人・厚切りジェイソンが、自身の投資法を解説。支出を減らす方法も紹介する。

朝日新聞 2022/12/24、日本経済新聞 2022/12/24

2021:11./ 191p
978-4-8356-4646-6

¥1,430〔税込〕



80歳の壁(幻冬舎新書 わ-1-3)

和田秀樹 著

幻冬舎

食べたいものを食べる、血圧・血糖値は下げなくていい、ガンは切らない、おむつを味方にする…。80歳からの人生、「生老病死」の大きな壁を越えていくヒントを紹介する。

朝日新聞 2022/12/24、日本経済新聞 2022/12/24

2022:3./ 226p
978-4-344-98652-7

¥990〔税込〕



中小企業金融の経済学〜金融機関の役割政府の役割〜

植杉 威一郎 著

日経BP社

中小企業金融が、必要な流動性を供給し効率的な資金配分を行っているかを、実証的に検証。企業や地域での資金配分の規模と効率性、政府の役割、貸出市場における金融機関の行動という側面に焦点を当てる。

朝日新聞 2022/12/24、日本経済新聞 2022/12/24

2022:6./ 7p,407p
978-4-296-11344-6

¥4,400〔税込〕





犬に話しかけてはいけない～内陸アラスカのマルチスピーシーズ民族誌～

近藤 祉秋 著

慶應義塾大学出版会

内陸アラスカではかつて「犬に話しかけてはいけない」という禁忌があった。フィールドワークを通してアラスカ先住民の人々と「自然環境」との関わりを描き、「自然との共生」を再考する。

朝日新聞 2022/12/24、毎日新聞 2022/12/24

2022:10./ 232p
978-4-7664-2845-2
¥2,640〔税込〕



あなたの小説にはたくらみがない～超実践的創作講座～(新潮新書 967)

佐藤 誠一郎 著

新潮社

小説の新人賞には「傾向と対策」が通用しない。では、入賞する作品としない作品の違いはどこにあるのか。古今東西の様々な名作から、作家たちの「たくらみ」を暴き、執筆の基礎からテクニックまで徹底解説する。

東京・中日新聞 2022/12/04

2022:9./ 207p
978-4-10-610967-6
¥858〔税込〕



中国パンダ外交史(講談社選書メチエ 773)

家永 真幸 著

講談社

蒋介石の対米工作、周恩来の日中国交回復、習近平の一带一路構想…。パンダの価値に気付いた中国政府が国際政治にパンダを利用し始めた過程を解説し、パンダがどのような役割を果たしているのか考察する。

東京・中日新聞 2022/12/04

2022:10./ 201p
978-4-06-529727-8
¥1,760〔税込〕



椎名林檎論～乱調の音楽～

北村 匡平 著

文藝春秋

規格外の才能を前に、我々は余りに言葉足らず過ぎた。歌詞から和音、構成、歌唱、意匠まで、椎名林檎の音楽を“感じ直し”、統合的・徹底的に論じ尽くす。『文藝界』連載を書籍化。

東京・中日新聞 2022/12/04

2022:10./ 389p
978-4-16-391606-4
¥2,200〔税込〕



レモン石鹸泡立てる(散文の時間 文学/エッセー)

東 直子 著

共和国/editorial republica

本のなかの世界は、永遠だ。多忙な日々のかたわらにあった本、大好きな作家や歌人たち、そして旅の思い出…。なつかしい風景がよみがえる、歌人・作家の東直子の書評&エッセイ集。

東京・中日新聞 2022/12/04

2022:10./ 253p
978-4-907986-60-5
¥1,980〔税込〕





お金に頼らず生きていたい君へ〜廃村「自力」生活記〜(14歳の世渡り術)

服部 文祥 著

河出書房新社

沢から水を引き、薪を集め、ソーラーで発電。夏は菜園、冬は狩猟…。山村の古民家で、ライフラインや食料を自給自足する暮らしを一から実践し、試行錯誤している登山家が、自身の体験を綴る。

東京・中日新聞 2022/12/11

2022:10./ 270p
978-4-309-61745-9

¥1,562〔税込〕



天路の旅人

沢木 耕太郎 著

新潮社

第二次大戦末期、中国大陸の奥深くまで「密偵」として潜入し、敗戦後もラマ僧に扮したまま未知なる世界を歩み続けた西川一三。その果てしない旅と人生を、彼の著作とインタビューをもとに描く。『新潮』掲載を単行本化。

東京・中日新聞 2022/12/11、読売新聞 2022/12/18、朝日新聞 2022/12/24

2022:10./ 574p
978-4-10-327523-7

¥2,640〔税込〕



進駐軍を笑わせろ!〜米軍慰問の演芸史〜

青木 深 著

平凡社

言葉の通じない遠い異国にやってきた米兵のために、娯楽を提供したのが、日本の芸人やダンサーや歌手だった。敵国だった彼らを前に、自身の身体と才覚とで鍛え上げた「芸」を披露し、戦後の混乱期を生き抜いた人々の姿を描く。

東京・中日新聞 2022/12/11、日本経済新聞 2022/12/17

2022:10./ 359p
978-4-582-83909-8

¥4,180〔税込〕



太陽の子〜日本がアフリカに置き去りにした秘密〜

三浦 英之 著

集英社

資源を求めた日本がアフリカ大陸に残したのは、巨大な開発計画の失敗とさび付いた採掘工場群。そしてコンゴ人女性との間に生まれた「太陽の子」だった-。経済成長期の間に迫るルポルタージュ。

東京・中日新聞 2022/12/18

2022:10./ 370p
978-4-08-781721-8

¥2,750〔税込〕



東京彰義伝

吉森 大祐 著

講談社

下町の名物湯屋「越前屋」の娘・佐絵と上野寛永寺の若き輪王寺宮の間には、知られざる深い絆があった-。江戸城無血開城から上野戦争へ。明治維新の歴史からこぼれ落ちた、秘められた恋の行方を描く。

東京・中日新聞 2022/12/18

2022:11./ 364p
978-4-06-529001-9

¥1,980〔税込〕





ヤジと民主主義

北海道放送報道部道警ヤジ排除問題取材班 著
ころから

2019年7月15日、札幌。街頭演説する安倍晋三総理にヤジを飛ばした人たちを、北海道警察が強制的に排除した。小さな自由が排除された先にあるのは-。事件の深層を地元放送局が追ったドキュメンタリー。

東京・中日新聞 2022/12/18

2022:11./ 271p
978-4-907239-65-7
¥1,980〔税込〕



コレラの時代の愛(Obra de García Márquez)

G.ガルシア=マルケス 著
新潮社

51年9ヶ月と4日、男は女を待ち続けていた…。コロンビアで内戦が疫病のように猖獗した時代を背景に、困惑と不安、記憶と期待がさまざまに交錯する。愛が愛であることの限界に、細緻かつ壮大に挑んだ長篇。

読売新聞 2022/12/04

2006:10./ 526p
978-4-10-509014-2
¥3,300〔税込〕



さらば国分寺書店のオババ

椎名 誠 著
三五館
読売新聞 2022/12/04

1993:3./ 269p
978-4-88320-008-5
¥1,281〔税込〕



火星の人～映画「オデッセイ」原作～<上> 新版(ハヤカワ文庫 SF 2043)

アンディ・ウィアー 著
早川書房

有人火星探査のクルーであるマークは、予期せぬ事故で一人、火星に取り残された。だが希望を捨てず、限られた食料・物資、自らの技術・知識を駆使して生き延びていく。2016年2月公開映画「オデッセイ」の原作。

読売新聞 2022/12/04

2015:12./ 319p
978-4-15-012043-6
¥704〔税込〕



火星の人～映画「オデッセイ」原作～<下> 新版(ハヤカワ文庫 SF 2044)

アンディ・ウィアー 著
早川書房

探査隊が到着する4年後まで生き延びるため、マークは火星で食物を栽培すべく対策を編みだしていく。一方、彼の生存を確認したNASAは国家を挙げてのプロジェクトを発動し…。2016年2月公開映画「オデッセイ」の原作。

読売新聞 2022/12/04

2015:12./ 312p
978-4-15-012044-3
¥704〔税込〕





三体

劉 慈欣、大森 望、光吉 さくら、ワン チャイ、立原 透耶 著

早川書房

物理学者の父を文化大革命で亡くし、人類に絶望した中国人エリート科学者・葉文潔。ある日、彼女は謎めいた軍事基地にスカウトされる。そこでは、人類の運命を左右するかもしれないプロジェクトが極秘裏に進行していて…。

読売新聞 2022/12/04

2019:7./ 447p
978-4-15-209870-2

¥2,090〔税込〕



ゲームの王国<下>(ハヤカワ文庫 JA 1406)

小川 哲 著

早川書房

訣別から半世紀。ソリヤは理想とする<ゲームの王国>を実現すべく、権力の頂点を目指す。一方でムイタックは自身の渴望を完遂するため、脳波測定を利用したゲームの開発を、早熟な少年アルンと共に進めていた…。SF 巨篇。

読売新聞 2022/12/04

2019:12./ 430p
978-4-15-031406-4

¥924〔税込〕



ゲームの王国<上>(ハヤカワ文庫 JA 1405)

小川 哲 著

早川書房

ポル・ポトの隠し子であるソリヤと天賦の智性を持つ神童ムイタック。運命のふたりは砲声に震える 1975 年のカンボジアで出会う。秘密警察、恐怖政治、テロ、虐殺…全ての不条理はあたかもゲームのように進行し…。SF 巨篇。

読売新聞 2022/12/04

2019:12./ 446p
978-4-15-031405-7

¥924〔税込〕



高校生のための「歴史総合」入門～世界の中の日本・近代史～<1> 日本に「近代」到来

浅海 伸夫 著

藤原書店

世界と日本の関係が急速に深化した明治～大正期の歴史を「世界の中の日本」の視点から立体的に描く。1 は黒船襲来から西郷隆盛の朝鮮使節内定まで。高校「歴史総合」の副読本。『読売新聞オンライン』連載を大幅加筆修正。

読売新聞 2022/12/04

2022:8./ 376p
978-4-86578-352-0
¥3,300〔税込〕



流浪地球

劉 慈欣 著

KADOKAWA

地球の自転がストップした。人類が生き延びるには、太陽系を脱出するしかない。巨大な“地球エンジン”を設置し、地球そのものを宇宙船として悠久の旅が始まるが…。表題作をはじめ、「呑食者」など全 6 編を収録した短編集。

読売新聞 2022/12/04

2022:9./ 309p
978-4-04-065993-0
¥2,200〔税込〕





老神介護

劉 慈欣 著

KADOKAWA

突如現れた宇宙船から次々地球に降り立ったみすばらしい姿の神。地球で暮らすことを望む神を各家庭で受け入れるが、ほどなく大きな負担となり…。表題作をはじめ、「扶養人類」「地球大砲」など、全 5 編を収録した短編集。

2022:9./ 289p
978-4-04-112578-6

¥2,200〔税込〕



読売新聞 2022/12/04



暗渠でたどる東京案内～水のない川～

本田 創 著

山川出版社

かつて流れていた川や水路の痕跡「暗渠」をたどると、現在とは全く違う東京の姿が見えてくる。暗渠地図、古地図、写真などの豊富なビジュアルで土地の記憶と景観、人と水とのかかわりを紹介する。

2022:8./ 207p
978-4-634-15218-2

¥2,200〔税込〕



読売新聞 2022/12/04



超訳芭蕉百句(ちくま新書 1681)

嵐山 光三郎 著

筑摩書房

日本の誰もが知っていて、神格化すらされている俳聖松尾芭蕉。代表句百句を選びすぎ、タブーとされてきた衆道の側面や隠密としての行動を明らかにしつつ、虚実が分かちがたく絡み合う芭蕉の俳句ならではの魅力を探る。

2022:9./ 318p
978-4-480-07481-2

¥1,034〔税込〕



読売新聞 2022/12/04



帝国の残影～兵士・小津安二郎の昭和史～(文春学芸ライブラリー 歴史 47)

與那覇 潤 著

文藝春秋

小津安二郎の一連の作品、およびその原作・脚本・批評・回想などの関連テキストの精緻な解説を通じ、日本人が小津に仮託してきた「日本的」なるものの正体と、その帰趨とを明らかにする。関連する批評 3 点を増補。

2022:10./ 313p
978-4-16-813103-5

¥1,463〔税込〕



読売新聞 2022/12/04



月をみるケンタウルス～紳士の心得帳～

法橋 和彦 著

未知谷

「『京都記念』を観戦してトルストイのトバク心得を思う」「漱石と馬券のはなし」…。正統派ロシア文学者が、走る馬を見ながら専門を越え、琴線に触れるあらゆる文学を想起する競馬エッセイ。『日刊スポーツ』連載を単行本化。

2022:8./ 227p
978-4-89642-667-0

¥2,200〔税込〕



読売新聞 2022/12/04



歩きながら考える(中公新書ラクレ 773)

ヤマザキ マリ 著

中央公論新社

パンデミックに奪われた、これまでの自由。でも、たちどまったままではいられない。先行き不透明な世界で、私たちはどう生きていけば良いのか? 「旅する漫画家」による、自分の足で歩き続けるための実践的指南書。

読売新聞 2022/12/04

2022:9./ 281p
978-4-12-150773-0

¥990〔税込〕



皇室財産～極秘資料は語る～(文春新書 1379)

奥野 修司 著

文藝春秋

門外不出の資料が明かす、皇室財産とは-。皇室費の中でも天皇の私的な「財布」である、内廷費は聖域中の聖域。戦前戦後で大きく変貌を遂げた皇室財産の全容を初公開。昭和天皇の宮中での生活を明らかにする。

読売新聞 2022/12/04

2022:9./ 247p,7p
978-4-16-661379-3

¥1,045〔税込〕



マイブック～2023年の記録～(新潮文庫 ん-70-25)

新潮社

マイブックには、日付と曜日しか入っていません。これは 2023 年のあなたがつくる、世界に一冊だけの本。どんなふうに使うかはあなたの自由です。日記をつづってもよし。手帳として持ち歩くのもよし。誰にも思いつかないオリジナルな使い方を試してみるのも、きっと楽しいでしょう。毎日使い続けて完成させたなら、他のどの本よりも記憶に残る、とっておきの「自分の本」になっているはずです。

読売新聞 2022/12/04

2022:10./ 400p
978-4-10-120875-6

¥440〔税込〕



数字にだまされない本(日経ビジネス人文庫 ふ 14-2)

深沢真太郎 著

日経 B P 社

顧客満足度 90%、就職に強い大学ランキング…。うまい数字には嘘がある! 「ビジネス数字」の第一人者が、「数字を正しく読む技術」をエクササイズや事例を交えて解説。「世界を正しく見る目」が身につく。

読売新聞 2022/12/04

2022:10./ 254p
978-4-296-11536-5

¥880〔税込〕



ミセス・ハリス、パリへ行く(角川文庫 キ 13-2)

ポール・ギャリコ 著

KADOKAWA

もうすぐ 60 歳の家政婦ハリスは、ある日、美しいクリスチャン・ディオールドレスに出会い、パリでドレスを仕立てようと決意し…。何歳になっても夢をあきらめない勇気と奇跡の物語。2022 年公開映画の原作。

読売新聞 2022/12/04

2022:10./ 221p
978-4-04-113024-7

¥990〔税込〕





小説家の日

井上 荒野 著
文藝春秋

小説、メモ、日記、レシピ、SNS…。すべての「書くこと」をテーマに、さまざまな日常の忘れられない瞬間を描いた短篇集。表題作のほか、「窓」「つまらない湖」など全 10 篇を収録する。『オール読物』掲載を書籍化。

読売新聞 2022/12/04

2022:10./ 252p
978-4-16-391605-7
¥1,980〔税込〕



H マートで泣きながら

ミシェル・ザウナー／雨海 弘美 著
集英社クリエイティブ

途方にくれていた彼女を癒したのは、韓国料理だった-。十代のときに決裂しかけた韓国人の母を闘病の末に亡くし、韓国文化との唯一の架け橋を失ってしまった著者がたどる、喪失と再生のメモワール。

読売新聞 2022/12/04

2022:10./ 315p
978-4-420-31097-0
¥2,200〔税込〕



親愛なるレニー〜レナード・バーンスタインと戦後日本の物語〜

吉原 真里 著
アルテスパブリッシング

40 年以上バーンスタインにファンレターを送り続けた天野和子。バーンスタインと激しい恋に落ち、数多くのラブレターを送った橋本邦彦。ふたりが綴った数々の手紙を通して、芸術と愛に生きた巨匠バーンスタインの実像に迫る。

読売新聞 2022/12/04

2022:10./ 427p,15p
978-4-86559-265-8
¥2,750〔税込〕



青木きららのちょっとした冒険

藤野 可織 著
講談社

人気モデル兼俳優の偽者、痴漢された女子高生、特別な日を撮影するカメラマン、推しの若き死を望む会社員…。8 人のきららの 8 つの人生が照射する、残酷でかすかにあたたかい世界の物語。『群像』掲載等を単行本化。

読売新聞 2022/12/04

2022:11./ 224p
978-4-06-529654-7
¥1,760〔税込〕



地図と拳

小川 哲 著
集英社

ひとつの都市が現われ、そして消えた-。日露戦争前夜から第 2 次大戦までの半世紀、満洲の名もない都市で知略と殺戮が繰り広げられ…。日本 SF 界の新星が放つ歴史×空想巨編。『小説すばる』掲載に加筆修正し単行本化。

読売新聞 2022/12/04、毎日新聞 2022/12/17

2022:6./ 633p
978-4-08-771801-0
¥2,420〔税込〕





陰の季節(文春文庫)

横山 秀夫 著

文芸春秋

天下りなどの人事問題に真っ正面から取り組んで、選考委員の激賞を浴びた松本清張
賞受賞作ほかテレビドラマ化された D 県警シリーズ。

2001:10./ 247p
978-4-16-765901-1
¥605〔税込〕



読売新聞 2022/12/11

どくろ杯(中公文庫)

金子 光晴 著

中央公論新社

『こがね蟲』で詩壇に登場した詩人は、その輝きを残し、夫人と中国に渡る。長い放
浪の旅が始まったー青春と詩を描く自伝。

1981:2./ 256p
978-4-12-200328-6
¥607〔税込〕



読売新聞 2022/12/11

怪しい来客簿(文春文庫)

色川 武大 著

文芸春秋

日常生活の狭間にかいま見る妖しの世界ー独自の感性と性癖、幻想が醸し出す類いな
き宇宙を清冽な文体で描きだした、泉鏡花賞受賞の世評高き連作短篇集。

1989:10./ 310p
978-4-16-729604-9
¥660〔税込〕



読売新聞 2022/12/11



伽羅を焚く

竹西寛子 著

青土社

広島の被爆者としての、国策への懐疑、不満、さらには怒り。93年の生涯をかけて
「言葉」に関わってきた著者が、為政者の口説きに失望をしながら、それでも書き留め
続けた渾身のエッセイ集。『ユリイカ』連載を書籍化。

2022:8./ 259p
978-4-16-729604-9
¥2,420〔税込〕



読売新聞 2022/12/11



楽園への道(河出文庫 ハ 9-1)

マリオ・バルガス＝リョサ 著

河出書房新社

「スカートをはいた煽動者」フローラ・トリスタン、「芸術の殉教者」ポール・ゴー
ギャン。祖母と孫がたどった自由への道。貧困、孤独、病などの逆境の中、それぞ
れのユートピアの実現を信じて生き抜いた2人の先駆者を描く。

2017:5./ 632p
978-4-309-46441-1
¥1,540〔税込〕



読売新聞 2022/12/11



迷うことについて

レベッカ・ソルニット、東辻 賢治郎 著

左右社

ソクラテスはいう。未知を知ることができるのはそれを思い出しているからだ。著者自身の個人史と世界史の両方に分け入りながら、迷いと痛みの深みのなかに光を見つける、哲学的思索の書。

読売新聞 2022/12/11

2019:4./ 233p
978-4-86528-234-4

¥2,640〔税込〕



はじまれ、ふたたび〜いのちの歌をめぐる旅〜

姜 信子 著

新泉社

カザフスタンから韓国・済州島へ、サハリンからイリオモテへ。世界各地を旅し、「いのち」の歌や物語を記録してきた著者によるエッセイ集。2011 年刊「はじまれ」に、震災後 10 年をテーマにした書き下ろし作品を加える。

読売新聞 2022/12/11

2021:5./ 200p
978-4-7877-2101-3

¥2,420〔税込〕



痴漢を弁護する理由

大森 顕／山本 衛 編

赤木 竜太郎／加畑 貴義／神林 美樹／栗原 亮介／高野 太一朗／高橋 宗吾／中原 潤一／村橋 悠 著

日本評論社

電車内で発生した痴漢事件をきっかけに動き出す様々な人間模様。そこから見えてくるのは、被害者・加害者・弁護人・検察官・裁判官それぞれの悩みと葛藤、そして日本の刑事司法の厚い壁…。性犯罪の向こう側に迫る小説。

読売新聞 2022/12/11

2022:9./ 36p,316p
978-4-535-52486-6

¥2,420〔税込〕



箸置きの世界〜食卓の小さな遊び〜(コロナ・ブックス 229)

串岡 慶子 著

平凡社

食卓を彩る箸置きは、小さいけれど実はとても働きもの。ちょこんと添えるだけで食生活が豊かに変わります。その効用や使い方、知られざる歴史を、豊富な図版とともに詳しく紹介します。

読売新聞 2022/12/11

2022:9./ 127p
978-4-582-63528-7

¥2,090〔税込〕



「十二国記」画集<第2集> 青陽の曲

山田 章博 著

新潮社

小野不由美が紡ぎ出す「十二国記」世界を彩る原画集。第2集は、新潮文庫<完全版>の装画と挿絵全点、グッズやイベント用の作品のほか、描き下ろしイラストなど、カラー70点、モノクロ74点、全144点を収録する。

読売新聞 2022/12/11

2022:9./ 123p
978-4-10-335932-6

¥3,630〔税込〕





平櫛田中回顧談

本間 正義 編

平櫛 田中 著

中央公論新社

生いたち、長安寺の生活、岡倉天心の思い出、日本美術院の再興、鏡獅子の制作…。彫刻家・平櫛田中が自身の来し方を語った聞き書き記録。交流した芸術家、芸術界に関する貴重な証言も満載。巻頭に写真あり。

読売新聞 2022/12/11

2022:9./ 341p
978-4-12-005573-7

¥2,420〔税込〕



ネアンデルタール

レベッカ・ウラッグ・サイクス 著

筑摩書房

けが人をケアし、肉を加熱調理し、ホモ・サピエンスと交配した、ネアンデルタール。「わたしたちにもっとも近い人類」の文化や暮らしを、最新の研究をもとにいきいきと描く。見返しに図表あり。

読売新聞 2022/12/11

2022:10./ 604p,9p
978-4-480-86094-1

¥3,960〔税込〕



日本はクール!?～間違いだらけの日本の魅力発信～

ベンジャミン・ボアズ 著

クロスメディア・パブリッシング

日本の魅力を最大限に海外に発信するには。日本の視点から脱却し、海外視点から日本を見ることの重要性を、ビジネスやコミュニケーション戦略の具体例とともにわかりやすく解説し、世界を巻き込む方法を提案する。

読売新聞 2022/12/11

2022:10./ 287p
978-4-295-40754-6

¥1,628〔税込〕



これが見納め～絶滅危惧の生きものたちに会いに行く～(河出文庫 ア4-8)

ダグラス・アダムス／マーク・カーワディン／リチャード・ドーキンス 著

河出書房新社

生物保護活動の友は、愛、科学、そしてユーモアだ。種の存亡の瀬戸際にある生きものたちをとりまく荒涼たる現実、人間の浅はかさが生む悲喜劇や、動物たちそれぞれの興味深い生態を語るネイチャー・ルポ。

読売新聞 2022/12/11

2022:11./ 380p
978-4-309-46768-9

¥1,430〔税込〕



イタリアのフルインクルーシブ教育～障害児の学校を無くした教育の歴史・課題・理念～

アントネッロ・ムーラ 著

明石書店

1970年代に障害児のための学校を廃止し、フルインクルーシブ教育へと方向転換したイタリア。その歴史的文脈を紀元前からモンテッソーリへと概観し、フルインクルーシブ体制の到達点を体系的に示す。

読売新聞 2022/12/11

2022:9./ 303p
978-4-7503-5471-2

¥2,970〔税込〕





ジャクソンひとり

安堂 ホセ 著

河出書房新社

着ていたTシャツに隠されたQRコードから男が碟にされた動画が流出し、職場で嫌疑をかけられたジャクソン。仕方なく独自の調査を始めると、動画の男は自分だと主張する3人の男に出会い…。『文藝』掲載を書籍化。

読売新聞 2022/12/11

2022:11./ 152p
978-4-309-03084-5

¥1,540〔税込〕



ビューティフルからビューティフルへ

日比野 コレコ 著

河出書房新社

絶望をドレスコードにして生きる高校3年生の静とナナは、駅前でサイファーをしている若い男“ビルE”を、通り慣れている「ことばあ」という老婆の家に誘うが…。『文藝』掲載を書籍化。

読売新聞 2022/12/11

2022:11./ 141p
978-4-309-03083-8

¥1,540〔税込〕



自転しながら公転する(新潮文庫 や-66-2)

山本 文緒 著

新潮社

母の看病のため実家に戻ってきた32歳の都。アウトレットモールのアパレルで契約社員として働きながら、寿司職人の貫一と付き合いはじめるが…。結婚、仕事、親の介護、ぐるぐる思い惑いながら幸せを求める姿を描く。

読売新聞 2022/12/11

2022:11./ 664p
978-4-10-136063-8

¥1,045〔税込〕



絶筆

石原 慎太郎 著

文藝春秋

2022年2月1日に死去した石原慎太郎のラスト作品集。限りなくピュアな初恋の記憶を描いた「遠い夢」、死後公開された「死への道程」など、単行本未収録の全6作品を収録する。四男の画家・石原延啓による解説付き。

読売新聞 2022/12/11

2022:11./ 141p
978-4-16-391620-0

¥1,650〔税込〕



調べて、伝えて、近づいて～思いを届けるレッスン～(中公新書ラクレ 776)

増田明美 著

中央公論新社

増田明美の、「こまかすぎる」名解説はこうして生れた! 相手との信頼関係の築き方から、情報収集の極意、選手につけるニックネームに込めた思いまで、幅広い仕事で培ったコミュニケーション術を初公開。

読売新聞 2022/12/11

2022:11./ 222p
978-4-12-150776-1

¥924〔税込〕





スピノザ〜読む人の肖像〜(岩波新書 新赤版 1944)

國分 功一郎 著

岩波書店

思考を極限まで厳密に突き詰めたがゆえに実践的であるという、驚くべき哲学プログラムを作り上げたスピノザ。難解とされるその全体像を徹底的に読み解き、かつてない哲学者像を描き出す。

2022:10./ 5p,414p

978-4-00-431944-3

¥1,408〔税込〕



読売新聞 2022/12/11、日本経済新聞 2022/12/17

万延元年のフットボール(講談社文芸文庫)

大江 健三郎 著

講談社

友人の死に導かれ夜明けの穴にうずくまる僕。地獄を所有し、安保闘争で傷ついた鷹四。障害児を出産した菜採子。苦渋に満ちた登場人物たちが、四国の谷間の村をさして軽快に出発した。万延元年の村の一揆をなぞるように、神話の森に暴動が起る。幕末から現代につながる民衆の心のみごとに形象化し、戦後世代の切実な体験と希求を結実させた画期的長篇。谷崎賞受賞。

1988:4./ 491p

978-4-06-196014-5

¥1,815〔税込〕



読売新聞 2022/12/18

リング(角川ホラー文庫)

鈴木 光司 著

角川書店

一本のビデオテープを観た四人の少年少女が、同日同時刻に死亡した。この忌まわしいビデオの中には、一体どんなメッセージが.....恐怖とともに、未知なる世界へと導くオカルト・ホラーの金字塔。

1993:4./ 331p

978-4-04-188001-2

¥660〔税込〕



読売新聞 2022/12/18

同時代ゲーム(新潮文庫)

大江健三郎 著

新潮社

読売新聞 2022/12/18

1984:8./ 592p

978-4-10-112614-2

¥924〔税込〕



死者たちの回廊〜よみがえる「死の舞踏」〜(平凡社ライブラリー)

小池 寿子 著

平凡社

うち続く戦乱、猖獗する黒死病...。特異な死のイメージの起源と伝播を尋ねる旅を通して、黄昏の中世ヨーロッパとはるかな時を隔てた対話を試みる。瑞々しい感性と大きな構想力を備えた歴史紀行。

1994:12./ 253p

978-4-582-76082-8

¥1,174〔税込〕



読売新聞 2022/12/18



ラーゲリ～収容所から来た遺書～(文春現代史コミックス)

辺見 じゅん／河井 克夫 著

文藝春秋

シベリア抑留中に死んだ仲間の遺書を、厳しい監視網をかい潜り、驚嘆すべき方法で日本へ持ち帰った男たちがいた。極寒、飢餓、重労働に屈しなかった男たちの奇跡の実話をコミカライズ。『文春オンライン』連載を書籍化。

読売新聞 2022/12/18

2022:7./ 206p
978-4-16-090125-4

¥1,100〔税込〕



相棒は秋田犬～現代の縄文犬と共に過ごした 3989 日～

村山二朗 著

カンゼン

世界的人気を誇る日本犬、秋田犬。賢くて凛々しい秋田犬に憧れ共に暮らした著者が、試行錯誤を繰り返しながら体当たりで関係を築きつつ、犬も人も共に成長していく過程を綴る。写真やイラストも掲載。

読売新聞 2022/12/18

2022:9./ 238p
978-4-86255-662-2

¥1,760〔税込〕



コロナ危機、経済学者の挑戦～感染症対策と社会活動の両立をめざして～

仲田 泰祐／藤井 大輔 著

日本評論社

2人はコロナ禍で何を思い、学んだのか。政治家や感染症専門家、メディア関係者とどんな議論を重ねたのか。コロナ分析を発信し続け、政策現場からの信頼を得てきた経済学者の軌跡を追ひ、将来に向けて何をすべきか考える。

読売新聞 2022/12/18

2022:9./ 15p,276p
978-4-535-54036-1

¥1,760〔税込〕



刑罰(創元推理文庫 M シ 15-5)

フェルディナント・フォン・シーラッハ 著

東京創元社

赤ん坊を死なせた夫の罪を肩代わりした母親。犯罪組織のボスを弁護する新人弁護士…。唐突に訪れる犯罪の瞬間には、人生が異様な迫力をもってあふれだす。罪と罰の在り方を鮮烈に問う全 12 篇の短篇集。

読売新聞 2022/12/18

2022:10./ 236p
978-4-488-18606-7

¥792〔税込〕



日本人と自衛隊～「戦わない軍隊」の歴史と戦後日本のかたち～

アーロン・スキャブランド 著

原書房

自衛隊の歴史と事件を多数の証言とともにたどりながら、左派からも右派からも反発を受けた「戦わない軍隊」が、いかにして日本社会に融和していったのか。「軍事と戦後と日本」の深層を米国人日本研究者が描く。

読売新聞 2022/12/18

2022:10./ 414p
978-4-562-07222-4

¥3,520〔税込〕





家(チベ)の歴史を書く(ちくま文庫 は 56-1)

朴 沙羅 著

筑摩書房

「私の家族はいつどのように、どうして済州島から大阪へとやってきたのか。その後どうやって生きたのか」 気鋭の社会学者による、家族への親愛と歴史への洞察に満ちた、自身の家(チベ)の記録。

読売新聞 2022/12/18

2022:10./ 381p
978-4-480-43847-8

¥990〔税込〕



罪人の選択(文春文庫 き 35-4)

貴志 祐介 著

文藝春秋

「罪人」の前に出されたのは、一升瓶と缶詰。一方には猛毒が入っている。どちらかを口にして生き延びたら罪は許される。果たして正解は…。表題作をはじめ、SF や歴史をこえた本格ミステリなど、全 4 編を収録した短編集。

読売新聞 2022/12/18

2022:11./ 342p
978-4-16-791955-9

¥781〔税込〕



大いなる錯乱〜気候変動と<考ええぬもの>〜

アミタヴ・ゴーシュ 著

以文社

気候変動を小説の主題とすることの困難の背後にある、ブルジョワ・近代的な自然観。「人新世」的問題とポストコロニアリズム的課題の連続性を指摘し、地球温暖化の時代に小説・政治・歴史の行方を問いかける現代批評。

読売新聞 2022/12/18

2022:10./ 335p
978-4-7531-0370-6

¥2,970〔税込〕



徳川家康の決断〜桶狭間から関ヶ原、大坂の陣まで 10 の選択〜(中公新書 2723)

本多隆成 著

中央公論新社

今川・織田の両雄に挟まれ、弱小勢力として出発し、戦国乱世を勝ち抜き、天下を制した徳川家康。三方原の合戦、本能寺の変、関ヶ原の合戦、大坂の陣など、家康が迫られた 10 の選択を軸に波瀾の生涯を描く。

読売新聞 2022/12/18

2022:10./ 4p,287p
978-4-12-102723-8

¥990〔税込〕



ショパン・コンクール見聞録〜革命を起こした若きピアニストたち〜(集英社新書 1134)

青柳 いづみこ 著

集英社

世界 3 大音楽コンクールで最も権威のあるショパン国際ピアノコンクール。反田恭平、小林愛実が入賞し、注目を集めた第 18 回大会の現場では何が起きていたのか。既存の価値観を覆すような演奏が相次いだその舞台裏を描く。

読売新聞 2022/12/18

2022:10./ 249p
978-4-08-721234-1

¥1,012〔税込〕





日々臆測(飛ぶ教室の本)

ヨシタケシンスケ 著

光村図書出版

すごくマユ毛の長いおじいさんがいた。「マユ毛で空を飛ぶことのできた一族」の末裔かな。身の回りの現実勝手にのりしろをつけ足した=臆測した日々を描いたコミック。『飛ぶ教室』掲載にかき下ろしを加えて単行本化。

読売新聞 2022/12/18

2022:12./ 141p
978-4-8138-0421-5

¥1,760〔税込〕



ペンギンの憂鬱(Crest books)

アンドレイ・クルコフ 著

新潮社

憂鬱症のペンギン・ミーシャと暮らす売れない小説家ヴィクトル。新聞の死亡記事を書く仕事をきっかけに次々起きる不可解な変死。不条理な世界を描く新ロシア文学。

読売新聞 2022/12/25

2004:9./ 315p
978-4-10-590041-0

¥2,200〔税込〕



エリザベス女王～史上最長・最強のイギリス君主～(中公新書 2578)

君塚 直隆 著

中央公論新社

1952年に25歳で英国の王位に即いたエリザベス女王。カナダ、オーストラリアなど16カ国の元首でもある彼女は、数多くの事件に遭遇し、政治にも関与してきた。イギリス現代史をたどりながら、女王の人生を描く。

読売新聞 2022/12/25

2020:2./ 6p,288p
978-4-12-102578-4

¥990〔税込〕



世界は贈与でできている～資本主義の「すきま」を埋める倫理学～

近内 悠太 著

ニューズビック

仕事のやりがい、生きる意味、大切な人とのつながり。なぜこれらを狂おしいほどに追い求めるのか。どうすれば「幸福」に生きられるのか。若き哲学者が、「贈与」や「言語」「常識」の成り立ちを通して説き起こす。

読売新聞 2022/12/25

2020:3./ 251p
978-4-910063-05-8

¥1,980〔税込〕



三千円の使いかた(中公文庫 は 74-1)

原田 ひ香 著

中央公論新社

「人は三千円の使いかたで、人生が決まるよ」突然の入院、離婚、介護費…。御厨家の女性たちは、人生の節目とピンチを乗り越えるため、お金をどう貯めて、どう使うのか。知識も深まる「節約」家族小説。

読売新聞 2022/12/25

2021:8./ 349p
978-4-12-207100-1

¥770〔税込〕





アダム・スミスの夕食を作ったのは誰か?～これからの経済と女性の話～

カトリーン・マルサル 著

河出書房新社

アダム・スミスが研究中、身の周りの世話をしたのは誰? 女性の家庭内労働は経済の世界から排除され、価値のないものとされてきた。男性中心の経済学に対抗するフェミニスト経済学の考え方をベースに、既存の経済学を斬る。

2021.11./ 284p
978-4-309-30016-0

¥2,310〔税込〕



読売新聞 2022/12/25



同志少女よ、敵を撃て

逢坂 冬馬 著

早川書房

独ソ戦が激化する 1942 年、母をドイツ軍に惨殺され、赤軍の女性兵士に救われた少女セラフィマは、復讐のため、訓練学校で一流の狙撃兵になることを決意する。訓練を重ねた彼女は、やがてスターリングラードの前線へ....。

2021.11./ 492p
978-4-15-210064-1

¥2,090〔税込〕



読売新聞 2022/12/25



客家と毛沢東革命～井岡山闘争に見る「民族」問題の政治学～

藤野 彰 著

日本評論社

江西・湖南省境の井岡山から始まった毛沢東の農村革命。根拠地の主要な族群(エスニック・グループ)であった客家(ハッカ)と革命の関係性を切り口に、中国共産党に特有の思考径路と政治的論理を明らかにする。

2022.1./ 14p,518p
978-4-535-52591-7

¥6,600〔税込〕



読売新聞 2022/12/25



プロジェクト・ヘイル・メアリー<上>

アンディ・ウィアー 著

早川書房

たった1人で目を覚ましたグレース。ここは宇宙船。ペトロヴァ問題と呼ばれる災禍によって太陽エネルギーが減少し、存亡の危機に瀕した人類は「プロジェクト・ヘイル・メアリー」を発動。遠い宇宙へ恒星間宇宙船を放ち....。

2021.12./ 323p
978-4-15-210070-2

¥1,980〔税込〕



読売新聞 2022/12/25



プロジェクト・ヘイル・メアリー<下>

アンディ・ウィアー 著

早川書房

「プロジェクト・ヘイル・メアリー」の目的は、太陽エネルギーを食べる未知の地球外生命体アストロファージに感染していないタウ・セチに赴き、その理由を探し出すこと。グレースはこの不可能ミッションに挑むことに....。

2021.12./ 315p
978-4-15-210071-9

¥1,980〔税込〕



読売新聞 2022/12/25



エビデンスの社会学〜証言の消滅と真理の現在〜

松村一志 著

青土社

近代科学の歴史の中で、絶えず捏造や誤謬に晒されてきた「科学的証拠」。法廷の証言、心霊研究から確率・統計に基づく「エビデンス」の出現まで、「証拠」の概念史を通じて、近代という時代の輪郭を描きなおす。

読売新聞 2022/12/25

2021.11./ 357p,36p
978-4-7917-7432-6

¥3,520〔税込〕



戦争の文化〜パールハーバー・ヒロシマ・9.11・イラク〜<上>

ジョン・W. ダワー 著

岩波書店

自らに都合の良い思考、異論や批判の排除、過度のナショナリズム、文化的・人種的偏見…。「戦争の文化」の本質を、真珠湾攻撃から原爆投下、9.11 事件、イラク戦争に至る日米の愚行を通して描き出す。

読売新聞 2022/12/25

2021.12./ 40p,357p
978-4-00-061485-6

¥3,080〔税込〕



戦争の文化〜パールハーバー・ヒロシマ・9.11・イラク〜<下>

ジョン・W. ダワー 著

岩波書店

アメリカによるイラク戦争開始と日本による真珠湾攻撃、イスラム過激派によるテロ攻撃とアメリカが日本に対して行った原爆投下…。様々な比較を通して、今もなお世界を覆う「戦争の文化」の本質を描き出す。

読売新聞 2022/12/25

2021.12./ 10p,358p,7p
978-4-00-061486-3

¥3,080〔税込〕



人間らしさとは何か〜生きる意味をさぐる人類学講義〜(河出新書 047)

海部 陽介 著

河出書房新社

平等、泣き、笑い、芸術…。生存にも繁殖にも役立たないことを行う人間。人類進化学者が、人間が誕生するまでの道のりや、科学的人間論の最先端を解説しながら、「なぜわかり合えるのか」から人間らしさをとらえなおす。

読売新聞 2022/12/25

2022.2./ 318p
978-4-309-63148-6

¥990〔税込〕



母を燃やす

アヴェニ・ドーシ 著

早川書房

アンタラの母は若い頃から自由奔放だった。アメリカ育ちの夫と暮らすアンタラは、母の認知症が進んでいるかもしれないと医師から伝えられ…。毒母に苦しむ裕福な女性の視点を通して描かれる、普遍的な母娘の物語。

読売新聞 2022/12/25

2022.1./ 385p
978-4-15-210076-4

¥3,080〔税込〕





物価とは何か(講談社選書メチエ 758)

渡辺 努 著

講談社

物価とは何の値段か。企業はなぜ値上げをせず、商品を小さくするのか。失業、不況、長期デフレなど、社会を困難に陥れる経済失調との格闘の中で急速に発展してきた物価理論の要諦を、第一人者が具体例から明快に説く。

読売新聞 2022/12/25

2022:1./ 333p
978-4-06-526714-1

¥2,145〔税込〕



アダム・スミス共感の経済学

ジェシー・ノーマン 著

早川書房

近代経済学の父として知られるアダム・スミスの本格的評伝。彼の思想の成り立ちをその生涯から解き明かすとともに、経済学から政治学、心理学にまで広がる思想的影響を俯瞰。様々な課題に直面する現代へのヒントを提示する。

読売新聞 2022/12/25

2022:2./ 458p
978-4-15-210085-6

¥3,960〔税込〕



ボタニカ

朝井まかて 著

祥伝社

小学校中退ながらも独学で植物研究に没頭した牧野富太郎。東京大学理学部植物学教室に出入りを許され、新種の発見など目覚ましい成果を上げるが…。稀代の植物学者を描く長編小説。『小説 NON』連載を加筆、訂正。

読売新聞 2022/12/25

2022:1./ 494p
978-4-396-63617-3

¥1,980〔税込〕



若冲の世紀～十八世紀日本絵画史研究～

佐藤 康宏 著

東京大学出版会

伊藤若冲の画業を中心に、江戸時代中期の京都・大坂・江戸の絵画と版画を論じる。重要な作家と作品に焦点を絞り、具体例の分析を通じて、個々の画家たちに共通する表現の傾向や画家どうしが相互に刺激を与えた実態を析出する。

読売新聞 2022/12/25

2022:3./ 13p,793p,15p
978-4-13-080227-7

¥14,300〔税込〕



格差と闘え～政府の役割を再検討する～

オリヴィエ・ブランシャール／ダニ・ロドリック／月谷 真紀 編

慶應義塾大学出版会

格差をなくすための具体的思索から哲学・政治論まで。サエズ、ブックマンをはじめ、世界トップレベルの経済学者らが、格差の現状、その弊害から具体的な政策論の意見を闘い合わせたシンポジウムの記録。

読売新聞 2022/12/25

2022:3./ 22p,318p,50p
978-4-7664-2805-6

¥3,520〔税込〕





女の答えはリングにある〜女子プロレスラー10人に話を聞きに行って考えた「強さ」のこと〜

尾崎ムギ子 著

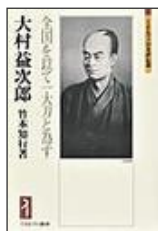
イースト・プレス

女子プロレスラー10人に話を聞きに行って「強さ」のことを考えた。等身大で戦う彼女たちが人々に与える勇気とは。白川未奈、中野たむ、長与千種らのインタビューと、編集者との往復書簡をまとめた女子プロレスエッセイ。

読売新聞 2022/12/25

2022:4./ 302p
978-4-7816-2070-1

¥1,650〔税込〕



大村益次郎〜全国を以て一大刀と為す〜(ミネルヴァ日本評伝選)

竹本 知行 著

ミネルヴァ書房

幕末・維新期の軍事官僚で、洋学者でもあり医師でもあった大村益次郎。維新動乱期の「軍功」や明治建軍の「制度設計」にとどまらない多様な業績を検証し、近代的学知の実践者としての生涯に迫る。

読売新聞 2022/12/25

2022:3./ 19p,482p,7p
978-4-623-09367-0

¥4,950〔税込〕



シャギー・ベイン

ダグラス・スチュアート 著

早川書房

1980年代、不況下の英国グラスゴー。“男らしさ”を求める時代になじめない少年シャギーは、夫に捨てられ酒とともに堕ちていく美しい母アグネスを救おうと必死にしがき…。居場所のない親子の愛を痛切に描く自伝的巨篇。

読売新聞 2022/12/25

2022:4./ 609p
978-4-15-210125-9

¥3,850〔税込〕



法治の獣(ハヤカワ文庫 JA 1520)

春暮 康一 著

早川書房

あたかも罪と罰の概念をもつかのようにふるまう異星の草食獣シエジーたち。その衝撃的な秘密を知った研究者アリスは…。表題作はじめ、ファーストコンタクトの光と影を描いた2篇を加えた、地球外生命 SF 中篇集。

読売新聞 2022/12/25

2022:4./ 349p
978-4-15-031520-7

¥1,100〔税込〕



「加速思考」症候群〜心をバグらせる現代病〜

アウグスト・クリ 著

ハーバーコリンズ・ジャパン

急にデジタル化が進んだ現代、脳は休まることなく思考が加速し続け、若者から大人までつねに不安にさいなまれている。現代病、加速思考症候群のメカニズムをわかりやすく解説し、その対処法を説く。

読売新聞 2022/12/25

2022:4./ 191p
978-4-596-42890-5

¥1,760〔税込〕





くるまの娘

宇佐見 りん 著

河出書房新社

車で祖母の葬儀に向かう、17歳のかんこと家族。思い出の景色や車中泊の密なる空気が、家族のままならなさの根源にあるものを引きずりだしていき…。『文藝』掲載を単行本化。

読売新聞 2022/12/25

2022:5./ 157p
978-4-309-03035-7

¥1,650〔税込〕



プロレスラー〜至近距離で撮り続けた50年〜

山内 猛 著

新潮社

鬼気迫るアントニオ猪木、アックスボンバーを決めるハルク・ホーガン、初代タイガーマスクの華麗な技…。プロレスとレスラーが最も輝いていた昭和時代の秘蔵写真140点を収録した写真集。撮影秘話も掲載する。

読売新聞 2022/12/25

2022:4./ 158p
978-4-10-354551-4

¥1,980〔税込〕



危機の外交〜岡本行夫自伝〜

岡本 行夫 著

新潮社

虚々実々の情報戦、薄氷の交渉テーブル、そして裏切り。コロナ禍で命を落とした不世出の外交官は、秘録と呼ぶべき経験と日本の課題、そして真の脅威について書き遺していた-。日米同盟の最深部まで知る岡本行夫の渾身の手記。

読売新聞 2022/12/25

2022:4./ 477p
978-4-10-354561-3

¥2,420〔税込〕



王道ブルース

洲正信 著

徳間書店

クーデター未遂事件、馬場さんと猪木さんの真の関係…。全日本プロレス一筋のレスラー人生を貫く“レジェンド”洲正信。ジャイアント馬場、ジャンボ鶴田から直接「王道」を受け継いだ男が、老舗団体の激動の真相を初めて記す。

読売新聞 2022/12/25

2022:3./ 259p
978-4-19-865390-3

¥1,980〔税込〕



死神を祀る

大石 大 著

双葉社

東北の寂れた街に、30日間欠かさずお参りすると、恍惚の中で死を迎えられる神社があるという。それを体験した男の日記がネットで拡散され、その神社は話題に。死にたい人たちがその街に集まり、街は活気を取り戻すが…。

読売新聞 2022/12/25

2022:5./ 309p
978-4-575-24523-3

¥1,980〔税込〕





映画を早送りで見よう～ファスト映画・ネタバレ-コンテンツ消費の現在形～(光文社新書 1192)

稲田豊史 著

光文社

つまらなそうと感じたら後はずっと 1.5 倍速、会話のないシーンは即飛ばす、観る前にネタバレサイトをチェック…。一体何がそうした映画や映像の視聴スタイルを生んだのか？あまりに巨大すぎる消費社会の実態をあぶり出す。

読売新聞 2022/12/25

2022:4./ 302p
978-4-334-04600-2

¥990〔税込〕



雨滴は続く

西村 賢太 著

文藝春秋

北町貫多が同人誌に発表した小説が、大手文芸誌「文豪界」に転載された。37 年の人生において初めて訪れたチャンスをもにすべく、苦悩しながらも奮闘する作家前夜の日々を描く。『文豪界』掲載の未完の遺作を書籍化。

読売新聞 2022/12/25

2022:5./ 485p
978-4-16-391543-2

¥2,200〔税込〕



猪木と馬場(集英社新書 1114)

斎藤 文彦 著

集英社

昭和の時代、誰もが熱狂したプロレスラー“燃える闘魂”アントニオ猪木と、“東洋の巨人”ジャイアント馬場の物語。力道山門下での同日デビューから独立を経て興行戦争、引退・晩年までを綴る。『週刊ポスト』連載に加筆修正。

読売新聞 2022/12/25

2022:5./ 292p
978-4-08-721214-3

¥1,012〔税込〕



減速する素晴らしい世界

ダニー・ドーリング 著

東洋経済新報社

オックスフォード大学の気鋭の地理学者が、人口、経済、情報、テクノロジー、債務など、膨大なデータを分析。あらゆるものがすでに減速していることを解明し、人口が減少し、イノベーションが停滞した素晴らしい未来を示す。

読売新聞 2022/12/25

2022:7./ 539p
978-4-492-39666-7

¥3,080〔税込〕



遠い声をさがして～学校事故をめぐる<同行者>たちの記録～

石井 美保 著

岩波書店

2012 年夏、小学校のプールで一人の女の子が亡くなった。なぜ事故は起きてしまったのか。事故後の道程に同行した文化人類学者が、多声的な声の連なりを通して、亡き人とともに生きるの意味と可能性を考える。

読売新聞 2022/12/25

2022:6./ 9p,327p
978-4-00-061539-6

¥2,970〔税込〕





アフガニスタン・ペーパーズ～隠蔽された真実、欺かれた勝利～

クレイグ・ウィットロック 著

岩波書店

数週間で終わるはずだった作戦は、なぜアメリカ史上最長の戦争となったのか。膨大な資料が克明に語るアメリカの無知と傲慢、組織的な情報の改ざん、そして失敗の本質とは…。アフガニスタン戦争の真実を暴き出す。

読売新聞 2022/12/25

2022:6./ 22p,368p,9p
978-4-00-061543-3

¥3,960〔税込〕



泰平を演じる～徳川期日本の政治空間と「公然の秘密」～

ルーク・S. ロバーツ 著

岩波書店

徳川の泰平は、徳川政府と大名が各々の分に応じた義務を遂行する、または遂行しているように見せかける「演技」によって作られていた。統制や制度の中でどのように政治が動いていたのかを、人々の行動に即して解き明かす。

読売新聞 2022/12/25

2022:6./ 8p,259p,19p
978-4-00-061542-6

¥4,950〔税込〕



まず牛を球とします。

柞刈 湯葉 著

河出書房新社

牛は食べたいが、動物は殺したくない。そんな人類の夢が実現した未来を描く表題作、ミステリ少年漫画家の苦悩「犯罪者には田中が多い」、原子爆弾が爆発しなかった「沈黙のリトルボーイ」…。14編を収録したSF作品集。

読売新聞 2022/12/25

2022:7./ 285p
978-4-309-03056-2

¥1,980〔税込〕



麦の記憶～民俗学のまなざしから～

野本 寛一 著

七月社

多様な農耕環境の中で裏作に組み込まれ、米を主役にすえた日本人の食生活を、陰ながら支えてきた麦。現在では失われてしまった、多岐に及ぶ栽培・加工方法、食法、麦にまつわる民俗を、長年のフィールドワークにより蘇らせる。

読売新聞 2022/12/25

2022:6./ 349p
978-4-909544-25-4

¥3,300〔税込〕



ドナルド・キーンと俳句

毬矢 まりえ 著

白水社

生涯を「日本文学の伝道師」として捧げたドナルド・キーン。その日本文化研究と伝播の原点を、ドナルド・キーン賞特別賞受賞の俳人が、独自の視点で解き明かす。未発表を含むドナルド・キーンの俳句 25 句も紹介。

読売新聞 2022/12/25

2022:7./ 269p
978-4-560-09453-2

¥2,970〔税込〕





世界はさわらないとわからない～「ユニバーサル・ミュージアム」とは何か～(平凡社新書 1008)

広瀬 浩二郎 著
平凡社

コロナ禍の2021年に実施されたさわる展覧会、「ユニバーサル・ミュージアム-さわる!触」の大博覧会。展覧会を企画した全盲の人類学者が怒濤の日々を振り返る。テキストデータ引換券、ジャケット表紙に点字あり。

読売新聞 2022/12/25

2022:7./ 269p
978-4-582-86008-5
¥1,034〔税込〕



ダダ・カンスケという詩人がいた～評伝陀田勘助～

吉田 美和子 著
共和国/editorial republica

ダダを名乗った唯一の詩人としてデビューした陀田勘助(ダダ・カンスケ)。だが筆名と詩を捨てて共産主義者に転向。非合法共産党の地下活動にかかわって投獄され、29歳で獄死した。その謎の多い生涯に肉薄する。

読売新聞 2022/12/25

2022:6./ 373p
978-4-907986-59-9
¥4,070〔税込〕



天安門ファイル～極秘記録から読み解く日本外交の「失敗」～

城山 英巳 著
中央公論新社

天安門事件という戦後日中関係の「分水嶺」に日本の首相、官邸、外務省、北京の現場外交官、警察官僚らは「中国」をどう認識し、行動したのか。日本の極秘記録と政策当事者の証言に基づいて検証し、歴史の教訓を読み解く。

読売新聞 2022/12/25

2022:7./ 390p
978-4-12-005549-2
¥2,420〔税込〕



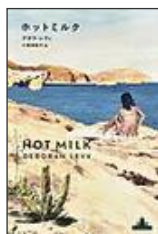
とんこつ Q&A

今村 夏子 著
講談社

大将とぼっちゃんが切り盛りする中華料理店とんこつで働き始めたわたし。居場所を見つけたはずだった。あの女が新たに雇われるまでは…。表題作など、人間の取り返しのないつかない刹那を描いた4篇を収録。『群像』掲載を書籍化。

読売新聞 2022/12/25

2022:7./ 220p
978-4-06-528396-7
¥1,650〔税込〕



ホットミルク(CREST BOOKS)

デボラ・レヴィ 著
新潮社

原因不明の病で歩けない母と、献身的に介護する25歳の娘ソフィアは、治療のため南スペインの町を訪れた。夏の太陽と海の誘惑のなか、ソフィアは自分を覆っている本当の痛みと向き合い、ある決断をするのだが…。

読売新聞 2022/12/25

2022:7./ 315p
978-4-10-590182-0
¥2,420〔税込〕





大久保利通～「知」を結ぶ指導者～(新潮選書)

瀧井 一博 著

新潮社

富国強兵と殖産興業に突き進んだ強権的な指導者像の裏で、人の才を見出して繋ぎ、地方からの国づくりを目指した大久保利通。膨大な史資料を読み解き、「知の政治家」としての新たなイメージを浮かび上がらせる。

2022:7./ 521p,5p
978-4-10-603885-3

¥2,420〔税込〕



読売新聞 2022/12/25



岡本綺堂怪談文芸名作集

東 雅夫 編

岡本綺堂 著

双葉社

生誕 150 年を記念した岡本綺堂のアンソロジー。「青蛙神」「猿の眼」「停車場の少女」「離魂病」など、1 世紀余を経て、なお冴えわたる<妖怪>と<怪談>をテーマにした名作全 21 作を収録する。

2022:9./ 411p
978-4-575-24563-9

¥3,300〔税込〕



読売新聞 2022/12/25



ループ・オブ・ザ・コード

荻堂 顕 著

新潮社

疫病禍を経験した未来。WEO(世界生存機関)に所属するアルフォンソは、かつて<抹消>を経験した国家<イグノラビムス>での現地調査を命じられる。謎の病とテロ事件に襲われた彼の国に隠された真相とは。近未来諜報小説。

2022:8./ 408p
978-4-10-353822-6

¥2,090〔税込〕



読売新聞 2022/12/25



レッドゾーン

夏川 草介 著

小学館

日進義信は内科医として長野県信濃山病院に勤めていた。院長の南郷は横浜港に停泊中のクルーズ船内の新型コロナ患者の受け入れを決めるが…。全 3 話収録。コロナ禍の最前線に立つ現役医師が綴る勇気の物語。「臨床の砦」続編。

2022:9./ 318p
978-4-09-386647-7

¥1,650〔税込〕



読売新聞 2022/12/25



旧約聖書がわかる本～<対話>でひもとくその世界～(河出新書 055)

並木 浩一、奥泉 光 著

河出書房新社

旧約聖書とはどんな書物なのか?旧約聖書のテキストを引用しながら、小説のように自由で、思想書のように挑発的なその本質をつかみ出す、旧約聖書研究のプロとその下で学んだ異才の小説家の<対話>による入門書。

2022:9./ 434p
978-4-309-63156-1

¥1,397〔税込〕



読売新聞 2022/12/25



中国ビジネス法大全

射手矢 好雄 著

時事通信出版局

中国ビジネス法務の実務書。中国の仕組み、共産党の指導などを説明したうえで、基本法から、投資の方法、コンプライアンス、商取引、撤退と再編、紛争処理まで、重要な実務のポイントを最先端の情報とともに解説する。

読売新聞 2022/12/25

2022:10./ 523p
978-4-7887-1849-4

¥3,960〔税込〕



WHITE SPACE～仕事も人生もうまくいく空白時間術～

ジュリエット・ファント 著

東洋経済新報社

つつい「空白」を恐れて「予定」を入れてしまう。しかし本当に効率的、創造的な仕事をするために必要なのは、「空白(ホワイトスペース)」という名の燃料だった。戦略的「何もしない」時間術を伝授する。

読売新聞 2022/12/25

2022:10./ 347p,7p
978-4-492-22407-6

¥1,870〔税込〕



中村吉右衛門舞台に生きる～芸に命を懸けた名優～

中村 吉右衛門 著

小学館

昭和～令和の歌舞伎に大きな足跡を残した中村吉右衛門。晩年の舞台や楽屋での姿を記録した写真、雑誌『本の窓』に掲載した随筆、当たり役の数々について語った芸談、自身の手による絵画作品を通して、その芸と人柄を辿る。

読売新聞 2022/12/25

2022:9./ 246p
978-4-09-388872-1

¥4,950〔税込〕



夏日狂想

窪 美澄 著

新潮社

私は男たちの夢より、自分の夢を叶えたかった。書くという夢を-。さまざまな文学者との恋の果てに、礼子が掴んだものは？ 激動の現代史を背景に、懸命に生き抜いた「書く女」の生涯を描く。『小説新潮』連載を書籍化。

読売新聞 2022/12/25

2022:9./ 380p
978-4-10-325926-8

¥1,980〔税込〕



社会をつくった経済学者たち～スウェーデン・モデルの構想から展開へ～

藤田 菜々子 著

名古屋大学出版会

福祉先進国・スウェーデンの礎を築いた経済学者たち。スウェーデン経済学の全体像を、彼らの政治・世論との深いかかわりとともに解明。福祉国家への合意を導いた決定的役割と、現代におけるその変容までを鮮やかに描き出す。

読売新聞 2022/12/25

2022:9./ 8p,428p
978-4-8158-1097-9

¥6,930〔税込〕





ファスト教養～10分で答えが欲しい人たち～(集英社新書 1133)

レジー 著

集英社

社交スキルアップのために古典を読み、名著の内容を YouTube でチェック…。このような「ファスト教養」がビジネスパーソンの間で広まっている。現代の「教養論」を分析しながら、日本の息苦しさの正体を明らかにする。

読売新聞 2022/12/25

2022:9./ 251p
978-4-08-721233-4

¥1,056〔税込〕



評伝モハメド・アリ～アメリカで最も憎まれたチャンピオン～

ジョナサン・アイグ 著

岩波書店

不遜な態度で最も嫌われた世界ヘビー級チャンピオンは、いかにして史上最も愛される「反逆のアイコン」になったのか？ モハメド・アリの知られざる悲劇を、多数の関係者への取材、新資料から描きだす。

読売新聞 2022/12/25

2022:9./ 15p,589p,16p
978-4-00-024548-7

¥3,960〔税込〕



古代ギリシアの民主政(岩波新書 新赤版 1943)

橋場 弦 著

岩波書店

民主政はどのように生まれ、発展し、消え去ったか。どんなしくみで動いていたのか。2000年以上も前に史上から消えたとされる民主政が、どのような形で近代に復活し、現代に至ったのか。研究成果を織り込みながら論考する。

読売新聞 2022/12/25

2022:9./ 3p,245p,11p
978-4-00-431943-6

¥990〔税込〕



不透明の彼方の作家ケジラハビ～スワヒリ語文学界の挑発者～

小野田 風子 著

大阪大学出版会

猥雑で曖昧そして不透明な革新的作品群はどのように生まれ、何処へ向かうのか-。「ナゴナ」「迷宮」など、自由詩と実験的小説を確立させた、現代スワヒリ語文学の代表的作家ケジラハビに関する日本初の本格的な研究書。

読売新聞 2022/12/25

2022:8./ 12p,373p
978-4-87259-758-5

¥6,930〔税込〕



尚、赫々たれ～立花宗茂残照～

羽鳥 好之 著

早川書房

神君家康はいかにして「関ヶ原」を勝ち抜いたのか、考えを聞かせてほしい。三代将軍家光から諮問を受けた立花宗茂の語りによって、やがて解き明かされる天下を分けた決戦の不可解さ、家康の深謀と西軍敗走の真相…。

読売新聞 2022/12/25

2022:10./ 297p
978-4-15-210179-2

¥2,200〔税込〕





子どもたちに民主主義を教えよう～対立から合意を導く力を育む～

工藤勇一、苫野一徳 著

英治出版

学校改革のすべては、「学校を民主主義を学ぶ場所に変える」ことにつながっている。学校が民主主義の土台となるとはどんなことか、本来の教育の役割とはいったい何か。抽象と具体、理論と実践の両方から徹底的に議論する。

読売新聞 2022/12/25

2022:10./ 224p
978-4-910827-00-1

¥1,980〔税込〕



聞く技術 聞いてもらう技術(ちくま新書 1686)

東畑 開人 著

筑摩書房

「聞く」は声が耳に入ってくること。「聞く」の不全が社会を覆ういまこそ「聞く」を再起動しなければならない。カウンセラーが、聞くための小手先の技術から、聞いてもらうことに備わる深いちからまでを紹介。

読売新聞 2022/12/25

2022:10./ 249p
978-4-480-07509-3

¥946〔税込〕



いきている山

ナン・シェパード 著

みすず書房

山の「内側」や「奥地」を求めて山に入り続けたナン。五感を解放し、光、影、水、風、土、草花、鳥、雨などいきている山の営みに出会い直す。詩性溢れる文章で自然と肉体の交感を語ったネイチャーライティングの名作。

読売新聞 2022/12/25

2022:10./ 230p
978-4-622-09529-3

¥3,520〔税込〕



矢部貞治～知識人と政治～(中公選書 130)

井上寿一 著

中央公論新社

ヒトラーが台頭する欧米に留学し、政治の大きな変革を目撃した矢部貞治。東大で政治学を講じながら近衛文麿のブレーンとして何を画策し、どう動いたか。その生涯を通し、日本における政治と知識人との関係を描く。

読売新聞 2022/12/25

2022:11./ 8p,274p
978-4-12-110131-0

¥1,760〔税込〕



星新一～一〇〇一話をつくった人～<上>(新潮文庫)

最相 葉月 著

新潮社

大企業の御曹司として生まれた少年は、いかにして今なお愛される作家となったのか。知られざる実像を浮かび上がらせる評伝。

日本経済新聞 2022/12/03

2010:3./ 404p
978-4-10-148225-5

¥737〔税込〕





星新一〜一〇〇一話をつくった人〜<下>(新潮文庫)

最相 葉月 著

新潮社

「懂れて小説家になったのではない。それ以外、道は残されてなかった」大企業の御曹司から、小説家へ。その知られざる生涯。傑作評伝。

日本経済新聞 2022/12/03

2010:3./ 477 p

978-4-10-148226-2

¥781〔税込〕



スタイルズ荘の怪事件(ハヤカワ・ミステリ文庫)

アガサ・クリスティー 著

早川書房

日本経済新聞 2022/12/03

1982:6./ 296p

978-4-15-070067-6

¥660〔税込〕



あなたが子どもだったころ〜河合隼雄対談集〜

河合 隼雄 著

光村図書出版

日本経済新聞 2022/12/03

1988:6./ 263p

978-4-89528-054-9

¥1,320〔税込〕



さあ、才能(じぶん)に目覚めよう〜ストレングス・ファインダー2.0〜 新版

トム・ラス 著

日本経済新聞出版社

ビジネスを成功に導く、あなたの強みは何か? 「アレンジ」「活発性」「収集心」「内省」「未来志向」といった 34 の資質をあげ、それぞれの活用例などを紹介する。ウェブテストのアクセスコードを記載した袋綴じ付き。

日本経済新聞 2022/12/03

2017:4./ 225p

978-4-532-32143-7

¥1,980〔税込〕



歴史修正主義〜ヒトラー賛美、ホロコースト否定論から法規制まで〜(中公新書 2664)

武井 彩佳 著

中央公論新社

ナチスによるユダヤ人虐殺といった史実を、意図的に書き替える歴史修正主義。ホロコースト否定論が世界各地で噴出し、裁判や法規制も進む。100 年以上に及ぶ欧米の歴史修正主義の実態を追い、歴史とは何かを問う。

日本経済新聞 2022/12/03

2021:10./ 5p,250p

978-4-12-102664-4

¥924〔税込〕



ゼレンスキーの素顔〜真の英雄か、危険なポピュリストか〜

セルヒー・ルデンコ 著

P H P 研究所

ウクライナの大統領選挙で主役の座に躍り出たゼレンスキー。汚職や腐敗の一掃を掲げて圧勝したものの、自身もスキャンダルに巻き込まれる。そして戦時下の大統領となり…。ゼレンスキーの素顔を活写する評伝。

日本経済新聞 2022/12/03

2022:8./ 269p

978-4-569-85249-2

¥1,980〔税込〕





2030 年会社員の未来～ESG 投資で激変!～

市川 祐子 著

日経 B P 社

ESG(環境・社会・ガバナンス/企業統治)に企業が取り組むことを、なぜ投資家が求めるのか。ステークホルダー資本主義、日本の会社員の働き方を変える ESG 投資、コーポレートガバナンスなどについて解説する。

日本経済新聞 2022/12/03

2022:9./ 315p
978-4-296-11289-0

¥2,200〔税込〕



戦略的コミュニケーションと国際政治～新しい安全保障政策の論理～

青井 千由紀 著

日経 B P 社

情報化と価値外交の時代の新たな政策課題である戦略的コミュニケーションを、理論的・歴史的、公共政策的視野にもとづいて解説し、安全保障を可能とする条件を構築するアプローチ、マインドセットとして提示する。

日本経済新聞 2022/12/03

2022:10./ 5p,308p
978-4-296-11522-8

¥3,960〔税込〕



老いてきたけど、まあ～いっか。

野沢 直子 著

ダイヤモンド社

何歳になっても自分が好きだと思える洋服を着る、「やりたくはないが、やらなければいけないこと」なんて極力手を抜いていこう…。人生の最終章を思いぎり楽しむための、野沢直子流「老いとの向き合い方」を綴る。

日本経済新聞 2022/12/03

2022:10./ 230p
978-4-478-11577-0

¥1,540〔税込〕



闘う図書館～アメリカのライブラリアンシップ～(筑摩選書 0239)

豊田 恭子 著

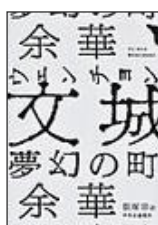
筑摩書房

格差の拡大に直面する現代社会において、図書館はいかなる役割を担っているのか。トランプ政権との対立、移民の受け入れ、デジタル化の最前線など、理念と現実の狭間でもがくアメリカ図書館界の知られざる奮闘を活写する。

日本経済新聞 2022/12/03

2022:10./ 248p
978-4-480-01758-1

¥1,760〔税込〕



文城～夢幻の町～

余華 著

中央公論新社

20 世紀初頭の清末民初、匪賊が跋扈し自然災害が襲う混迷の時代、林祥福は、兄とともに南方の町「文城」からやって来た女・小美を妻にする。束の間の幸せが訪れたが、小美は林家の金を持ち出し姿をくらまし…。

日本経済新聞 2022/12/03

2022:10./ 443p
978-4-12-005584-3

¥4,400〔税込〕





ウォンバットのうちはなぜ、四角いのか?〜とあるウォンバット研究者の数奇な人生〜

高野光太郎 著

晶文社

めっちゃ硬いお尻、時速 40km で走る足、とにかくかわいい! オーストラリアに生息する不思議な生き物、ウォンバットの秘密と魅力のすべてを、高校卒業後すぐにオーストラリアの大自然へと旅立った研究者が徹底紹介する。

日本経済新聞 2022/12/03

2022:10./ 238p
978-4-7949-7328-3

¥1,760〔税込〕



ルポ動物園(ちくま新書 1695)

佐々木 央 著

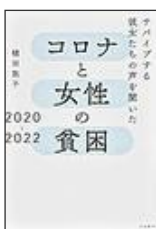
筑摩書房

動物園の持つ原罪とは何か。動物園のメディアとしての特性は何か。動物を擬人化してもいいのか。飼育係は、どのように動物と関わるのか。日本各地の動物園・水族館をまわって考えた過去・現在・未来。共同通信配信を書籍化。

日本経済新聞 2022/12/03

2022:11./ 285p
978-4-480-07518-5

¥1,034〔税込〕



コロナと女性の貧困～2020-2022～

樋田 敦子 著

大和書房

新型コロナウイルスに翻弄される女性たち。2020 年から 2 年半、現場を訪ね歩き、不寛容な社会で必死に生きる彼女たちの声を記録した渾身のルポ。『婦人公論』『弁護士ドットコムニュース』掲載を書籍化。

日本経済新聞 2022/12/03

2022:10./ 299p
978-4-479-39392-4

¥1,760〔税込〕



広告の仕事～広告と社会、希望について～(光文社新書 1229)

杉山 恒太郎 著

光文社

日本の広告界のレジェンドが、広告の力が落ちた原因を探りつつ、その復活のための方法論を模索。自らのクリエイティブを振り返りながら、広告の未来を熱く鋭く語る。山口周との対談も収録。

日本経済新聞 2022/12/03

2022:11./ 232p
978-4-334-04636-1

¥968〔税込〕



信仰の現代中国～心のよりどころを求める人びとの暮らし～

イアン・ジョンソン 著

白水社

ピューリッツァー賞受賞ジャーナリストが、拝金主義のはびこる中国で、季節ごとの伝統行事を实践し、古くからの習慣や信仰を守る人びとの生活に密着したノンフィクション。信仰と伝統を通して、もう一つの中国が見えてくる。

日本経済新聞 2022/12/03、読売新聞 2022/12/04、朝日新聞 2022/12/24

2022:9./ 418p,16p
978-4-560-09866-0

¥3,630〔税込〕





ベンチャーキャピタル全史

トム・ニコラス 著

新潮社

ベンチャーキャピタルによる資金調達において、アメリカの優位性はどのように形成されたのか。捕鯨産業から GAFA、バイオベンチャーまで、起業家と守護神の関係をひもとく。ハーバード・ビジネス・スクールの講義を書籍化。

日本経済新聞 2022/12/03、読売新聞 2022/12/11

2022:9./ 469p,39p

978-4-10-507291-9

¥3,960〔税込〕



先祖祭祀と墓制の近代～創られた国民的習俗～

問芝志保 著

春風社

日本の「伝統的」な習俗は、いつ生まれ、どのようにつくりかえられ、普及してきたのか？ 明治～昭和戦前期における日本の先祖祭祀と墓制の近代的な再編過程を、宗教社会学の立場から明らかにする。

日本経済新聞 2022/12/10

2020:10./ 354p,5p

978-4-86110-692-7

¥5,500〔税込〕



スモールワールズ

一穂 ミチ 著

講談社

夫婦円満を装う主婦と、家庭に恵まれない少年。初孫の誕生に喜ぶ祖母と娘家族。向き合うことができなかった父と子…。誰かの悲しみに寄り添いながら、愛おしい喜怒哀楽を描く連作集。『小説現代』掲載を単行本化。

日本経済新聞 2022/12/10

2021:4./ 299p

978-4-06-522269-0

¥1,650〔税込〕



辻政信の真実～失踪 60 年-伝説の作戦参謀の謎を追う～(小学館新書 401)

前田 啓介 著

小学館

奇襲「マレー作戦」の参謀・辻政信。戦後、ベストセラー「潜行三千里」を発表、さらに国政選挙でトップ当選を果たすが、東南アジアへ旅立った後に失踪した。残された親族、関係者に取材し、その知られざる実像に迫る本格評伝。

日本経済新聞 2022/12/10

2021:6./ 446p

978-4-09-825401-9

¥1,210〔税込〕



論語と冠婚葬祭～儒教と日本人～

加地 伸行／一条 真也 著

現代書林

日本人の冠婚葬祭の本質は、儒教という光線を当てることによって浮かび上がってくる。儒教研究の第一人者・加地伸行と、礼の求道者・一条真也による画期的な対談。

日本経済新聞 2022/12/10

2022:5./ 207p

978-4-7745-1948-7

¥1,320〔税込〕





無縁社会の葬儀と墓～死者との過去・現在・未来～

山田 慎也／土居 浩 編

吉川弘文館

直葬・墓じまい・孤立死・無縁社会など、伝統的な死者儀礼の衰退・崩壊が喧伝される現在。眼前で勃興し、一方で消滅しつつある死者儀礼の実態・制度・観念を取り上げ、歴史的把握を試みる。

日本経済新聞 2022/12/10

2022:7./ 12p,245p

978-4-642-08206-8

¥4,180〔税込〕



葬式消滅～お墓も戒名もいらない～

島田裕巳 著

G. B.

ビジネスとして始まった仏教式の葬式、あまりにも高騰しすぎた戒名料…。葬式はどのように変化したのか。現代の葬式が抱える数々の矛盾や変容する死生観をとらえ、これから故人をどう見送り、弔うかを考える。

日本経済新聞 2022/12/10

2022:6./ 207p

978-4-910428-19-2

¥1,760〔税込〕



葬儀!

ジュリエット カズ 著

柏書房

チベットの天葬、スコットランドの死体金庫…。あらゆる時代と場所の葬儀のなかから、死に対する生者の行為が特殊な例を選び、人類学や考古学の知見とともに紹介する。人類学者による、さらに深く学ぶためのガイド付き。

日本経済新聞 2022/12/10

2022:7./ 167p,6p

978-4-7601-5459-3

¥1,980〔税込〕



キューバ・ミサイル危機～広島・長崎から核戦争の瀬戸際へ 1945-62～<上>

マーティン・J・シャーウィン 著

白水社

1962年10月、人類は「最終戦争」の断崖に立った。原爆開発から冷戦下の米ソ核軍拡競争に至る文脈にキューバ・ミサイル危機を位置づけ、一触即発の攻防の深層を描く。口絵写真も多く収録。

日本経済新聞 2022/12/10

2022:8./ 301p,75p

978-4-560-09448-8

¥4,400〔税込〕



クジラの海をゆく探究者たち～『白鯨』でひもとく海の自然史～<上>

坪子 理美 編

リチャード・J・キング 著

慶應義塾大学出版会

白いクジラを追って捕鯨船が世界の海を冒険する物語「白鯨」。その豊かな内容を現代の自然科学の水準で検証し、読み解きながら、人間とクジラの長い営みから得た知恵を現代に蘇らせる。

日本経済新聞 2022/12/10

2022:10./ 272p,31p

978-4-7664-2836-0

¥3,300〔税込〕





クジラの海をゆく探究者たち〜『白鯨』でひもとく海の自然史〜<下>

坪子 理美 編

リチャード・J・キング 著

慶應義塾大学出版会

白いクジラを追って捕鯨船が世界の海を冒険する物語「白鯨」。その豊かな内容を現代の自然科学の水準で検証し、読み解きながら、人間とクジラの長い営みから得た知恵を現代に蘇らせる。

日本経済新聞 2022/12/10

2022:10./ 253p,46p

978-4-7664-2837-7

¥3,520〔税込〕



「強い円」はどこへ行ったのか(日経プレミアシリーズ 481)

唐鎌大輔 著

日経B P社

50年ぶりの円安水準に直面した日本経済。円相場を取り巻く環境に、何が起きているのか。人気アナリストが背景にある構造要因を冷静に分析。将来に向け捉えるべき課題を整理する。

日本経済新聞 2022/12/10

2022:9./ 203p

978-4-296-11506-8

¥990〔税込〕



キューバ・ミサイル危機〜広島・長崎から核戦争の瀬戸際へ 1945-62〜<下>

マーティン・J・シャーウィン 著

白水社

「最終戦争」を免れたのは、実はほんの偶然にすぎなかった。なぜ軍事的選択が海上封鎖に踏みとどまり、外交的解決につながったのか？核管理・軍縮論の第一人者が、キューバ・ミサイル危機を徹底検証する。

日本経済新聞 2022/12/10

2022:10./ 327p,77p

978-4-560-09449-5

¥4,400〔税込〕



華語文学の新しい風(サイノフォン 1)

王 徳威／高 嘉謙／黄 英哲／張 錦忠／及川 茜／濱田 麻矢 編

白水社

中国大陸を含め、東南アジアに根をおろし、枝葉を茂らせる華語文学の、多様で豊かな広がりを紹介するアンソロジー。小説、旅行記、詩、SFなど様々なジャンルから世界を切り取る17篇を収録する。

日本経済新聞 2022/12/10

2022:10./ 357p

978-4-560-09875-2

¥3,520〔税込〕



イタリアの美しい村を歩く(かもめの本棚)

中山 久美子 著

東海教育研究所

イタリア在住の著者が、これまでに訪れた「イタリアの最も美しい村」の中から30の村をセレクト。古きよきものが息づく小さな村の魅力を、旅先での出会いやエピソードを交えながら綴る。WEB『かもめの本棚』連載を書籍化。

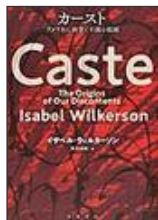
日本経済新聞 2022/12/10

2022:10./ 253p

978-4-924523-35-7

¥2,200〔税込〕





カースト～アメリカに渦巻く不満の根源～

イザベル・ウィルカーソン 著

岩波書店

アメリカの民主主義を蝕むカーストの恐るべき悪とは。ピューリッツァー賞受賞・黒人女性作家が自らの体験をもとに、差別の底に潜む、白人、パラモン、アーリア人の「優越」を保持するカースト制度のメカニズムを探る。

日本経済新聞 2022/12/10

2022:9./ 15p,451p
978-4-00-061556-3

¥4,180〔税込〕



正岡子規ベースボール文集(岩波文庫 31-013-13)

復本 一郎 著

岩波書店

久方のアメリカ人のはじめにしベースボールは見れど飽かぬかも 無類のベースボール好きだった正岡子規が、アメリカより伝来して間もないその球技の愉しさを、折りにふれ綴った句、歌、随筆を集録する。

日本経済新聞 2022/12/10

2022:9./ 125p
978-4-00-360043-6

¥462〔税込〕



優良中古マンション不都合な真実～管理会社、保険、修繕積立金の裏側～

伊藤 歩 著

東洋経済新報社

ある朝、突然、漏水事故の加害者になった金融ジャーナリストが突き止めた、マンションの不都合な真実とは。多発するマンション漏水事故をもとに、マンション保険と管理会社の癒着、管理組合の無力さなどを解説する。

日本経済新聞 2022/12/10

2022:10./ 277p
978-4-492-04710-1

¥1,650〔税込〕



山奥ビジネス～一流の田舎を創造する～(新潮新書 971)

藻谷 ゆかり 著

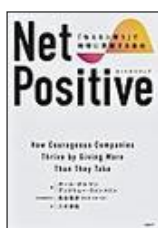
新潮社

「山奥」は豊かなフロンティアだ! ハイバリュー・ローインパクト(高付加価値で環境負荷が低い)なビジネスや、若い世代やユニークな事業を呼び込んでいる自治体事例を紹介し、「一流の田舎」を創る戦略を提示する。

日本経済新聞 2022/12/10

2022:10./ 207p
978-4-10-610971-3

¥858〔税込〕



Net Positive～「与える>奪う」で地球に貢献する会社～

ポール・ボルマン／アンドリュー・ウィンストン／魚谷 雅彦 著

日経BP社

あなたの会社があることで、世界はよりよくなっているのだろうか? 人々と地球の問題を解決する企業ほど成功する可能性が高いことを説き、世界にポジティブな影響を及ぼす企業となるためにはどうすればよいかを伝える。

日本経済新聞 2022/12/10

2022:10./ 533p
978-4-296-00107-1

¥2,530〔税込〕





光のところにね

一穂 ミチ 著

文藝春秋

古びた団地の片隅で出会った結珠と果遠。ふたりは何もかもが違った。着るものも食べる物も住む世界も-。ひとつの愛に惑うふたりの四半世紀の物語。『別冊文藝春秋』連載を書籍化。

日本経済新聞 2022/12/10

2022:11./ 462p
978-4-16-391618-7
¥1,980〔税込〕



目をあけてごらん、離陸するから

大崎 清夏 著

リトル・モア

会社を辞め、身ひとつで詩を書いて生きることにした。地球のあちこちで、言葉に翻弄されて立ち尽くし、言葉に勇気づけられて歩き出す。中原中也賞受賞の詩人が、小説とエッセイで“魂の解放”を描く。

日本経済新聞 2022/12/10

2022:11./ 214p
978-4-89815-567-7
¥1,650〔税込〕



オックスフォード哲学者奇行

児玉 聡 著

明石書店

アンスコム、ストローソン、バーフィット…。明晰で分析的な文章の裏にある、哲人たちの一風変わった人生とは。ゴシップからはじめる不真面目な英国哲学入門。『Web あかし』連載に加筆して書籍化。

日本経済新聞 2022/12/10

2022:11./ 366p
978-4-7503-5481-1
¥2,420〔税込〕



海の上の建築革命～近代の相克が生んだ超技師の未来都市<軍艦島>～

中村 享一 著

忘羊社

日本最古の鉄筋コンクリートマンション「30号棟」を擁する世界遺産<軍艦島>はなぜ生まれたのか。近代三菱のエンジニアたちが、台風・疫病等の課題に直面しながら、高層建築群を生み出していくまでの知られざる歴史を描く。

日本経済新聞 2022/12/17

2020:9./ 266p
978-4-907902-25-4
¥2,640〔税込〕



企業のアーキテクチャー～コーポレートガバナンス改革のゆくえ～

朝岡 大輔 著

東京大学出版会

コーポレートガバナンス改革を端緒として、企業経営における価値や資本コストにまつわる諸問題を検討。企業を仕組み(アーキテクチャー)とみて、法制度と財務、理論と実務からわかりやすく解説する。判例・事項索引付き。

日本経済新聞 2022/12/17

2022:5./ 8p,241p
978-4-13-040306-1
¥3,740〔税込〕





日本株を動かす外国人投資家の思考法と投資戦略

菊地 正俊 著

日本実業出版社

日本株売買シェアの7割を占める外国人投資家の最新動向を、彼らの実像に精通したストラテジストが解説。投資行動の特性、好む銘柄・敬遠する銘柄などを紹介し、その手法&動きに学んで個人投資家が儲ける方法を伝える。

日本経済新聞 2022/12/17

2022:8./ 273p
978-4-534-05943-7

¥1,760〔税込〕



普通の若者がなぜテロリストになったのか〜戦闘員募集の実態、急進派・過激派からの脱出と回帰の旅路〜

カーラ・パワー 著

原書房

なぜ宗教に関係のない若者たちがテロ組織に加わったのか、その背景とは。そして彼らの帰還と社会復帰を支援する人々の模索とは。2度ピューリッツァー賞ファイナリストとなったジャーナリストによるノンフィクション。

日本経済新聞 2022/12/17

2022:9./ 429p,15p
978-4-562-07203-3

¥2,750〔税込〕



新解釈コーポレートファイナンス理論〜「企業価値を拡大すべき」って本当ですか?〜

宮川 壽夫 著

ダイヤモンド社

長期的な株主は本当にありがたい存在か? 経費削減の努力はなぜいつまでも報われないのか? ミクロ経済学の理論をもとに企業活動の謎を解き、資本主義の本質に迫る。知識を教養に変える、コーポレートファイナンス入門。

日本経済新聞 2022/12/17

2022:10./ 443p
978-4-478-11671-5

¥1,980〔税込〕



日本人が知らない世界の祝祭日事典

斗鬼正一 著

淡交社

時間の裂け目をやり過ごすインドネシアのニュピ、いつの世も猫には幸せでいてほしいベルギーの猫祭り…。文化人類学者が、日本人の知らない世界の祝祭日と、その国・地域の文化や歴史、価値観などを紹介する。

日本経済新聞 2022/12/17

2022:9./ 223p
978-4-473-04521-8

¥1,870〔税込〕



ボーダー〜移民と難民〜

佐々 涼子 著

集英社インターナショナル

命からがら、日本にたどり着いた難民たちを、私たちはどう受け入れてきたのか? 難民の受け入れ、入管の改善のために闘い続ける難民弁護士の奮闘の日々を、在留外国人への取材とともに綴る。『kotoba』掲載を書籍化。

日本経済新聞 2022/12/17

2022:11./ 267p
978-4-7976-7402-6

¥1,980〔税込〕





MEGATHREATS～世界経済を破滅させる 10 の巨大な脅威～

ヌリエル・ルービニ 著

日経 B P 社

金融・財政の緩和に過剰債務が重なった現在、1970 年代のスタグフレーションとは比較にならないレベルの「大スタグフレーション債務危機」が待っている。世界金融危機を予見した著者が、世界大混乱を警告する。

日本経済新聞 2022/12/17

2022:11./ 417p
978-4-296-11532-7

¥2,640〔税込〕



日本の「第九」～合唱が社会を変える～

矢羽々 崇 著

白水社

日本で年末に演奏されることで知られるベートーヴェンの「第九」は、戦前から「忠臣蔵」などに比せられ、市民に親しまれている曲だった。昭和期前半に、日本で「第九」がいかに受け入れられ、定着していったのかを論じる。

日本経済新聞 2022/12/17、読売新聞 2022/12/18

2022:10./ 299p,3p
978-4-560-09466-2

¥3,080〔税込〕



物語ウクライナの歴史～ヨーロッパ最後の大国～(中公新書)

黒川祐次 著

中央公論新社

日本経済新聞 2022/12/24

2002:8./ 268p
978-4-12-101655-3

¥946〔税込〕



本当の自由を手に入れるお金の大学

両@リベ大学長 著

朝日新聞出版

「貯める・稼ぐ・増やす・守る・使う」という、お金にまつわる 5 つの力を鍛えて、自由な生活を手に入れよう! 月 10 万円の節約の仕方、年収 100 万円アップの秘訣など、お金の悩みを解決する方法を伝授する。

日本経済新聞 2022/12/24

2020:6./ 269p
978-4-02-331878-6

¥1,540〔税込〕



変な家

雨穴 著

飛鳥新社

謎の空間、二重の扉、窓のない子供部屋、この家、何かがおかしい。知人が購入を検討している都内の中古一軒家には「謎の空間」が存在していた。不可解な間取りの真相とは…。YouTube で人気の不動産ミステリー。

日本経済新聞 2022/12/24

2021:7./ 244p
978-4-86410-845-4

¥1,400〔税込〕





ひらやすみ(ビッグ コミックス)

真造 圭伍 著

小学館

生田ヒロト、29歳、フリーター。定職なし、恋人なし、普通ならあるはずの？将来の不安も一切ない、お気楽な自由人です。そんな彼は、人柄のよさだけで、仲良くなった近所のおばあちゃん・和田はなえさんから、タダで一戸建ての平屋を譲り受けることに。そして、山形から上京してきた18歳の従姉妹・なつみちゃんと2人暮らしを始めました。しかし、彼の周りには生きづらい“悩み”を抱えた人々が集まってきて...

日本経済新聞 2022/12/24

2021.9./ 192p
978-4-09-861118-8

¥715〔税込〕



NOISE～組織はなぜ判断を誤るのか?～<下>

ダニエル・カーネマン／オリヴィエ・シボニー／キャス・Ｒ・サンスティーン 著

早川書房

集団における意思決定者間の判断のばらつき＝ノイズ。科学調査における情報管理、人事評価の尺度…。ノイズを見出し、原因を探り、組織や社会への悪影響を明らかにするとともに解消策を提案する。

日本経済新聞 2022/12/24

2021.12./ 322p
978-4-15-210068-9

¥2,310〔税込〕



NOISE～組織はなぜ判断を誤るのか?～<上>

ダニエル・カーネマン／オリヴィエ・シボニー／キャス・Ｒ・サンスティーン 著

早川書房

集団における意思決定者間の判断のばらつき＝ノイズ。犯罪と刑罰、集団によるノイズの増幅、人間の判断とモデル…。ノイズを見出し、原因を探り、組織や社会への悪影響を明らかにするとともに解消策を提案する。

日本経済新聞 2022/12/24

2021.12./ 314p
978-4-15-210067-2

¥2,310〔税込〕



リュウジ式至高のレシピ～人生でいちばん美味しい!～

リュウジ 著

ライツ社

味噌汁ではなくモツ煮のやり方で作る豚汁、味つけは「煮詰めたケチャップ」だけのナポリタン…。定番料理が見たことのないアイデアで人生最高の味にキマる至高のレシピを紹介。工程はプロセス写真で丁寧に解説する。

日本経済新聞 2022/12/24

2021.12./ 191p
978-4-909044-34-1

¥1,650〔税込〕



さばの缶づめ、宇宙へいく～鯖街道を宇宙へつなげた高校生たち～

小坂康之／林公代 著

イースト・プレス

宇宙食さば缶の開発はどのように始まり、幾多の困難を乗り越え、JAXAの正式認証を勝ち得て、宇宙に飛ばすことができたのか。福井県立若狭高校の生徒と、彼らの頑張りに引っ張られた大人たちが織り成したドラマを描く。

日本経済新聞 2022/12/24

2022.1./ 205p
978-4-7816-2042-8

¥1,650〔税込〕





呼応〜句集〜(澤俳句叢書 第31篇)

相子 智恵 著

左右社

そらんじて相聞歌なり雪明り 木犀や漱石の句に子規の丸 群青世界セーターを頭の抜くまで 第55回角川俳句賞を受賞した著者の第1句集。21歳の作から37歳の作まで、16年間の326句を収録。

日本経済新聞 2022/12/24

2021.12./ 190p
978-4-86528-050-0

¥1,980〔税込〕



捜索者(ハヤカワ・ミステリ文庫 HM 496-1)

タナ・フレンチ 著

早川書房

アイルランドの小さな村に移住してきた元シカゴ市警刑事・カルは、地元の子どもから、失踪した兄を捜してほしいと頼まれる。誰もが失踪の理由に心当たりがないと話すなか、穏やかに見えた村の暗部がカルを脅かしていく....。

日本経済新聞 2022/12/24

2022.4./ 681p
978-4-15-185001-1

¥1,782〔税込〕



人口大逆転〜高齢化、インフレの再来、不平等の縮小〜

チャールズ・グッドハート／マノジ・プラダン 著

日経BP社

これから30年、本格的なインフレと金利上昇の時代がやってくる! 「グッドハートの法則」で知られる経済学者らが、高齢化とグローバル化の減速に伴い世界経済の構造が激的に変化することを骨太に説く。

日本経済新聞 2022/12/24

2022.5./ 373p
978-4-296-11309-5

¥3,300〔税込〕



アート&デザイン表現史〜1800s-2000s〜

松田 行正 著

左右社

グラフィック・デザイン、絵画、写真、建築、映画、音楽...。「モダン」が誕生した19世紀から現在までのポスト・モダンを含む約200年のアートとデザインの動向を、表現法を軸として年代順に読み解く。

日本経済新聞 2022/12/24

2022.2./ 439p
978-4-86528-058-6

¥4,950〔税込〕



ヨーロッパ・イン・オータム(竹書房文庫 は10-1)

デイヴ・ハッチンソン 著

竹書房

パンデミックの影響で、ヨーロッパにマイクロ国家が乱立。ポーランドでシェフとして働くルディは、巨大な謎の組織の一員となって任務をこなしていく。だが、ある任務でショッキングなできごとが起きて...。SFスパイスリラー。

日本経済新聞 2022/12/24

2022.7./ 482p
978-4-8019-3168-8

¥1,540〔税込〕





四角六面〜キューブとわたし〜

エルノー・ルービック／エルノー・ルービック 著

光文社

累計 3 億 5000 万個を売り上げ、世界の 7 人に 1 人が遊んだことがあるというルービックキューブ。その数奇な運命と尽きせぬ魅力を、発明者エルノー・ルービックみずから人生哲学とともに語る。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:3./ 259p
978-4-334-96254-8

¥2,090〔税込〕



脱北航路

月村 了衛 著

幻冬舎

北朝鮮の陸海空軍による大規模軍事演習で、拉致被害者女性を連れて、日本への亡命を決行した桂東月。朝鮮人民軍の攻撃をくぐり抜け、東月たちは日本に辿り着けるのか。『小説幻冬』連載を加筆し書籍化。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:4./ 305p
978-4-344-03945-2

¥1,870〔税込〕



「歴史の終わり」の後で

マチルデ・ファスティング 編

フランシス・フクヤマ 著

中央公論新社

世界に衝撃を与えたベストセラー「歴史の終わり」刊行から 30 年。著者のフランシス・フクヤマがマチルデ・ファスティングのインタビューに応え、「自由」と「民主主義」の危機を前に自ら<歴史の終わり>を再考する。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:5./ 341p
978-4-12-005535-5

¥2,530〔税込〕



一九二〇年代モダニズム詩集〜稲垣足穂と竹中郁その周辺〜

高木彬／季村敏夫 編

思潮社

モダニズム詩前夜の渾沌たる暗がりの中を、果敢な言語実験で駆けぬける若き詩人たちがいた。海港都市・神戸から出発した稲垣足穂と竹中郁を中心に、近藤正治、高木春夫、野川隆らの作品を新たな視点でまとめたアンソロジー。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:4./ 204p
978-4-7837-3785-8

¥2,200〔税込〕



広重ぶるう

梶 よう子 著

新潮社

武家に生まれた歌川広重は浮世絵師を志す。しかし、彼が描く美人画や役者絵は酷評ばかり。鳴かず飛ばずの貧乏暮らしに甘んじていた広重だが、ある日舶来の高価な顔料「ペロ藍」に出会い…。『小説新潮』連載を単行本化。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:5./ 359p
978-4-10-336854-0

¥2,310〔税込〕





極めて私的な超能力(新☆ハヤカワ・SF・シリーズ 5057)

チャン ガンミョン 著

早川書房

元カノは「自分には予知能力がある、あなたは私とは二度と会えない」と僕に言った。
-。とある男女のふとした日常に不思議が射し込む表題作をはじめ、ヴァラエティ豊かな全 10 篇を収録。気鋭の韓国文芸作家が放つ SF 短篇集。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:6./ 332p
978-4-15-335057-1

¥2,420〔税込〕



成長の臨界～「飽和資本主義」はどこへ向かうのか～

河野 龍太郎 著

慶應義塾大学出版会

現在の社会システムのまま、同じような経済活動が続けていけば、いずれ限界=臨界が訪れる。現状が維持不能なら、次に来る秩序はどう形成されるのか。エコノミストが現況を恻愴に分析し、迫り来る次の世界を展望する。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:7./ 26p,518p
978-4-7664-2834-6

¥2,750〔税込〕



豪商の金融史～廣岡家文書から解き明かす金融イノベーション～

高槻 泰郎 著

慶應義塾大学出版会

世界の先物市場の先駆けともいわれる堂島米市場、大名貸、銀行業、保険業と、日本の金融史に深く関わっている大坂の豪商、廣岡家。廣岡家にまつわる史料を読み解き、日本の金融市場の歴史を辿る。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:7./ 317p,3p
978-4-7664-2833-9

¥2,970〔税込〕



牧野植物園～歌集～(かりん叢書 395)

渡辺松男 著

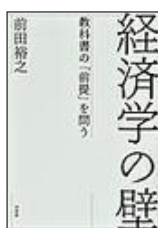
書肆侃侃房

土佐の牧野植物園へ飛ばしたり日差しとなりてわたしのからだ 残照に山山ありぬわが妻のあらざることも有彩色か 2016 年に作った、「ねむらない樹」に発表した 73 首と、未発表歌 327 首をおさめた第 10 歌集。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:6./ 189p
978-4-86385-522-9

¥2,530〔税込〕



経済学の壁～教科書の「前提」を問う～

前田 裕之 著

白水社

新古典派、マルクス経済学、行動経済学、神経経済学などすべての学派を網羅した経済学案内。異端派を含め経済学の諸学説の源流や基本的な考え方を総ざらいし、本質を掘り下げ、経済学との付き合い方を提言する。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:8./ 294p,10p
978-4-560-09447-1

¥2,420〔税込〕





THE HEART OF BUSINESS～「人とパーパス」を本気で大切にする新時代のリーダーシップ～

ユベール・ジョリー／キャロライン・ランバート／ビル・ジョージ／平井一夫 著
英治出版

巨大企業ベスト・バイはどん底の最中、リストラでも事業縮小でもインセンティブでもなく、従業員、顧客、取引先、そして株主とパーパスでつながることを選んだ。奇跡のV字回復を実現した経営者が「魔法」の起こし方を語る。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:7./ 389p
978-4-86276-322-8

¥2,420〔税込〕



中上健次論

渡邊英理 著
インスクリプト

路地を舞台とする中上健次の小説群、路地小説をめぐる考察。中上文学を(再)開発文学の視座から捉え、複数の方向に開かれた路地の「仮設」性に、脱国家・脱資本を志向する<路地のビジョン>=中上思想の核心を見出す。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:7./ 517p
978-4-900997-86-8

¥4,400〔税込〕



音楽とファッション～6つの現代的視点～

青野 賢一 著
リットーミュージック

ジェンダー、他者の文化、レイシズムといった現代的な視点で、映画や文学にも接近しながら、音楽とファッションの相互作用を鮮やかに考察。アクチュアルな問題意識を提示する。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:7./ 287p
978-4-8456-3778-2

¥2,640〔税込〕



キュレーターの殺人(ハヤカワ・ミステリ文庫 HM 481-3)

M・W・クレイヴン 著
早川書房

クリスマスの英国カンブリア州で、切断された人間の指が次々発見された。現場には“#BSC6”の文字列が。刑事ポーたちは捜査に乗り出す。<ワシントン・ポー>シリーズ第3作。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:9./ 628p
978-4-15-184253-5

¥1,386〔税込〕



精霊たちの迷宮<下>(集英社文庫 サ 4-7)

カルロス・ルイス・サフォン 著
集英社

突然捜査の中止を言い渡されたアリシア。一方、相棒バルガスは大臣の車に残されたメモから歴史の闇に葬られた真実に辿りつく。謎の数字、稀覯本、ある女性が遺したノート。すべてのピースが揃い迷宮の扉が開き…。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:8./ 684p
978-4-08-760779-6

¥1,980〔税込〕





精霊たちの迷宮<上>(集英社文庫 サ 4-6)

カルロス・ルイス・サフォン 著

集英社

1959 年、マドリード。突然失踪した大臣バルスの捜索依頼を受けたアリシアは、彼の私邸で関わる者をみな不幸にするという本「精霊たちの迷宮」を発見する。アリシアは作家の過去に隠されたある悲劇と巨大な陰謀へと迫り…。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:8./ 599p
978-4-08-760778-9

¥1,870〔税込〕



格差の起源～なぜ人類は繁栄し、不平等が生まれたのか～

オデッド・ガロー／柴田 裕之 著

NHK出版

19 世紀以降、社会は急激に繁栄に向かったが、それは世界の一部にとどまり、そのせいで著しい格差が生じた。統一成長理論に基づいて、成長と格差の謎を解明し、格差の軽減を助ける手掛かりを示す。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:9./ 333p
978-4-14-081911-1

¥2,530〔税込〕



素数とバレーボール

平岡 陽明 著

講談社

41 歳の誕生日、高校時代のバレーボール部の仲間「ガンブ君」から届いた謎のメール。それは、他の部員たちの誕生日にも届いていた。メールの内容の真偽もガンブ君の消息も不明のまま、元男子高生たちは再会を果たすが…。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:9./ 299p
978-4-06-527934-2

¥1,980〔税込〕



レッドクローバー

まさき としか 著

幻冬舎

東京のバーベキュー場で起こったヒ素による大量殺傷事件。記者の勝木は、12 年前の灰戸町一家殺害事件の、ただ一人の生存者、赤井三葉を思いだす。あの日、薄汚れたゴミ屋敷で一体何があったのか。そして少女は今-。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:8./ 429p
978-4-344-03996-4

¥1,980〔税込〕



アスリート盗撮(ちくま新書 1684)

共同通信運動部 編

筑摩書房

2020 年 10 月、アスリートの性的画像問題についての第一報が配信された。JOC や警察を動かし、社会的なうねりを巻き起こした調査報道の舞台裏から、法制度整備の動きや盗撮加害者の実態解明までを綴る。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:9./ 318p
978-4-480-07503-1

¥1,078〔税込〕





よく聞きなさい、すぐにここを出るのです。

藤井貞和 著

思潮社

はくぎんの衣裳が踏みつぶしてゆくね、京都を。能舞台から下ろして、着替える時のわたくしの涙。八万四千字を書き込む祈り。真言を集める徒歩の列もまた踏みつぶされる。(「京都」より) 詩集。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:7./ 109p
978-4-7837-4501-3

¥2,860〔税込〕



変な絵～あなたには、この絵の「謎」が、解けますか?～

雨穴 著

双葉社

不穏なブログ、消えた男児、惨殺死体、補導少女…。「奇妙な絵」に秘められた衝撃の真実とは!? 見れば見るほど“何かがおかしい”9枚の図絵がからみあう、スケッチ・ミステリー。朗読動画が視聴できる QR コード付き。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:10./ 285p
978-4-575-24567-7

¥1,540〔税込〕



創造的破壊の力～資本主義を改革する 22 世紀の国富論～

フィリップ・アギヨン／セリーヌ・アントニン／サイモン・ブネル 著

東洋経済新報社

持続的で平等な成長に向けて創造的破壊を舵取りするには。創造的破壊が雇用を破壊し、健康や幸福に及ぼす負の影響を抑えるには-。資本主義を適切に運営する知見が満載の連続講義を書籍化。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:12./ 16p,436p,33p
978-4-492-39671-1

¥4,620〔税込〕



狂はば如何に～歌集～

高橋 睦郎 著

KADOKAWA

詩人を生むや必ず水浄きところと聞けりわがこととなく 老人が老人の行うたふとき 天に笑はむ老人星は しまらくの光と交へる幾光それさへ消たる闇の深さは 460 余首を収めた歌集。講演録「老いを生きる」を付す。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:10./ 257p
978-4-04-884496-3

¥2,860〔税込〕



女子サッカー140年史～闘いはピッチとその外にもあり～

スザンヌ・ラック 著

白水社

女子サッカーはどのように発展してきて、これからどう成長していくのか。欧州・北米を中心とした女子サッカーの歴史を、社会における女性の権利獲得と解放に重ね合わせて描き、未来への飛躍を提言する。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:11./ 278p,5p
978-4-560-09472-3

¥3,190〔税込〕





言語はこうして生まれる～「即興する脳」とジェスチャーゲーム～

モーテン・H・クリスチャンセン／ニック・チェイター 著

新潮社

ジェスチャーゲームしながら、言語は絶えず任意の瞬間に「発明」されては、またゲームをするたびに新たに発明される。心理学や神経科学、コンピュータサイエンスなどの多様な知見を統合し、言葉の真の姿を解き明かす。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:11./ 327p,49p

978-4-10-507311-4

¥2,970〔税込〕



9 784105 073114



無辺～句集～

小川軽舟 著

ふらんす堂

便箋はインクに目覚め冬の山 ワイシャツでめし食ひに出て春寒し 川床に座布団枕許されよ かきつばた軍記に馬蹄鳴り響く 2015 年から 2022 年夏までの作品から 357 句を収めた第 6 句集。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:10./ 195p

978-4-7814-1505-5

¥3,080〔税込〕



9 784781 415055



パゾリーニ

四方田犬彦 著

作品社

現代イタリア最大の詩人の一人にして、人間の禁忌を問いつけた映画監督。少年愛の小説家にして、挑発的な政治批評家。謎多き天才・パゾリーニの情熱に満ちた人生と芸術を、彼の遺した数々の作品を通して明らかにする。

日本経済新聞 2022/12/24

2022:11./ 1083p

978-4-86182-943-7

¥13,200〔税込〕



9 784861 829437



かわいそうなぞう(おはなしノンフィクション絵本)

つちや ゆきお、たけべ もといちろう 著

金の星社

戦争中、上野動物園で三頭のゾウが殺されました。これは本当にあった悲しいお話です。毎年終戦記念日に評論家の秋山ちえ子氏が平和への願いをこめてラジオで朗読し、テレビでも紹介された名作。

毎日新聞 2022/12/03

1970:8./ 32 p

978-4-323-00211-8

¥1,210〔税込〕



9 784323 002118



愚者の階梯

松井 今朝子 著

集英社

「勧進帳」は不敬である。昭和 10 年、国粋主義者の猛抗議をきっかけに、歌舞伎の殿堂で連続怪死事件が発生。江戸歌舞伎狂言作者の末裔、桜木治郎が大いなる謎に挑む。『小説すばる』連載を加筆し単行本化。

毎日新聞 2022/12/03

2022:9./ 357p

978-4-08-771803-4

¥2,090〔税込〕



9 784087 718034



海軍戦争検討会議記録～太平洋戦争開戦の経緯～(角川新書 K-402)

新名 丈夫 編

KADOKAWA

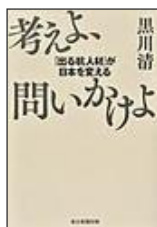
日本海軍はなぜ太平洋戦争に突入したのか？敗戦間もない1945年12月から翌年1月にかけて行われた、日本海軍最高首脳者による極秘の戦争検討会議。記録した著者が30年以上秘蔵した後に公開した一級資料を復刊。

2022:10./ 292p
978-4-04-082407-9

¥1,100〔税込〕



毎日新聞 2022/12/03



考えよ、問いかけよ～「出る杭人材」が日本を変える～

黒川 清 著

毎日新聞出版

なぜ日本の高等教育が停滞しているのか。UCLA、東京大学で教鞭をとり、日本の学術・科学技術振興に精通する著者が、その背景と解決策を紹介。さらに日本の科学行政の問題点、どう日本を再生するかなども取り上げる。

2022:10./ 237p
978-4-620-32755-6

¥1,650〔税込〕



毎日新聞 2022/12/03



君のクイズ

小川 哲 著

朝日新聞出版

クイズ番組の決勝に出場した三島玲央は、対戦相手が問題が読まれぬうちにボタンを押し正解し、優勝を果たすという不可解な事態を訝しむ。決勝を1問ずつ振り返る三島はやがて…。『小説トリッパー』掲載を加筆修正。

2022:10./ 190p
978-4-02-251837-8

¥1,540〔税込〕



毎日新聞 2022/12/03



奇跡の対話～渋沢栄一の孫とアイヌの母神～

鮫島 純子／宇梶 静江 著

藤原書店

渋沢栄一の孫として東京に生まれた鮫島純子と、北海道のアイヌ集落に生まれた宇梶静江。ともに結婚と子育てを経験し、“女性として”“人間を超えた力に生かされている”ことに感謝する2人の生きる力あふれる対話。

2022:10./ 315p
978-4-86578-362-9

¥1,980〔税込〕



毎日新聞 2022/12/03



おうちくん

カワダクニコ 著

303 BOOKS

丘の上に並んで建つ、仲良しのきいろいおうちくとあかいおうちくん。楽しく暮らしていたふたりに、悲しい別れのときが訪れました。ひとりぼっちになったきいろいおうちくんを最後に待っていたのは…。ちいさな希望の物語。

2022:10./ 36p
978-4-909926-17-3

¥1,320〔税込〕



毎日新聞 2022/12/03



東ドイツある家族の物語〜激動のドイツを生きた、四代のファミリーヒストリー〜

マクシム・レオ 著

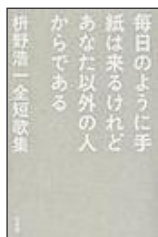
アルファベータブックス

アウシュヴィッツで殺害された曾祖父。亡命後ジャーナリストになった祖父。ナイズで社会主義の理想に忠実だった母。常に東ドイツに批判的だった父。そして政治に無関心だった私…。家族四代の肖像を通して描くドイツ現代史。

毎日新聞 2022/12/03

2022:11./ 342p
978-4-86598-089-9

¥2,750〔税込〕



毎日のように手紙は来るけれどあなた以外の人からである〜柊野浩一全短歌集〜

柊野 浩一 著

左右社

こんなにもふざけたきょうがある以上どんなあすでもありうるだろう 歌人・柊野浩一のデビュー25周年を記念した全短歌集。未収録作なども収める。特別葉「俵万智と柊野浩一の往復書簡」付き。

毎日新聞 2022/12/03

2022:9./ 381p
978-4-86528-099-9

¥2,530〔税込〕



沖縄の食文化(ちくま学芸文庫 ホ 25-1)

外間 守善 著

筑摩書房

古典文学をもとに琉球文化の源流を探ってきた沖縄学の権威による、沖縄食文化史入門。ヤマトとは異なる食材・料理・飲食風習を対外関係史から説明し、沖縄料理の中にある東南アジア文化、中国文化の影響を解説する。

毎日新聞 2022/12/03

2022:11./ 208p
978-4-480-51154-6

¥1,100〔税込〕



ツベルクリン騒動〜明治日本の医と情報〜

月澤 美代子 著

名古屋大学出版会

「情報」と「ツベルクリン」を軸にした明治期日本の医学医療史。19世紀後半の多様な医療雑誌による「情報」の伝達・普及・切り分けに視点を据え、近代日本の医学・医療の風土が形成される転換期の実相を描く。

毎日新聞 2022/12/03

2022:11./ 12p,462p,27p
978-4-8158-1101-3

¥6,930〔税込〕



性と芸術

会田 誠 著

幻冬舎

これまでさまざまに波紋を呼んできた現代美術家・会田誠の作品「犬」は、なぜ描かれたのか。その存在の理由を自らの言葉で率直に綴る。ほか、『星星峡』『幻冬舎plus』掲載の「性」に関する文章も収録する。

毎日新聞 2022/12/03、朝日新聞 2022/12/24

2022:7./ 212p
978-4-344-03983-4

¥1,760〔税込〕





わたしのペンは鳥の翼

アフガニスタンの女性作家たち 著

小学館

女性嫌悪、家父長制、暴力、貧困、テロ、戦争、死。一日一日を生き抜くことに精一杯の彼女たちが、身の危険に晒されても表現したかった世界-。アフガニスタンの女性作家 18 名による 23 の短篇集。

毎日新聞 2022/12/03、日本経済新聞 2022/12/10

2022:10./ 254p
978-4-09-356742-8

¥2,310〔税込〕



昭和遠近〜短歌でたどる戦後の昭和〜

島田修三 著

風媒社

戦後の昭和を題材とした短歌から、著者が体験・見聞した昭和固有の事物や生活文化、風俗、出来事に触れた作品を選び、当時どんなことを考え、どんな感情を抱いていたのかを回想する。『中日新聞』等連載を単行本化。

毎日新聞 2022/12/03、毎日新聞 2022/12/10

2022:10./ 225p
978-4-8331-2115-6

¥1,650〔税込〕



貸本屋おせん

高瀬 乃一 著

文藝春秋

文化年間、女だてらに貸本屋を営む「おせん」。時に幕府の狗に目をつけられ、様々な事件に巻き込まれながらも、書物への愛を胸に、大店を夢見る姿を描く連作集。『オール讀物』掲載に書きおろしを加えて単行本化。

毎日新聞 2022/12/04

2022:11./ 233p
978-4-16-391627-9

¥1,980〔税込〕



首ざむらい〜世にも快奇な江戸物語〜

由原 かのん 著

文藝春秋

叔父を訪ねて大坂へ向かった男の道づれは、首だけのサムライだった!? 『オール讀物』掲載を改題した表題作をはじめ、書き下ろしの「ねこまた」など、江戸時代を舞台にした、ちょっと不思議な人情奇譚 4 篇を収録。

毎日新聞 2022/12/04

2022:11./ 302p
978-4-16-391628-6

¥1,980〔税込〕



ルルドへの旅〜ノーベル賞受賞医が見た「奇跡の泉」〜(中公文庫 カ7-1)

アレクシー・カレル 著

中央公論新社

後にノーベル医学賞を受賞するアレクシー・カレルがルルドを訪れたのは 20 世紀初頭の初夏だった。リヨン大学の解剖学教室で学ぶ若き医師が目あたりにした、不治の病に冒された一女性に起こった奇跡を綴る。

毎日新聞 2022/12/10

2015:10./ 239p
978-4-12-206183-5

¥814〔税込〕





「ネコひねり問題」を超一流の科学者たちが全力で考えてみた～「ネコの空中立ち直り反射」という驚くべき謎に迫る～

グレゴリー・J・グバー 著
ダイヤモンド社

猫はなぜ高いところから落ちて足から着地できるのか？数多くの天才が、物理、光学、数学、神経科学などのアプローチからその驚くべき謎に迫った。猫を偏愛する物理学者が、学者たちの真摯かつ愉快的研究エピソードを紹介。

毎日新聞 2022/12/10

2022:5./ 486p
978-4-478-10937-3
¥1,980〔税込〕



ゴンクール兄弟とその時代

斎藤一郎 著
水声社

文人たちとの交流、度重なる政治的動乱、娼婦の華々しい生活、ジャポニズムの隆盛…。爛熟を極めた19世紀のバリの風俗を、ゴンクール兄弟の生涯からあざやかに蘇らせる。

毎日新聞 2022/12/10

2021:9./ 584p
978-4-8010-0596-9
¥8,800〔税込〕



故旧忘れ得べき(P+D BOOKS)

高見 順 著
小学館

旧制高校時代、マルキシズムに傾倒していた小関と篠原。一方は雑誌社勤め、もう一方はお金持ちの息子と大きく境遇は違うが、ともに“転向”による虚無感を抱えながら生きて…。著者自身の体験に基づいた“転向文学”の名作。

毎日新聞 2022/12/10

2022:1./ 223p
978-4-09-352432-2
¥715〔税込〕



モーツァルトを聴く人～谷川俊太郎詩集～(小学館文庫 た 34-3)

谷川 俊太郎 著
小学館

谷川俊太郎の名詩集「モーツァルトを聴く人」全篇と、モーツァルトと音楽をめぐる選詩集「音楽ふたたび」を収録。未刊行の、堀内誠一との共作絵本「ピアノのすきな王さま」もオールカラーで掲載する。

毎日新聞 2022/12/10

2022:1./ 155p
978-4-09-407105-4
¥880〔税込〕



日本バッティングセンター考

カルロス矢吹 著
双葉社

国民的スポーツ・野球を、ロードサイドから、繁華街のどん詰まりから支えてきた謎多き娯楽施設、バッティングセンター。北海道・網走からタイ・バンコクまでのバッティングセンターを訪ね歩き、そのオーナーとともに紹介する。

毎日新聞 2022/12/10

2022:2./ 175p
978-4-575-31701-5
¥2,035〔税込〕





シカの顔、わかります～個性の生態学～

南 正人 著
東京大学出版会

1989 年から宮城県の金華山で生活する 150 頭のシカ全部に名前をつけて、行動観察を始めてから 33 年。行動の観察や出産、生死の確認を続け、約 1000 頭分の家系図ができ…。貴重なフィールドワークの記録。

毎日新聞 2022/12/10

2022:2./ 9p,232p,9p
978-4-13-063954-5

¥3,960〔税込〕



経営リーダーのための社会システム論～構造的問題と僕らの未来～(至善館講義シリーズ)

宮台真司／野田智義 著
光文社

便利で暮らしやすい社会なのに、人々はなぜ孤独で誰もが入れ替え可能なことに悩むのか。世界中の人々が繋がる時代に、なぜ分断が加速するのか。現代と未来の社会を見通す社会システム論。大学院大学至善館の講義を書籍化。

毎日新聞 2022/12/10

2022:2./ 305p
978-4-334-95293-8

¥2,750〔税込〕



核兵器について、本音で話そう(新潮新書 945)

太田 昌克、兼原 信克、高見澤 将林、番匠 幸一郎 著
新潮社

日本を射程に収める核ミサイルは中朝露で計数千発。核廃絶を望むならば、東アジアの現状を踏まえたありうべき国家戦略を日本自身が構想しなければならない。核政策に深くコミットしてきた専門家 4 人が、本音で語り合う。

毎日新聞 2022/12/10

2022:3./ 271p
978-4-10-610945-4

¥946〔税込〕



黄金虫変奏曲

リチャード・パワーズ 著
みすず書房

遺伝暗号の解読に迫る若き科学者レスラー。4 半世紀後、なぜか科学界から忽然と姿を消した彼と出会った若い男女は、その人柄に惹かれ、彼の人生を暗号のように解読しようとし…。現代アメリカ文学の鬼才パワーズの初期長篇。

毎日新聞 2022/12/10

2022:4./ 866p
978-4-622-09078-6

¥5,720〔税込〕



渾沌の恋人～北斎の波、芭蕉の興～

恩田 侑布子 著
春秋社

十七音の芸術表現・俳句を起点に、芸術表現の諸相をダイナミックに往還し、日本人の美意識の深遠に迫る斬新な芸術評論・日本文化論。詩歌の全貌を知るための視角と新しい道筋を、鮮やかに描く。『墨』連載を大幅加筆し書籍化。

毎日新聞 2022/12/10

2022:4./ 249p 図版 7
枚

978-4-393-44423-8

¥2,530〔税込〕





花散る里の病棟

帯木 蓬生 著

新潮社

大正時代、蛔虫退治で評判を取った初代。軍医の二代目。高齢者を見る三代目。そして肥満治療を手がける四代目の僕はコロナ禍で…。地方に生きる医師の家を通じて、近現代日本の医療現場を描く。『小説新潮』掲載を単行本化。

毎日新聞 2022/12/10

2022:4./ 361p
978-4-10-331426-4

¥1,980〔税込〕



すべての月、すべての年〜ルシア・ベルリン作品集〜

ルシア・ベルリン 著

講談社

魂の作家ルシア・ベルリン。表題作をはじめ、「掃除婦のための手引き書」の底本である短編集より、同書に収録しきれなかった「失われた時」「情事」など19編を収録する。

毎日新聞 2022/12/10

2022:4./ 373p
978-4-06-524166-0

¥2,640〔税込〕



土を育てる〜自然をよみがえらせる土壌革命〜

ゲイブ・ブラウン 著

NHK出版

有効な温暖化対策「カーボン・ファーム」注目を集めている環境再生型農業。その第一人者が、4年連続の凶作を乗り越えた末に、自然から学んだ「土を変える5原則」を伝授する。

毎日新聞 2022/12/10

2022:5./ 277p
978-4-14-081900-5

¥2,420〔税込〕



隠し女小春

辻原 登 著

文藝春秋

大手出版社の校閲者、矢野聡には秘密があった。ラブドールを小春と名づけ、一緒に暮らしているのだ。そんな聡が生身の女性と恋に落ち…。前途で聡を待ち受ける危険と陥穽とは？ 長篇サスペンス。『文学界』連載を単行本化。

毎日新聞 2022/12/10

2022:5./ 261p
978-4-16-391539-5

¥1,760〔税込〕



「未熟さ」の系譜〜宝塚からジャニーズまで〜(新潮選書)

周東 美材 著

新潮社

アイドル、ジャニーズ、宝塚少女歌劇…。成長途上ゆえの可愛らしさやアマチュア性が愛好される芸能様式は、いかに成立したのか。近代家族と大衆メディアの結びつきが生んだ「お茶の間の願望」を浮き彫りにする。

毎日新聞 2022/12/10

2022:5./ 279p
978-4-10-603879-2

¥1,705〔税込〕





チェヴエングル

アンドレイ・プラトノフ 著

作品社

死への興味が高じて湖に自ら身を投げだした父親の息子アレクサンドルは、やがて、ポリシェヴィキとして、彼の同伴者であり親友のコピョンキンとともに、共産主義が完成した理想郷チェヴエングルを見出す。

毎日新聞 2022/12/10

2022:6./ 624p
978-4-86182-919-2

¥4,950〔税込〕



鶴屋南北未刊作品集<第3巻> 鶴屋南北・直江重兵衛篇

古井戸 秀夫 編

白水社

鶴屋南北の貴重な未刊行作品を第一人者が生き生きと蘇らせる。第3巻は、「御摂曾我閏正月」「紅葉鹿封文曾我」など、文政5～12年の作品を収録。ほか、書翰・摺り物・報状、番付影印、解説等も掲載。

毎日新聞 2022/12/10

2022:7./ 562p,2p
978-4-560-09842-4

¥31,900〔税込〕



ドリフターズとその時代(文春新書 1364)

笹山 敬輔 著

文藝春秋

視聴率50%を超えたお化け番組「全員集合」はどのように生まれたのか。“完璧主義者”いかりや長介の演出術、喜劇王・志村けん...。気鋭の演劇研究者が、国民的グループ「ザ・ドリフターズ」を舞台・演劇の視点から読み解く。

毎日新聞 2022/12/10

2022:6./ 302p
978-4-16-661364-9

¥968〔税込〕



周作人自伝

周 作人 著

河出書房新社

20世紀中国を代表する作家・日本研究者であり、兄・魯迅に比肩する知日派文人作家による自伝。家族の思い出や日露戦争前後の文化史的考察などを、日本人や中国人、中国の文学・政治に対する深い洞察とともに綴る。

毎日新聞 2022/12/10

2022:7./ 565p
978-4-309-20854-1

¥13,200〔税込〕



建築家の解体(ちくま新書 1660)

松村 淳 著

筑摩書房

ブルデューの理論を用いて、建築家という職業がつくられていくプロセスを描写するとともに、解体していく建築家像の軌跡をたどる。フィールドワークの知見を盛り込み、「街場の建築家」という今後の可能性も示す。

毎日新聞 2022/12/10

2022:6./ 316p
978-4-480-07488-1

¥1,078〔税込〕





正しい核戦略とは何か～冷戦後アメリカの模索～

ブラッド・ロバーツ 著

勁草書房

ウクライナ戦争で明らかになった核兵器のリアル。これまでアメリカは核武装した敵国や、不安を抱える同盟国とどう向き合ってきたのか。米政権で核・ミサイル防衛政策を担当してきた第一人者が徹底検証する。

毎日新聞 2022/12/10

2022:8./ 8p,377p
978-4-326-30314-4
¥4,950〔税込〕



全仕事

隈 研吾 著

大和書房

問題作「M2」から、南三陸の再生プロジェクトまで。閉じた箱からの解放、新しい公共性など未来の建築のあり方を模索してきた建築家・隈研吾が、30年間の挑戦の軌跡を振り返る。写真を豊富に収録。

毎日新聞 2022/12/10

2022:6./ 351p
978-4-479-39390-0
¥4,620〔税込〕



陽だまりの果て

大濱普美子 著

国書刊行会

時空や他己の隔たりを超えて紡がれる、懐古と眩惑に彩られた幻想譚。行きつ戻りつ繰り返される、老人の記憶の窓に映る追想の物語「陽だまりの果て」など、全6篇を収録する。

毎日新聞 2022/12/10

2022:6./ 376p
978-4-336-07343-3
¥2,420〔税込〕



よみがえる与謝野晶子の源氏物語

神野藤 昭夫 著

花鳥社

与謝野晶子の生涯にわたる古典翻訳のなかで、「新訳源氏物語」と「新新訳源氏物語」はその象徴的顕現である。翻訳はどのようにして完成したのか。新資料の数々をもとに訳業の具体像を明らかにする。

毎日新聞 2022/12/10

2022:7./ 15p,462p
978-4-909832-58-0
¥4,180〔税込〕



不在～物語と記憶とクロニクル～

ドメーニコ・スカルパ 編

ナタリーア・ギンズブルグ 著

みすず書房

20世紀イタリアの「最も美しい声」ともいわれる作家の人生をたどり現前させる珠玉の37篇で編まれた決定版選集。初公開の記事・ノンフィクションも収め、編者と訳者による本格的作家論・解説を付す。

毎日新聞 2022/12/10

2022:9./ 344p
978-4-622-09522-4
¥6,160〔税込〕





橋の上で

湯本 香樹実 著

河出書房新社

学校帰り、ぼくは橋の上で川の水を見ていた。いまここから川にとびこんだらどうなるだろうって考えながら。そこに雪柄のセーターのおじさんがあらわれ、ふしぎなことを教えてくれて....

毎日新聞 2022/12/10

2022:9./ 1 冊(ページ付
なし)

978-4-309-29208-3

¥1,650〔税込〕



直立二足歩行の人類史～人間を生き残らせた出来の悪い足～

ジェレミー・デシルヴァ 著

文藝春秋

なぜ人間だけが二足歩行動物として生き延びたのか。足・足首を専門とする人類学者が、古人類学のレジェンドから現代人の歩き方まで、研究現場を訪ね歩いてたどりついた、「二本足が人間に人間性をもたらした」真実を伝える。

毎日新聞 2022/12/10

2022:8./ 437p

978-4-16-391583-8

¥2,860〔税込〕



フィールダー

古谷田 奈月 著

集英社

小児性愛、ルッキズム、ソシヤゲ中毒、猫を愛するということ-。総合出版社の編集者・橋を中心に、現代を揺さぶる「不都合」の数々が絡み合い...。誰かを「愛でる」行為の本質を鮮烈に暴く長編小説。『すばる』連載を単行本化。

毎日新聞 2022/12/10

2022:8./ 333p

978-4-08-771807-2

¥2,090〔税込〕



李朝残影～反戦小説集～(光文社文庫 か 10-18)

梶山季之 著

光文社

京城で絵画教師をする野口は、妓生の踊る伝統の宮廷舞踊を描くことに奮闘するが...。日本統治時代の朝鮮で生まれ育った作家・梶山季之が、侵略と戦争に翻弄される個人の葛藤とその悲劇を鋭く描く。表題作をはじめ全 5 編を収録。

毎日新聞 2022/12/10

2022:8./ 363p

978-4-334-79402-6

¥924〔税込〕



掌に眠る舞台

小川 洋子 著

集英社

「レ・ミゼラブル」全公演に通う私は、劇場に住む「失敗係」の彼女と出会い...。ステージの此方と彼方で生まれる特別な関係を描く、美しく恐ろしい極上の短編集。全 8 編を収録。『すばる』掲載を書籍化。

毎日新聞 2022/12/10

2022:9./ 265p

978-4-08-771808-9

¥1,815〔税込〕





21.5 世紀の社会と空間のデザイン～変容するビルディングタイプ～

中村 陽一／高宮 知数／槻橋 修／五十嵐 太郎 著

誠文堂新光社

「百年、千年単位で考える公共圏のための空間」をはじめ、考古、建築、都市、舞台芸術、社会デザイン等、20人の論客たちが社会と空間デザインの見取り図を提示する。佐藤信×伊東豊雄の対談も収録。

毎日新聞 2022/12/10

2022:9./ 254p
978-4-416-52101-4

¥3,520〔税込〕



ステパンチコヴォ村とその住人たち(光文社古典新訳文庫 KA ト 1-24)

ドストエフスキー 著

光文社

故郷での異常事態について知らされた私。祖母に取り入った居候が口八丁を弄して家庭の権力をほしいままにしているというのだ。彼と対決すべくかの地に向かうが、癖のある客人や親戚たちの思惑にも翻弄され、予想外の展開に....。

毎日新聞 2022/12/10

2022:9./ 536p
978-4-334-75467-9

¥1,496〔税込〕



人類史の精神革命～ソクラテス、孔子、ブッダ、イエスの生涯と思想～(中公選書 129)

伊東 俊太郎 著

中央公論新社

前5世紀以降、ソクラテス、孔子、ブッダ、イエスの4人の始祖により生まれた哲学と普遍宗教。なぜ東西の地で同時並行的に思想の変革が起きたのか。原典をふまえ、平易な筆致により、人類史の謎と意義を克明に描きだす。

毎日新聞 2022/12/10

2022:9./ 349p
978-4-12-110130-3

¥1,870〔税込〕



サラゴサ手稿<上>(岩波文庫 37-519-1)

ヤン・ポツキ 著

岩波書店

ポーランドの貴族ポツキが仏語で著した奇想天外な物語。シエラ・モレナの山中をさまようアルフォンソの61日間の手記によって、彼が出会った謎めいた人々と、その数奇な運命が語られる。上は、第1～20日を収録。

毎日新聞 2022/12/10

2022:9./ 506p
978-4-00-375133-6

¥1,254〔税込〕



ジャーナリスト与謝野晶子

松村由利子 著

短歌研究社

与謝野晶子は新聞や雑誌から社会評論の執筆を依頼される寄稿家だった。歌人としてデビューした晶子がどんなふうに社会評論を書き始め、論考や思想を深めていったのか、さまざまな角度から考察する。『短歌研究』連載を加筆。

毎日新聞 2022/12/10

2022:9./ 323p,7p
978-4-86272-720-6

¥2,750〔税込〕





日本語からの哲学～なぜ<です・ます>で論文を書いてはならないのか?～(犀の教室)

平尾昌宏 著
晶文社

<である>と<です・ます>、2つの文末辞の違いを掘り下げていった末にたどり着いたのは、全く異なった2つの世界像=哲学原理だった。国語学、日本語学の成果をふまえ、日本語で哲学することの可能性を追求する。

毎日新聞 2022/12/10

2022:9./ 310p
978-4-7949-7327-6
¥1,980〔税込〕



グレイス・イヤー～少女たちの聖域～

キム・リゲット 著
早川書房

16歳になる少女は“魔力”を解き放つために、そして清らかな女性、妻となるために、森のキャンプに1年間追放される。自分の人生を生きることを望むティアニーは、謎の風習<グレイス・イヤー>を生き抜けるのか…。

毎日新聞 2022/12/10

2022:11./ 485p
978-4-15-210183-9
¥2,200〔税込〕



老人と海～新訳～

アーネスト・ヘミングウェイ、今村 楯夫 著
左右社

マカジキと対峙する屈強な老人は、「老い」と「弱さ」に向き合うひとりの人間だった。ノーベル文学賞受賞作家ヘミングウェイの世界的名作「老人と海」の新訳。日本のヘミングウェイ研究の第一人者、今村楯夫の訳者解説付き。

毎日新聞 2022/12/10

2022:9./ 192p
978-4-86528-334-1
¥2,200〔税込〕



サラゴサ手稿<中>(岩波文庫 37-519-2)

ヤン・ポトツキ 著
岩波書店

ポーランドの貴族ポトツキが仏語で著した奇想天外な物語。シエラ・モレナの山中をさまようアルフォンソの61日間の手記によって、彼が出会った謎めいた人々と、その数奇な運命が語られる。中は、第21～40日を収録。

毎日新聞 2022/12/10

2022:11./ 442p
978-4-00-375134-3
¥1,177〔税込〕



パンとサーカス

島田 雅彦 著
講談社

不正隠蔽の犠牲となった父親の復讐を果たすため、CIA エージェントになった男は、日・米両政府を巧みに欺き、日本国民の仇をとる。諦めの横溢する日本で、サーカスの幕が上がる! 『北海道新聞』など各紙連載を加筆・修正。

毎日新聞 2022/12/10、朝日新聞 2022/12/24

2022:3./ 557p
978-4-06-526874-2
¥2,750〔税込〕





水平線

滝口 悠生 著

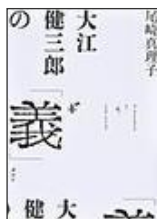
新潮社

祖父母の故郷・硫黄島を墓参で訪れたことがある妹に、見知らぬ男から電話がかかってきた頃、兄は不思議なメールに導かれ船に乗った…。枝分かれする時間、交差する人生を映し出す長篇小説。『新潮』連載を単行本化。

毎日新聞 2022/12/10、朝日新聞 2022/12/24、日本経済新聞 2022/12/24

2022:7./ 503p
978-4-10-335314-0

¥2,750〔税込〕



大江健三郎の「義」

尾崎 真理子 著

講談社

「ギー兄さん」は柳田国男？平田篤胤の「神」が「壊す人」？“西洋文学の申し子”大江健三郎の深淵に広がる日本文学の沃野を読み解き、西洋の知と真摯に格闘した4人の日本人をスリリングに追う。

毎日新聞 2022/12/10、読売新聞 2022/12/18

2022:10./ 317p
978-4-06-528444-5

¥2,750〔税込〕



唐十郎のせりふ〜二〇〇〇年代戯曲をひらく〜

新井高子 著

幻戯書房

「風のほこり」「闇の左手」「紙芝居の絵の町で」…。詩人・新井高子が、2000年代に主に唐組で上演された唐十郎の戯曲15作品をとり上げ、「文学探偵」として唐戯曲の迷宮のありようを鋭く解き明かす。

毎日新聞 2022/12/10、読売新聞 2022/12/25

2021:12./ 323p
978-4-86488-239-2

¥3,080〔税込〕



沖縄県知事〜その人生と思想〜(新潮選書)

野添 文彬 著

新潮社

歴代の沖縄県知事たちは、保守であっても首相を批判し、革新であっても官邸と協力した。屋良朝苗、西銘順治から、翁長雄志、玉城デニーまで。8人の肉声から、単純化された保革対立では見えない沖縄問題の深層を読み解く。

毎日新聞 2022/12/10、日本経済新聞 2022/12/17

2022:9./ 319p
978-4-10-603889-1

¥1,760〔税込〕



空爆論〜メディアと戦争〜(クリティーク社会学)

吉見 俊哉 著

岩波書店

支配し、侵略し、殺害する「上空からの眼差し」としての空爆は、第一次世界大戦や日本空爆、朝鮮空爆などを経て、いかに変容していったのか。2つの大戦からウクライナ侵攻まで、「メディア技術としての戦争」を問い直す。

毎日新聞 2022/12/10、日本経済新聞 2022/12/24

2022:8./ 7p,258p
978-4-00-027177-6

¥2,530〔税込〕





津田梅子～科学への道、大学の夢～

古川 安 著

東京大学出版会

優れた生物学研究者だった津田梅子。一次史料にもとづいて、科学史の視点からこれまでの伝記とは異なる津田梅子像を描出し、梅子と科学の関わりを、当時の日本の科学・教育・社会の文脈から分析。その意味を考察する。

毎日新聞 2022/12/10、毎日新聞 2022/12/17

2022:1./ 2p,198p,12p
978-4-13-023078-0

¥3,080〔税込〕



編集者ディドロ～仲間と歩く『百科全書』の森～

鷺見 洋一 著

平凡社

18 世紀フランス啓蒙思想の金字塔「百科全書」は、いかに生まれたのか。編集長を務めた思想家ディドロと「結社」の仲間たちの壮大なプロジェクトの全貌を、膨大な資料と最新研究、多彩な図版を駆使して描き出した大著。

毎日新聞 2022/12/10、毎日新聞 2022/12/17

2022:4./ 895p
978-4-582-70363-4

¥5,280〔税込〕



左川ちか全集

島田龍／島田龍 編

左川ちか／左川ちか 著

書肆侃侃房

詩人・翻訳家として将来を嘱望されたが 24 歳で亡くなった左川ちか。萩原朔太郎や西脇順三郎らに激賞された現代詩の先駆者のすべての詩・散文・書簡、翻訳を収録。編者による年譜・解題・解説を付す。

毎日新聞 2022/12/10、毎日新聞 2022/12/17

2022:5./ 414p
978-4-86385-517-5

¥3,080〔税込〕



韓国文学の中心にあるもの

斎藤真理子 著

イースト・プレス

韓国で書かれた小説や詩は、なぜこんなにも面白く、パワフルで魅力的なのか。「82 年生まれ、キム・ジヨン」「少年が来る」等、日本語訳が存在する作品を取り上げて論考する。連続講座や『WEZZY』連載を加筆し単行本化。

毎日新聞 2022/12/10、毎日新聞 2022/12/17

2022:7./ 326p
978-4-7816-2093-0

¥1,650〔税込〕



力と交換様式

柄谷 行人 著

岩波書店

戦争と恐慌の危機を絶えず生み出す資本主義の構造と力、呪力、権力、資本の力が結合した資本=ネーション=国家を揚棄する「力」。交換様式から生まれる「力」を軸に人類史の歩みを再考し、柄谷行人の全思想体系の核心を示す。

毎日新聞 2022/12/10、毎日新聞 2022/12/17

2022:10./ 11p,416p
978-4-00-061559-4

¥3,850〔税込〕





我々はどこから来て、今どこにいるのか?<上> アングロサクソンがなぜ覇権を握ったか

エマニュエル・トッド 著
文藝春秋

ホモ・サピエンス誕生からトランプ登場までの全人類史を「家族」という視点から書き換える。上は、「アングロサクソンがなぜ世界の覇権を握ったか」という世界史最大の謎を解き明かす。

毎日新聞 2022/12/10、毎日新聞 2022/12/17、毎日新聞 2022/12/24

2022:10./ 380p
978-4-16-391611-8
¥2,420〔税込〕



我々はどこから来て、今どこにいるのか?<下> 民主主義の野蛮な起源

エマニュエル・トッド 著
文藝春秋

ホモ・サピエンス誕生からトランプ登場までの全人類史を「家族」という視点から書き換える。下は、「民主制」が元来、「野蛮」で「排外的」なものであることを明らかにし、「家族」から主要国の現状と未来を分析する。

毎日新聞 2022/12/10、毎日新聞 2022/12/17、毎日新聞 2022/12/24

2022:10./ 316p
978-4-16-391612-5
¥2,420〔税込〕



ゴールデンボーイ～恐怖の四季 春夏編～ 改版(新潮文庫 キ-3-12)

スティーヴン・キング 著
新潮社
毎日新聞 2022/12/17

2010:8./ 507p
978-4-10-219312-9
¥990〔税込〕



昭和天皇拝謁記～初代宮内庁長官田島道治の記録～<1> 拝謁記

田島 道治、古川 隆久、茶谷 誠一、富永 望、瀬畑 源、河西 秀哉、舟橋 正真、NHK 著
岩波書店

昭和天皇の生々しい肉声が明かされる。連合国軍による占領から独立回復に至るまで、初代宮内庁長官田島道治によって書きとめられた、現代史の第一級史料。1は、昭和24年2月～25年9月の拝謁記を収録。

毎日新聞 2022/12/17

2021:12./ 19p,281p
978-4-00-026591-1
¥3,300〔税込〕



地中海と人間～原始・古代から現代まで～<1> 原始・古代から14世紀

デイヴィッド・アブラフィア 著
藤原書店

異なる文化的背景をもつ人々の交流と異文化接触の場としての地中海に焦点を当て、地中海の長大な歴史の変化とその変化をもたらした人々の活動を描く。1は原始・古代～14世紀を収録。カラー図版も多数収録。

毎日新聞 2022/12/17

2021:11./ 532p 図版20p
978-4-86578-329-2
¥4,840〔税込〕





地中海と人間～原始・古代から現代まで～<2> 14世紀から現代

デイヴィッド・アブラフィア 著

藤原書店

異なる文化的背景をもつ人々の交流と異文化接触の場としての地中海に焦点を当て、地中海の長大な歴史の変化とその変化をもたらした人々の活動を描く。2は14世紀～現代を収録。著者の2017年来日講演も特別掲載。

2021.11./ p535～1030

図版 12p

978-4-86578-330-8

¥4,840〔税込〕



毎日新聞 2022/12/17



昭和天皇拝謁記～初代宮内庁長官田島道治の記録～<2> 拝謁記

田島 道治、古川 隆久、茶谷 誠一、富永 望、瀬畑 源、河西 秀哉、舟橋 正真、NHK 著

岩波書店

昭和天皇の生々しい肉声が明かされる。連合国軍による占領から独立回復に至るまで、初代宮内庁長官田島道治によって書きとめられた、現代史の第一級史料。2は、昭和25年10月～26年10月の拝謁記を収録。

2022.2./ 9p,291p

978-4-00-026592-8

¥3,300〔税込〕



毎日新聞 2022/12/17



平安京の下級官人(講談社現代新書 2649)

倉本 一宏 著

講談社

叶わなかった任官の望み、天皇の食膳を怠ける官人、内裏の杜撰な警備、平安京を襲った疫病…。古記録をひもとき、さまざまな視座や視点から、平安京に生きた下級官人「下衆」や庶民「下人」の実態に迫る。

2022.1./ 270p

978-4-06-527031-8

¥1,034〔税込〕



毎日新聞 2022/12/17



ウィットゲンシュタイン『哲学探究』という戦い

野矢 茂樹 著

岩波書店

断片的な考察を連ねているように見える特異なスタイルのため、難解で知られるウィットゲンシュタインの主著「哲学探究」。長年の研究を踏まえ、現代哲学に巨大な影響を与えた著作の全貌を解き明かす。

2022.2./ 15p,342p,8p

978-4-00-024063-5

¥2,860〔税込〕



毎日新聞 2022/12/17



無月の譜

松浦 寿輝 著

毎日新聞出版

戦死した天才駒師が遺した傑作はどこへ？ 棋士の夢破れた青年が、再起をかけてその行方を追う！ 幻の将棋駒をめぐる希望と再生の物語。『毎日新聞』連載を単行本化。

2022.3./ 461p

978-4-620-10856-8

¥2,420〔税込〕



毎日新聞 2022/12/17



満洲国グランドホテル

平山周吉 著

芸術新聞社

ニキミスケ(東条英機、星野直樹、松岡洋右、岸信介、鮎川義介)だけで満洲は語れない。既存の満洲国イメージを覆す、満洲の土を踏んだ日本人の奇妙にして、真剣なる「昭和史」物語。芸術新聞社ウェブサイト連載を書籍化。

毎日新聞 2022/12/17

2022:4./ 565p
978-4-87586-639-8

¥3,850〔税込〕



あの胸が岬のように遠かった～河野裕子との青春～

永田 和宏 著

新潮社

熱く、性急で、誠実でありたくて、傷つけあった。未公開日記と手紙 300 通から初めて明かされる、歌人夫婦・河野裕子と永田和宏の蒼き愛の物語。『波』連載を改題し単行本化。

毎日新聞 2022/12/17

2022:3./ 312p
978-4-10-332642-7

¥1,870〔税込〕



生きつづける民家～保存と再生の建築史～(歴史文化ライブラリー 548)

中村 琢巳 著

吉川弘文館

庶民の住宅=民家は、いかにして今日まで受け継がれてきたのか。メンテナンスを繰り返し、部材がリサイクルされる民家の特性を解明し、間取りや構造、自然素材、伝統技術などからも、秘められた価値を見つめ直す。

毎日新聞 2022/12/17

2022:5./ 8p,243p
978-4-642-05948-0

¥1,980〔税込〕



日本新劇全史<第3巻> 昭和四十一年～昭和六十四年

大笹 吉雄 著

白水社

非商業的な方向の中で、創作劇か翻訳劇かを問わず、「劇」という芸術形式に対する革新を持続的に目指す演劇「新劇」の通史。第3巻は、小劇場運動が活性化し、社会現象ともなった昭和41年～64年の新たな演劇の息吹を記す。

毎日新聞 2022/12/17

2022:11./ 870p,53p
978-4-560-09426-6

¥41,800〔税込〕



イメージの記憶～危機のしるし～

田中 純 著

東京大学出版会

世界に溢れ続けるイメージは喫緊の思想的・文化的テーマである。像=イメージを行為主体と捉えるプレーデカンブによる像行為論の可能性を検討しつつ、独自の論理へと至る論考を集成。『UP』ほか掲載に書き下ろしを加える。

毎日新聞 2022/12/17

2022:5./ 6p,314p,33p
978-4-13-010152-3

¥4,730〔税込〕





昭和天皇拝謁記～初代宮内庁長官田島道治の記録～<3> 拝謁記

田島 道治、古川 隆久、茶谷 誠一、富永 望、瀬畑 源、河西 秀哉、舟橋 正真、NHK 著
岩波書店

昭和天皇の生々しい肉声が明かされる。連合国軍による占領から独立回復に至るまで、初代宮内庁長官田島道治によって書きとめられた、現代史の第一級史料。3 は、昭和 26 年 11 月～27 年 6 月の拝謁記を収録。

毎日新聞 2022/12/17

2022:4./ 9p,303p
978-4-00-026593-5
¥3,300〔税込〕



朝日新聞政治部

鮫島 浩 著
講談社

朝日新聞はどこで、何を間違えたのか？ 崩壊する大新聞の中核で何が起きていたのか？「吉田調書事件」の当事者となった元エース記者が、登場人物すべてを実名で綴る内部告発ノンフィクション。

毎日新聞 2022/12/17

2022:5./ 303p
978-4-06-528034-8
¥1,980〔税込〕



子育て世代のための快適移住マニュアル～知っておきたい、田舎でできる仕事・お金・子育て・地域のおつきあい～

金丸 知弘 著
誠文堂新光社

東京から和歌山の山奥の村に、妻と娘の 3 人で移住した著者が、自身の快適移住ライフや移住前に知っておきたいこと、失敗しない移住の手続きとお金について解説。田舎暮らしを楽しむ達人たちのケースも紹介する。

毎日新聞 2022/12/17

2022:5./ 223p
978-4-416-52210-3
¥1,760〔税込〕



稀書探訪

鹿島 茂 著
平凡社

19 世紀ロマン主義時代のイラストレーターによる挿絵本、地誌・風俗画、風刺画の入った新聞、モードのグラフィック資料…。近代ヨーロッパの稀少な書籍や資料の魅力を紹介する。ANA の機内誌『翼の王国』連載を書籍化。

毎日新聞 2022/12/17

2022:5./ 331p
978-4-582-83899-2
¥4,400〔税込〕



スリナム産昆虫変態図譜～1726 年版～

マリーア・ズィピラ・メーリアン 著
鳥影社

生物画を芸術の域まで高め、昆虫学の先駆者となった、350 年前の「虫愛づる姫君」メーリアン。チョウやガを中心とする南米スリナム産の昆虫の変態の過程を、その食餌である植物とともに描いた図と解説を収録する。

毎日新聞 2022/12/17

2022:7./ 181p
978-4-86265-915-6
¥35,200〔税込〕





限界ニュータウン～荒廃する超郊外に分譲地～

吉川 祐介 著

太郎次郎社エディタス

家より多い空き地、崩れた家屋、公園という名の雑木林。かつてそこは発売即完売の分譲住宅地だった。「限界ニュータウン」を訪ね歩きつづける著者が、その誕生から現状をたどり、利活用と未来を考える。

毎日新聞 2022/12/17

2022:10./ 239p
978-4-8118-0850-5

¥1,980〔税込〕



読書会という幸福(岩波新書 新赤版 1932)

向井 和美 著

岩波書店

全員が同じ作品を読んで語り合う会に 30 年近く途切れることなく参加してきた著者が、その「魂の交流の場」への想いを味わい深い文章で綴る。ほかの読書会への潜入ルポ、読書会課題本リストなども収録。

毎日新聞 2022/12/17

2022:6./ 13p,225p,11p
978-4-00-431932-0

¥946〔税込〕



昭和天皇拝謁記～初代宮内庁長官田島道治の記録～<4> 拝謁記

瀬畑 源、河西 秀哉、舟橋 正真、NHK、田島 道治、古川 隆久、茶谷 誠一、富永 望 著

岩波書店

昭和天皇の生々しい肉声が明かされる。連合国軍による占領から独立回復に至るまで、初代宮内庁長官田島道治によって書きとめられた、現代史の第一級史料。4 は、昭和 27 年 7 月～28 年 4 月の拝謁記を収録。

毎日新聞 2022/12/17

2022:6./ 9p,297p
978-4-00-026594-2

¥3,300〔税込〕



「ハイテク専制」国家・中国～内側からの警告～

王 力雄／王 柯 著

藤原書店

国民 1 人当たり 2 台近い大量の監視カメラ、メディアおよびネットの統制、警察権力の濫用にもとづく言論・行動の支配の数々、そして民族主義の扇動による「戦狼外交」と少数民族弾圧。中国の「今」を激論した往復書簡。

毎日新聞 2022/12/17

2022:6./ 241p
978-4-86578-348-3

¥2,420〔税込〕



凜として灯る

荒井裕樹 著

現代書館

「モナ・リザ」にスプレーを噴射したウーマン・リブの運動家、米津知子。女として、障害者として、差別の被害と加害の狭間を彷徨い、その苦しみを「わたしごと」として生きるひとりの輝きの足跡。テキストデータ請求券付き。

毎日新聞 2022/12/17

2022:6./ 238p
978-4-7684-3592-2

¥1,980〔税込〕





ポータブル・フォークナー

マルカム・カウリー 編

ウィリアム・フォークナー 著

河出書房新社

20 世紀アメリカを代表する作家ウィリアム・フォークナー。彼が作り上げた架空の地「ミシシッピ州ヨクナパトーフア郡」を舞台にした諸作品を作品内時間の年代順に収録。作家をノーベル賞に導いた奇跡の作品集の全訳。

毎日新聞 2022/12/17

2022:9./ 859p
978-4-309-20860-2

¥6,490〔税込〕



科学史から消された女性たち〜アカデミー下の知と創造性〜 改訂新版

ロンダ シービンガー 著

工作舎

物理学者のエミリ・デュ・シャトレ、昆虫学者のマリア・シビラ・メリアン…。アカデミーから排除されながらも、後世に残る仕事を残した才気あふれる女性たちに光を当て、科学の価値中立神話をジェンダーの視点から突き崩す。

毎日新聞 2022/12/17

2022:9./ 411p
978-4-87502-544-3

¥4,180〔税込〕



シンクロと自由(シリーズケアをひらく)

村瀬 孝生 著

医学書院

人としての時と場を失ってしまったのは、認知症のお年寄りではなく我々であるように思えてくる。老いと向きあう居場所づくりに取り組む著者が、自由と不自由が絡み合ったふしぎな話を綴る。テキストデータ引換券付き。

毎日新聞 2022/12/17

2022:7./ 285p
978-4-260-05051-7

¥2,200〔税込〕



李良枝セレクション

温 又柔 編

李 良枝 著

白水社

日本と韓国、2つの「母国」の間で揺れ惑う個人の苦悩と葛藤を文学に昇華した作家、李良枝。「由熙」「除籍謄本」など、未来に託した小説とエッセイ全7編を収録。李良枝年譜も掲載する。

毎日新聞 2022/12/17

2022:9./ 443p
978-4-560-09454-9

¥3,190〔税込〕



台北野球倶楽部の殺人

唐 嘉邦 著

文藝春秋

日本統治下の台湾。野球愛好家の集まり「球見会」の会員2名が殺された。その頃、台湾球界の逸材・大下弘を巡ってスカウト合戦が繰り広げられていた。果たして事件の動機は-。台湾人と日本人の刑事コンピが難事件に挑む!

毎日新聞 2022/12/17

2022:8./ 255p
978-4-16-391586-9

¥1,760〔税込〕





昭和天皇拝謁記～初代宮内庁長官田島道治の記録～<5> 拝謁記

田島 道治、古川 隆久、茶谷 誠一、富永 望、瀬畑 源、河西 秀哉、舟橋 正真、NHK 著
岩波書店

昭和天皇の生々しい肉声が明かされる。連合国軍による占領から独立回復に至るまで、初代宮内庁長官田島道治によって書きとめられた、現代史の第一級史料。5 は、昭和 28 年 5 月～28 年 12 月の拝謁記を収録。

毎日新聞 2022/12/17

2022:8./ 9p,320p
978-4-00-026595-9
¥3,300〔税込〕



必殺シリーズ秘史～50 年目の告白録～

高鳥 都 著
リットーミュージック

50 周年を迎えた「必殺」シリーズの初期の現場スタッフを中心に徹底取材。若きスタッフたちの情熱、緒形拳、藤田まことをはじめとする俳優陣の挑戦、殺しのテクニックや名匠たちの演出術などを深掘りしたインタビュー集。

毎日新聞 2022/12/17

2022:9./ 383p
978-4-8456-3804-8
¥2,750〔税込〕



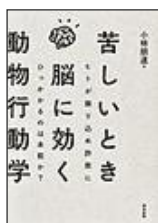
ラヴェンナ～ヨーロッパを生んだ帝都の歴史～

ジュディス・ヘリン 著
白水社

中世キリスト教世界の成立に決定的な役割を果たした都、ラヴェンナ。その 4～9 世紀の盛衰を、主要な人物と美術の分析を交えて描く。カラー図版も多数収録。

毎日新聞 2022/12/17

2022:9./ 450p,102p 図
版 32p
978-4-560-09450-1
¥9,570〔税込〕



苦しいとき脳に効く動物行動学～ヒトが振り込め詐欺にひっかかるのは本能か?～

小林朋道 著
築地書館

もし、現代が 100 人の狩猟採集生活を送る集団だったなら、振り込め詐欺にひっかからない人は生き残っていないだろう。生きにくさの正体を動物行動学の視点から読み解き、生き延びるための道を示唆する。

毎日新聞 2022/12/17

2022:11./ 160p
978-4-8067-1643-3
¥1,760〔税込〕



20XX 年のパンデミック～致死感染と闘いから考える未知のパンデミックへの備え～(DOJIN 選書 95)

浦島 充佳 著
化学同人

未知の感染症パンデミックの可能性を仮想シナリオとして提示し、日本と世界の対応をシミュレートする。また、過去のパンデミックに対する医師・研究者たちの闘いを振り返り、「パンデミック X」への備えの重要性を説く。

毎日新聞 2022/12/17

2022:11./ 252p
978-4-7598-2090-4
¥2,090〔税込〕





不死鳥と鏡(論創海外ミステリ 288)

アヴラム・デイヴィッドスン 著

論創社

古代ナポリの地下水路を彷徨う魔術師・ヴァージル。奇妙な冒険の行く先に待ち受けるのは永遠なる生命の秘密か、運命の女性か、それともフェニックスの狡猾な罠か？アヴラム・デイヴィッドスンの長編を初邦訳。

毎日新聞 2022/12/17

2022:9./ 305p
978-4-8460-2151-1
¥3,520〔税込〕



ナイチンゲール～「空気感染」対策の母～

向野 賢治 著

藤原書店

ナイチンゲールがクリミアで傷病兵たちの劣悪な環境を改善し、劇的に治療効果を高めたポイントとは何だったのか。感染制御医の視点からナイチンゲールの先駆性に新しい光を当てる。『ナーシング・キャンパス』連載を単行本化。

毎日新聞 2022/12/17

2022:10./ 264p
978-4-86578-363-6
¥2,970〔税込〕



東京の創発的アーバニズム～横丁・雑居ビル・高架下建築・暗渠ストリート・低層密集地域～

ホルヘ・アルマザン+Studiolab 著

学芸出版社

東京の特徴的な都市パターンである横丁、雑居ビル、高架下建築などを洗練されたビジュアルとともに考察。東京独自の歴史と現在の強みの両方の観点から、東京の未来について企業主導アーバニズムとは別の方向性を提示する。

毎日新聞 2022/12/17

2022:10./ 223p
978-4-7615-2830-0
¥2,640〔税込〕



欧米の隅々～市河晴子紀行文集～

高遠弘美 編

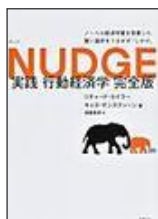
市河 晴子 著

素粒社

渋沢栄一の孫にして、稀代の文章家であった市河晴子。その代表的著作「欧米の隅々」「米国の旅・日本の旅」より一部を精選。激動の世界を巡った女性の、弾むような、いきいきとした旅の記録。注・解説・年譜・著作目録も収録。

毎日新聞 2022/12/17

2022:10./ 397p
978-4-910413-08-2
¥2,420〔税込〕



実践行動経済学 完全版

リチャード・セイラー、キャス・サンスティーン 著

日経BP社

ノーベル経済学賞を受賞したセイラー教授の代表作である、行動経済学の入門書。強制や禁止をせずに本人の「よりよい選択」を後押しする“使える”経済学を、わかりやすく解説する。

毎日新聞 2022/12/17

2022:11./ 462p
978-4-296-00098-2
¥2,530〔税込〕





いただきますの山〜昆虫食ガール 狩猟女子 里山移住の成長記録〜

束元理恵 著

ミチコーポレーション

虫を料理し、イノシシを獲り、パンを焼く。幼稚園教諭を挫折し、猟師になった著者が、自然・生き物への愛情と、複雑な若者の気持ちを、ちょっと変わった食生活とともにみずみずしく描く。『中国新聞』連載を書籍化。

毎日新聞 2022/12/17

2022:11./ 285p
978-4-9903150-8-5

¥1,650〔税込〕



徳川家康と武田信玄(角川選書 664)

平山 優 著

KADOKAWA

若き家康が直面した「どうする?」の決断には、つねに大国武田との攻防があった。両者はいつ互いの存在を意識し、なぜ手を結び、ついには手切れとなったのか。息詰まる駆け引きと命運を分けた戦いの真相を明らかにする。

毎日新聞 2022/12/17

2022:11./ 347p
978-4-04-703712-0

¥1,980〔税込〕



亜鉛の少年たち〜アフガン帰還兵の証言〜 増補版

スヴェトラナ・アレクシエヴィチ 著

岩波書店

「国際友好の義務を果たす」という政府の方針でアフガニスタンへ送り出されたソ連の若者たちは、亜鉛の棺に納められて帰国し、生きて戻った者も鉛のような心を抱えて苦しんでいた…。帰還兵、戦没者の家族らの肉声を綴る。

毎日新聞 2022/12/17、読売新聞 2022/12/25

2022:6./ 7p,434p
978-4-00-061303-3

¥3,520〔税込〕



老年の読書(新潮選書)

前田 速夫 著

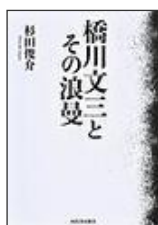
新潮社

読まずに死ねない本がある。キケロやモンテーニュから古井由吉、山田風太郎まで、文芸誌の元編集長が、内外の名著から、より善く老いるための箴言を厳選して懇切にガイドする。

毎日新聞 2022/12/17、読売新聞 2022/12/25

2022:9./ 271p
978-4-10-603876-1

¥1,650〔税込〕



橋川文三とその浪漫

杉田 俊介 著

河出書房新社

近代の瓦礫をかき分け続けた思想家・橋川文三が、泥まみれの悪戦苦闘によって見つけたものとは何だったのか? 保田與重郎、丸山眞男、柳田国男、三島由紀夫との対決を通じ、その思想の生成と核心に迫る。

毎日新聞 2022/12/17、日本経済新聞 2022/12/24

2022:4./ 487p,14p
978-4-309-23115-0

¥4,290〔税込〕





世界インフレの謎(講談社現代新書 2679)

渡辺 努 著

講談社

グローバリズムが反転しはじめ、物価と経済の在り方が激変する! そして、日本だけが苦しむ「2つの病」とは? 物価理論の第一人者が世界インフレという難問に格闘しながら、その核心を徹底考察する。

2022:10./ 269p
978-4-06-529438-3

¥990〔税込〕



毎日新聞 2022/12/17、日本経済新聞 2022/12/24



ぼくはウーバーで捻挫し、山でシカと闘い、水俣で泣いた

斎藤 幸平 著

KADOKAWA

うちに閉じこもらずに、他者に出会うことが、「想像力欠乏症」を治すための方法である。統計やデータからは見えない、現場の「声」から未来を考える。『毎日新聞』掲載に書き下ろしを加え書籍化。

2022:11./ 220p
978-4-04-400715-7

¥1,650〔税込〕



毎日新聞 2022/12/17、毎日新聞 2022/12/24



エマニュエル・トッドの冒険

石崎 晴己 著

藤原書店

ソ連崩壊、アメリカ衰退、アラブの春...。現代世界に関する数々の予言をしてきたフランスの歴史人口学者・家族人類学者、エマニュエル・トッド。主要著作の邦訳を手がけてきた石崎晴己が、トッドの波乱に満ちた冒険を跡付ける。

2022:11./ 608p 図版 8
枚

978-4-86578-364-3

¥4,840〔税込〕



毎日新聞 2022/12/17、毎日新聞 2022/12/24

万葉集～全訳注 原文付～<1>(講談社文庫)

中西 進 著

講談社

中西進 『万葉集』は日本人の心の古典であり、貴族から庶民に至る各階層が、見事に謳いあげた、世界に比類なき民族詩の金字塔である。いま、その万葉を、原典との照応が一目理解できるよう、原文、読み下し文、全訳、語注をそろえ、万葉学の第一人者である中西進博士がその蘊蓄を傾けて贈る。

1978:1./ 426p
978-4-06-131382-8

¥759〔税込〕



毎日新聞 2022/12/24



ラグジュアリー産業～急成長の秘密～

ピエール＝イヴ・ドンゼ 著

有斐閣

ラグジュアリー産業の成長を担ったヨーロッパのコングロマリット企業は、何を競争優位とし、どのように世界市場を支配したか。市場が急速に拡大した40年のダイナミクスを描き出す。

2022:10./ 6p,270p
978-4-641-16604-2

¥3,190〔税込〕



毎日新聞 2022/12/24



ヴィンテージ・ピアニストの魅力

青柳 いづみこ 著

アルテスパブリッシング

齢を重ねてなお輝きをますピアニストたち。なぜ彼らは、体力・記憶力の衰えにもめげず、演奏活動を継続させることができたのか。長寿ピアニスト 40 人を紹介しつつ、息の長い活動の秘訣をさぐる。『音遊人』連載を大幅加筆。

毎日新聞 2022/12/24

2022:9./ 219p
978-4-86559-264-1

¥2,200〔税込〕



ひどい民話を語る会

京極 夏彦、多田 克己、村上 健司、黒 史郎 著

KADOKAWA

なぜ「桃太郎」のお婆さんは川へ洗濯に行ったのか？ メジャーな昔話の陰には数々の「ひどい民話」が埋もれている。民話と妖怪を愛好する面々が、知られざる民話の世界を語る。イベント「ひどい民話を語る会」等を基に書籍化。

毎日新聞 2022/12/24

2022:10./ 173p
978-4-04-112327-0

¥1,650〔税込〕



シベリアのビートルズ〜イルクーツクで暮らす〜

多田 麻美 著

亜紀書房

ソ連時代、ロック少年だった画家と結婚し、シベリアに暮らし始めて 5 年。そこに暮らす人々は破天荒でやけくそに明るくて…。イルクーツクの人々の本音や生き方に寄り添う、海外事情エッセイ集。

毎日新聞 2022/12/24

2022:10./ 207p
978-4-7505-1769-8

¥1,980〔税込〕



民主主義の経済学〜社会変革のための思考法〜

北村 周平 著

日経 B P 社

近年目覚ましく発展している「新しい政治経済学」によって、民主主義を分析。選挙を中心に政治経済学の代表的なモデルと、それに関連する実証研究を紹介する。

毎日新聞 2022/12/24

2022:12./ 356p
978-4-296-00134-7

¥2,640〔税込〕



花びらとその他の不穏な物語

グアダルーベ・ネッテル 著

現代書館

現代メキシコを代表する女性作家グアダルーベ・ネッテルの短編集。まぶたに魅了されたカメラマンを描いた「眼瞼下垂」をはじめ、他人に言えない習慣や強烈なる思い込み、奇妙な癖を手放せない人々の物語を 6 編収録する。

毎日新聞 2022/12/24

2022:12./ 141p
978-4-7684-5931-7

¥2,200〔税込〕





全部を賭けない恋がはじまれば

稲田 万里 著

サンクチュアリ・パブリッシング（サンクチュアリ出版）

恋、仕事、友人、家族。淡々と生きてきたつもりが、導かれるように出会い、巻き込まれていき…。ほのかに揺れる心と理不尽で理解の追いつかない状況を、冷静にも芳醇に切り取る女性「コスモ・オナン」の 18 の物語。

2022:10./ 185p
978-4-8014-9261-5
¥1,980〔税込〕



毎日新聞 2022/12/24



目撃者たちの記憶～1964-2021～

毎日新聞写真部 OB 会 著

大空出版

2度の東京五輪、あさま山荘事件、日航ジャンボ機墜落事故、雲仙普賢岳火砕流災害、東日本大震災…。カメラマンは何を見てどう行動したのか？ 1964年から2021年まで、数々の写真とともに綴った毎日新聞の写真部史。

2022:11./ 271p
978-4-86748-005-2
¥2,420〔税込〕



毎日新聞 2022/12/24